

令和 2 年度

新入生の生活に関する調査報告書

令和 3 年 3 月

お茶の水女子大学

はじめに

この報告書は、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センターが平成 23 年度から実施している「新入学生（学部）とその保護者を対象に実施した調査」の令和 2 年度版です。

調査の目的は、学生本人および保護者の大学へのニーズを明らかにすることによって、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に行うための基礎資料とすることであり、新入学生およびその保護者を調査対象として実施してきました。調査内容は、出身高校、家族、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待（入学生調査）、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待（保護者調査）などであります。

この調査は、学生の保護者を対象とした学内で唯一の公的調査として位置づけられており、大学としてより充実した学生生活を支援する上での貴重な資料として活用させていただいております。

末筆となりますが、本調査にご協力してくださった本年度新入学生とその保護者の皆さまに心から感謝申し上げます。

令和 3 年 3 月 吉日

国立大学法人 お茶の水女子大学
理事
学生・キャリア支援センター長
三浦 徹

令和 2 年度新入生調査報告書のポイント

1. 新入生の 87.3%は「お茶大を第一志望」として入学しており、例年同様高い（p.9）
 - ・生活科学部の第一志望度は 95.6%で、平成 31 年度より 3.9 ポイント上昇
2. 「大学の授業」を頑張ろうとする割合は非常に高いが、「授業や単位」への不安もある（p.13）
 - ・この 1 年で頑張ろうと思う活動（複数回答）は、「大学の授業」99.8%と高いが、「授業についていけるか」を心配する割合は 78.8%で平成 31 年度より約 3 ポイント上昇。「留学」は 38.4%と昨年に続き上昇傾向
3. 卒業後の進路希望は、理学部では進学、文教育学部・生活科学部では民間企業就職が多い（p.18）
 - ・卒業後の進路希望（複数回答）は、「民間企業に就職する」55.9%、「大学院などに進学する（海外含む）」48.4%、「公務員」28.9%、「教師など専門職」21.2%
4. 実家から通学する学生は 57.4%、仕送りがない予定の学生は減少、10 万円以上の仕送り者は 34.4%で昨年並み（p.11～12）
 - ・賃貸アパートやマンション居住 30.4%、国際学生宿舍 14.5%、お茶大 SCC は 9.7%
 - ・「仕送りはない」学生は 5%（平成 31 年度より 3.6 ポイント減）
5. 大学への期待が高い学生支援は、学生・保護者とも「就職支援」（p.18, p.33）
 - ・大学の学生支援活動への期待（複数回答）は、「就職支援」に期待する人が 77.6%と最も多く、次いで「進路相談」63.8%。保護者調査でも「就職支援」への期待は 85.0%と高い

目次

調査の概要	3
第1章 「新入生調査」の結果	5
(1) 出身高校	5
(2) 家族構成	7
(3) これまでの進路選択や学生生活	8
(4) 大学入学後の生活の予定	10
(5) 将来の進路	18
第2章 「新入生の保護者調査」の結果	25
(1) 家庭の暮らし向き	25
(2) 親の職業・学歴	28
(3) 大学生活の不安・心配事・学生支援活動への期待	31
第3章 新入生および保護者調査の結果 ―奨学金・学生寮に関するクロス集計―	35
(1) 問題・目的	35
(2) 奨学金に関する結果	35
(3) 学生寮に関する結果	47
(4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較	57
第4章 高校時代進路選択の分析結果	61
第5章 考察および今後の課題	69
(1) 令和2年度新入生の特徴と考察	69
(2) 奨学金と学生寮に関する考察	70
(3) 学生・キャリア支援における課題	71

付表

1. 調査票（新入生調査）	72
2. 調査票（保護者調査）	82
3. 基礎集計表（新入生調査）	88
4. 基礎集計表（保護者調査）	94
5. 追加質問票自由記述集計（新入生調査）	97

執筆担当者

三浦 徹	（理事、学生・キャリア支援センター センター長） 担当：はじめに
大風 薫	（学生・キャリア支援センター 准教授） 担当：1章、2章、5章（1）（3）、
田姫（TIAN Yuan）	（学生・キャリア支援センター アソシエイトフェロー） 担当：調査の概要、3章、4章、5章（2）、付表3、付表4、付表5

調査の概要

- **目的：**

入学を予定している学生の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的とし、次の4点から構成される。

1. 新入生の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を、入学時から行うための情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定し、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭・進路などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

- **調査時期：**2020年3月

- **調査方法：**

質問紙調査票の郵送による送付・返送である。一般入試合格者および保護者に対しては、他の入学手続関係書類に調査票および調査票返送用封筒を同封し、他の書類とともに回答の返送を依頼した。その他の選考による合格者および保護者には、別途、調査票および調査返送用封筒を送付し、返送を求めた。

- **分析対象：**

回答をいただいたが、調査データの使用許可を得ることができなかった回答者を分析対象者から除いた。よって対象者は、令和2年度学部入学者401名、保護者394名である。但し、無回答・非該当の場合など、調査項目によって、サンプル数に多少の違いがある。各章を参照のこと。調査別の詳細は以下の通りである。

1. 「新入生を対象とした調査（新入生調査）」

令和2年度学部入学者466名。有効回答数401名（入学者のうち86.0%）。

学部別内訳 文教育学部 179名（入学者のうち86.9%）

理学部 108名（同83.0%）

生活科学部 114名（同87.7%）

学部不明 1名

2. 「新入生の保護者を対象とした調査（新入生保護者調査）」

令和2年度学部入学生の保護者466名。有効回答数394名（入学者のうち84.5%）。

- **実施主体：**国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

- **個人情報について：**

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努め、学内の倫理審査も受けている。（詳細は、<http://www.ocha.ac.jp/about/individual.html> 参照）

調査票は、大学で付けたID番号で管理をし、回答者の氏名や住所などは記載せずに回答・返送を求めた。

参考文献

- ベネッセ教育研究開発センター（2009）
「第1回 大学生の学習・生活実態調査報告書[2008年]」
<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=3161>
- 日本学生支援機構（2020）
「平成30年度 学生生活調査」
http://www.jasso.go.jp/statistics/gakusei_chosa/12.html
- お茶の水女子大学（2019）
「平成31 新入生の生活に関する調査報告書」
- お茶の水女子大学（2018）
「平成30年度 新入生の生活に関する調査報告書」
- 全国大学生調査コンソーシアム/東京大学 大学経営・政策研究センター（2008）
「全国大学生調査 第一次～第三次調査 基礎集計表」
http://ump.p.u-tokyo.ac.jp/crump/resource/kiso2008_01.pdf
- 全国大学生協働組合連合会（2019）「第55回 学生生活実態調査の概要報告」
<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report55.html>
- 全国大学生協働組合連合会（2020）「平成30年度 学生生活調査結果」
https://www.jasso.go.jp/about/statistics/gakusei_chosa/__icsFiles/afieldfile/2020/03/16/data18_all.pdf

第1章 「新入生調査」の結果

第1章では、新入生401名に対する分析結果について報告する。学部別の内訳は、文教育学部179名、理学部108名、生活科学部114名である。

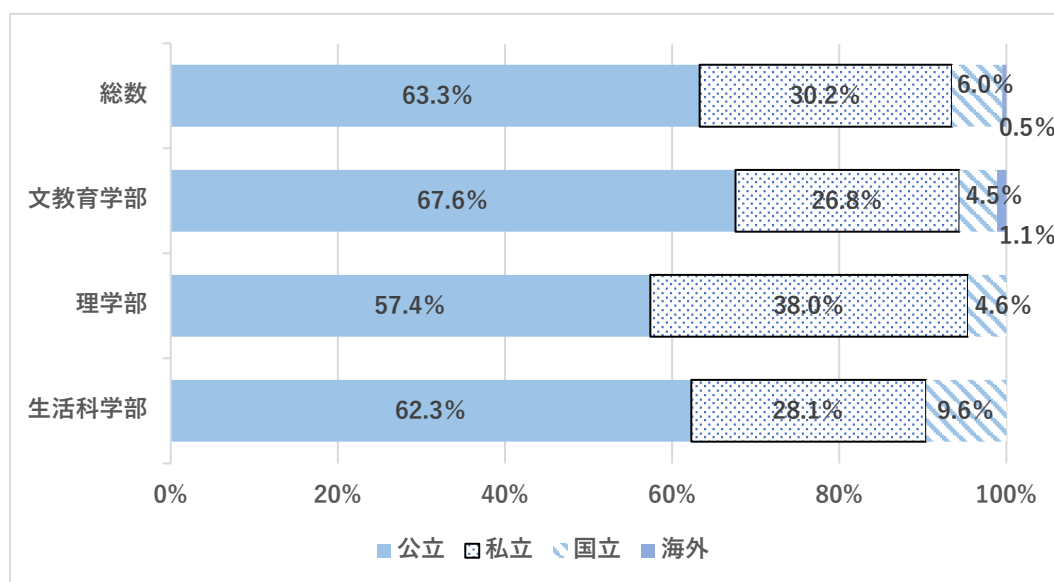
(1) 出身高校

はじめに出身高校について①設置者、②種類、③学科を示す。図表では新入生全体と学部別の内訳を示した。

① 設置者

図表1-1に出身高校の設置者についての結果を示す。出身高校の設置者について「国立」「公立」「私立」「海外」「高等学校卒業程度認定試験（高卒認定）」から選択してもらい回答を得た。

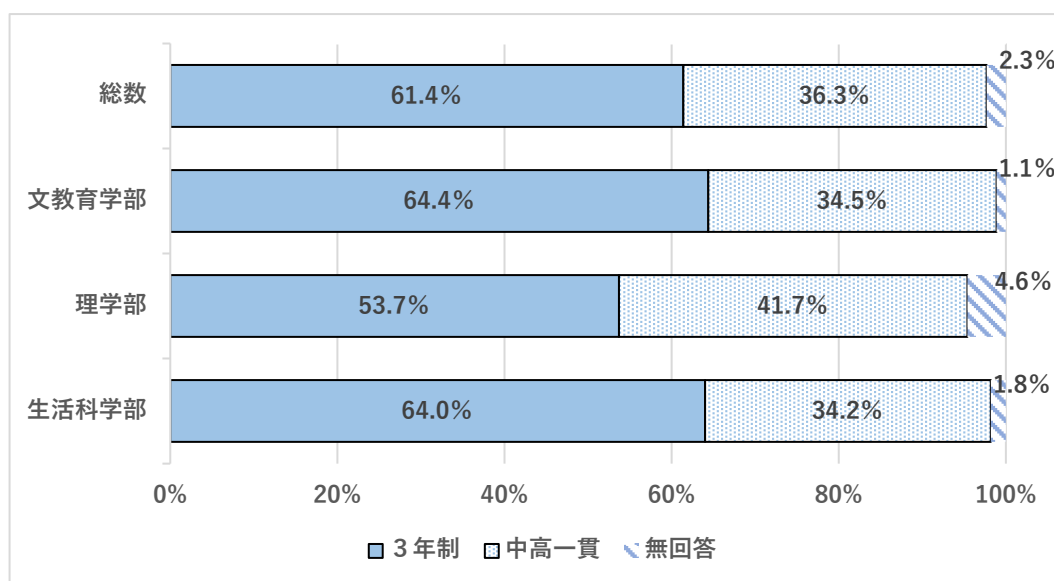
全体では、「公立」63.3%、「私立」30.2%、「国立」6.0%、「海外」0.5%であった（高卒認定はなし）。学部別では、文教育学部・生活科学部は「公立」の割合が高く（それぞれ67.6%、62.3%）、理学部は「私立」の割合が高い（38.0%）。過去2年と比較して「公立」の割合が高くなっているが、学部による設置者の特徴は過年度の結果と同様であった。



図表 1-1 出身高校の設置者

② 種類

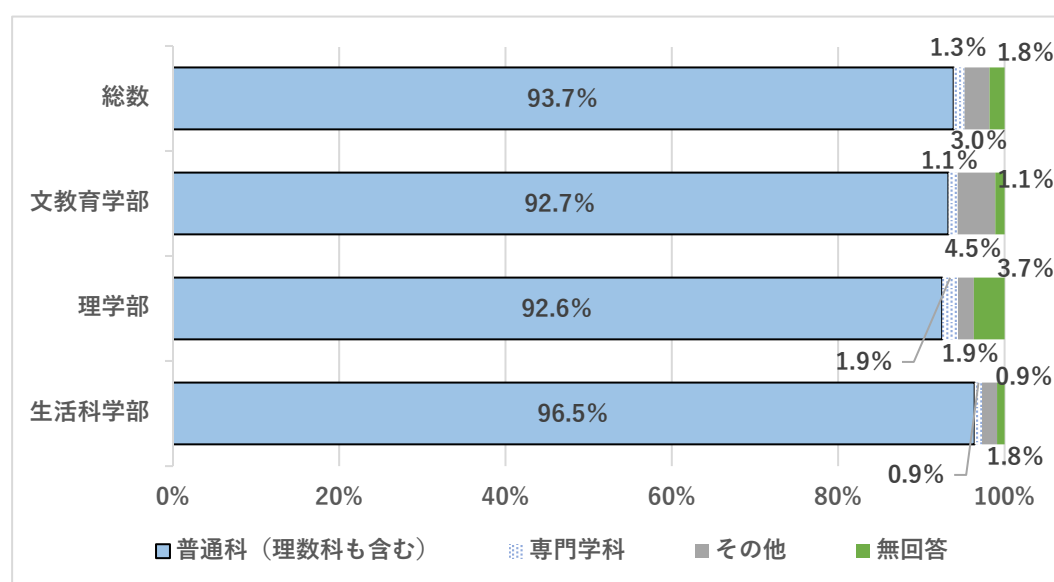
図表1-2に出身高校の種類について、「3年制」「中高一貫」の別に示す。全体では、「3年制」が61.4%、「中高一貫」36.3%で平成31年度と大きな違いはない。文教育学部・生活科学部は3年制が多く、理学部では中高一貫が多いという学部の特徴についても、平成30年度・平成31年度と同様の傾向であった。



図表 1-2 出身高校の種類

③ 学科

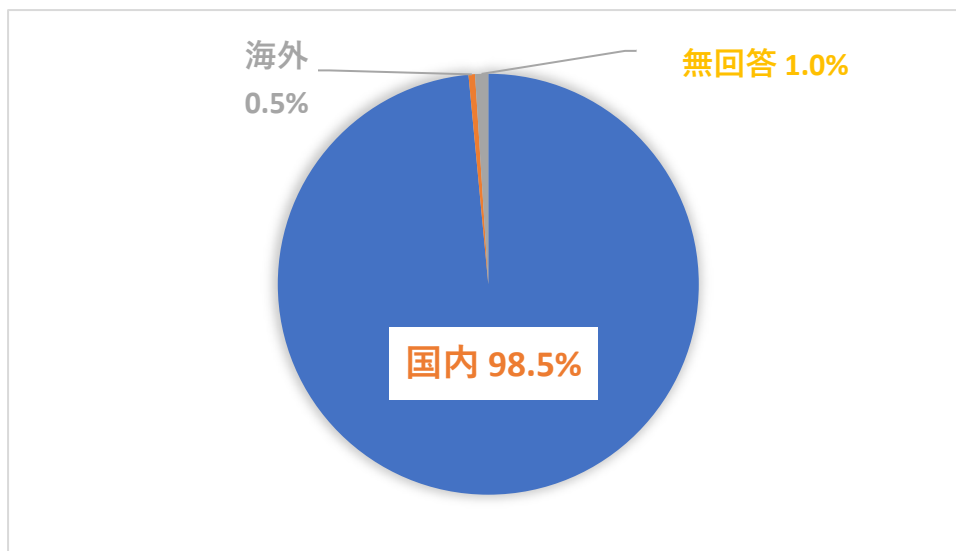
図表 1-3 に出身高校の学科を「普通科（理数科も含む）」「専門学科（商業・工業、家庭、農業科など）」「その他」別に示す（調査票では「総合学科」の選択肢も設けたが、文教育学部でのみ 0.6% の出現率であったため表には記していない）。全体の 93.7% が「普通科」であり、学部間での差異はない。この傾向は、過年度においても同様であった。



図表 1-3 出身高校の学科

④ 出身高校の所在地

図表 1-4 に出身高校の所在地を「国内」「海外」別に示す。全体の 98.5% が「国内」であり、これは、全学部で、また過年度とも同様の傾向であった。



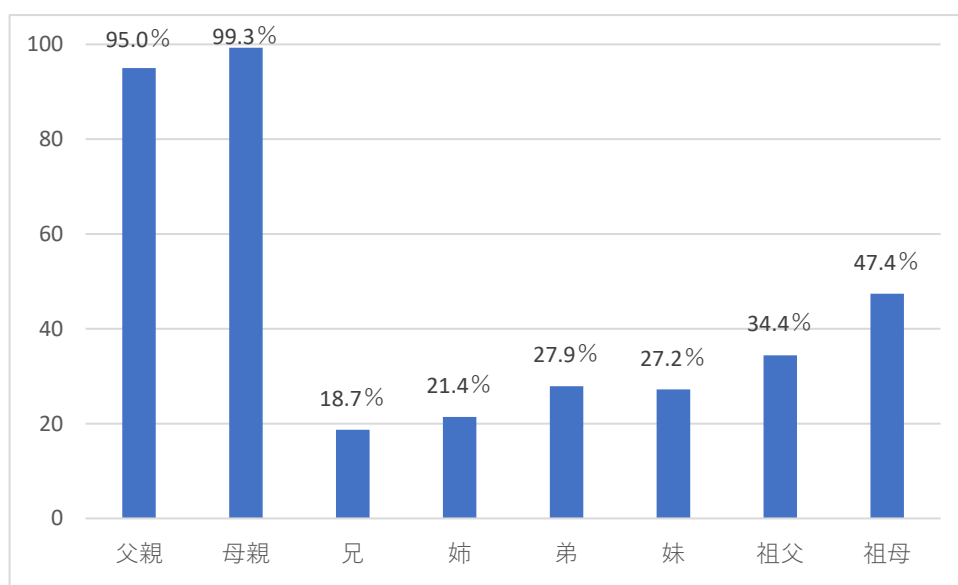
図表 1-4 出身高校の所在地

(2) 家族構成

新入生の家族構成について、①家族構成、②きょうだい数について示す。

① 家族の構成

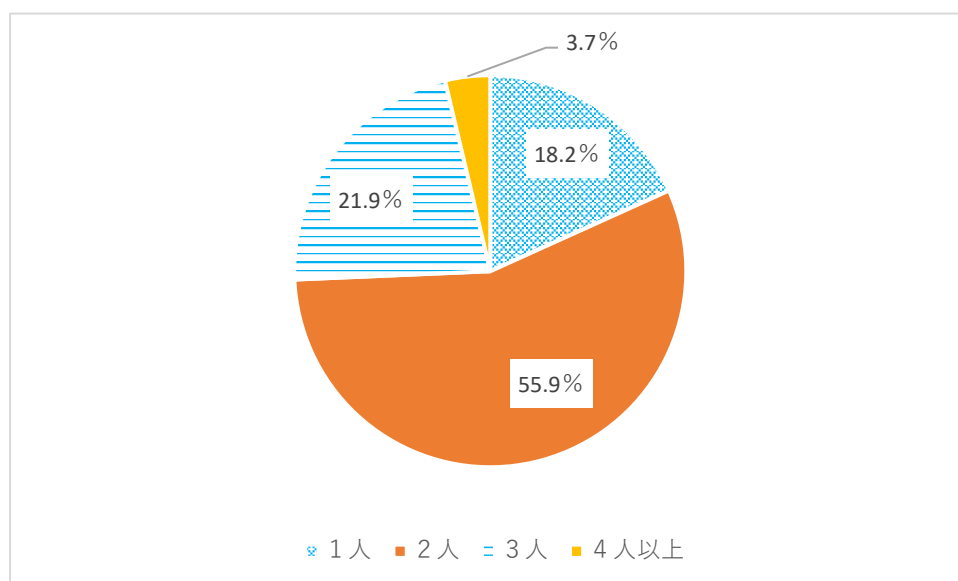
図表 2-1 に新入生の家族構成に関する結果を示す。同居を問わず家族構成について、複数選択可として回答を得た。家族の構成について、平成 30 年度や平成 31 年度からの変化は見られない。



図表 2-1 家族構成

② きょうだい数

図表 2-2 は自分を含めたきょうだい数を尋ねた結果である。2 人きょうだいの割合が最も高く (55.9%)、3 人きょうだいも 21.9%である。この傾向も例年と同様であった。



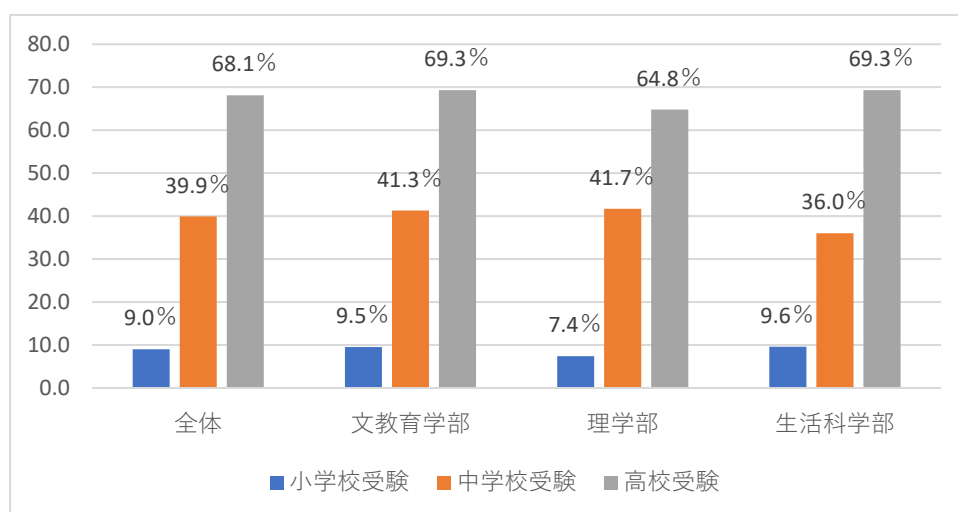
図表 2-2 自分を含めたきょうだい数

(3) これまでの進路選択や学生生活

本節では、新入生のこれまでの進路選択や学生生活について、①これまでの受験経験、②本学の受験を決めた時期、③本学の志望の度合い、④高校卒業から現在までの間に経験したことについて示す。

① これまでの受験経験

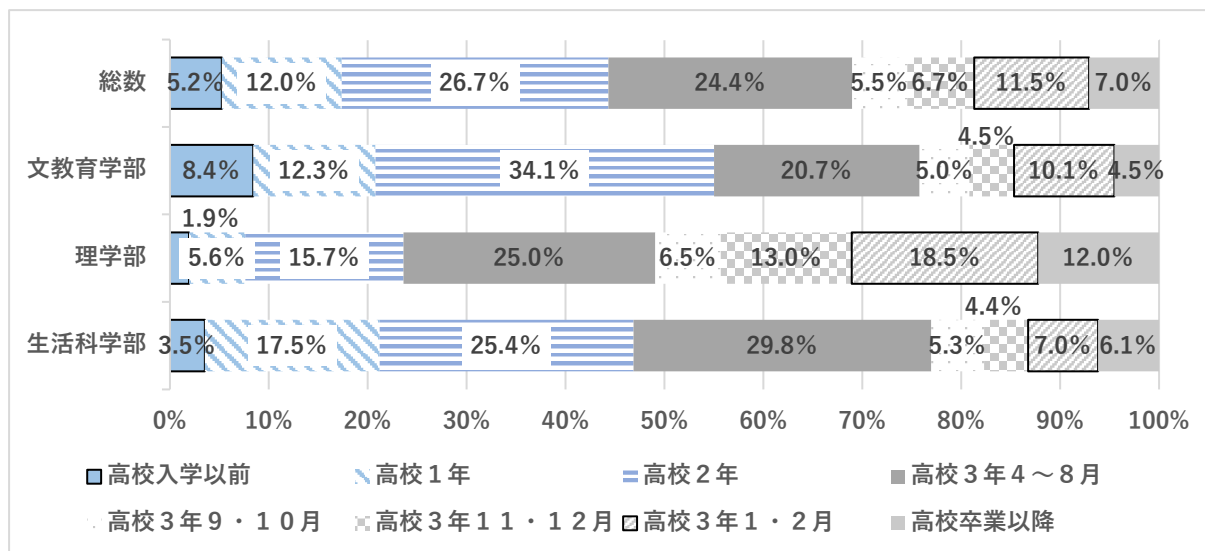
図表 3-1 は、これまでの受験経験について尋ねた結果である。全体の 9.0%が小学校受験を、39.9%が中学受験を、68.1%が高校受験を経験していた。この傾向は平成 31 年度および平成 30 年度においても同様であった。「第 1 回 大学生の学習・生活実態調査」における全国の大学生の中学受験経験率 18.8%、高校受験経験率 86.3%（ベネッセ教育研究開発センター 2009, p.41）との比較では、例年と同様に、本学の新入生の中学受験経験率は高い方に、高校受験経験率は低い方に偏る傾向が見られる。



図表 3-1 これまでの受験の経験

② 本学の受験を決めた時期

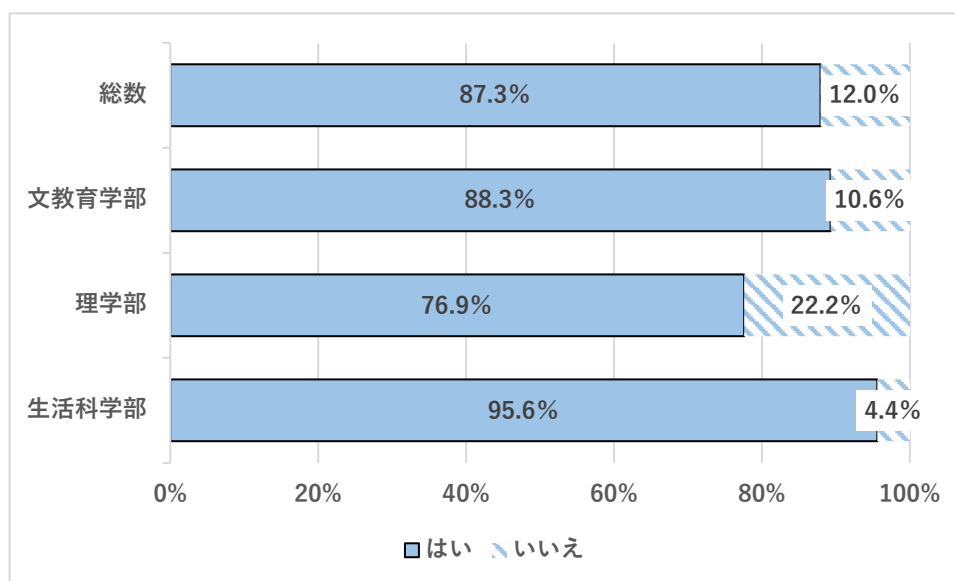
本学の受験を決めた時期について、その時期を尋ねた結果が図表 3-2 である。全体では「高校 2 年」26.7%および「高校 3 年 4～8 月」24.4%が高く、この傾向は例年と同様である。学部別では、理学部において「高校 3 年 1・2 月」「高校卒業以降」の割合が高い傾向も例年と同様である。



図表 3-2 本学の受験を決めた時期

③ 本学の志望の度合い

図表 3-3 に、受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねた結果を示す。全体でみると 87.3%の新入生が本学を第一志望としており、平成 31 年度と同様に依然として高い。学部別には、文教育学部において変化はないが、生活科学部の第一志望度が上昇し（平成 31 年度 91.7%）、理学部の志望度がやや低下した（平成 31 年度 81.3%）。ただし数年間のトレンドを見ると、志望度において大きな変化は生じていないようである。

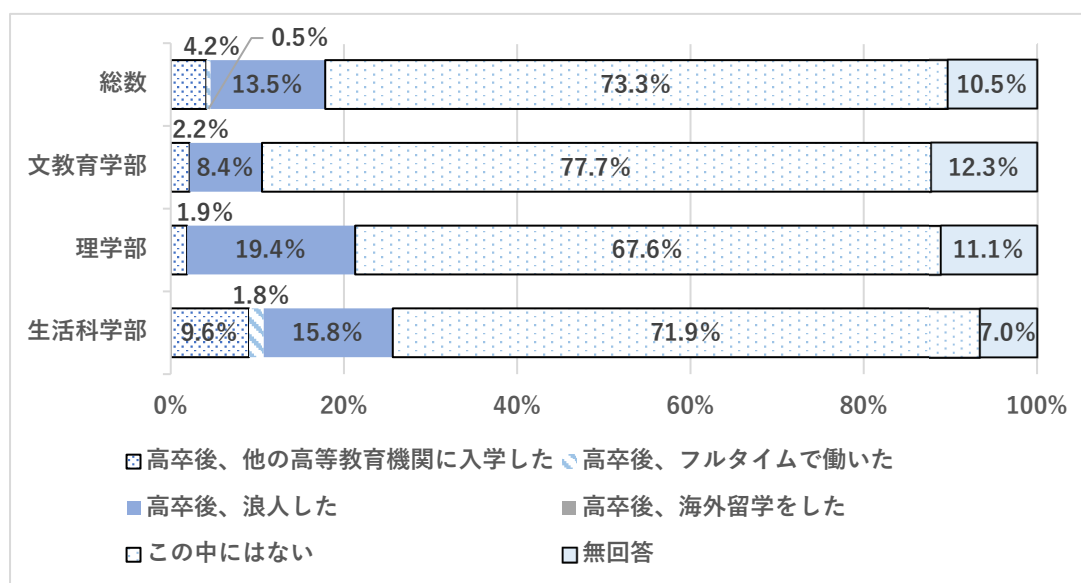


図表 3-3 本学の第一志望の度合い

④ 高校卒業から現在までの間に経験したこと

高校卒業から現在までに経験したことについて、「大学生の学習・生活実態調査」（ベネッセ教育開発センター 2009）を参考に、複数回答可として尋ねた結果が図表 3-4 である。

過年度と同様「この中にはない」が全体の 73.3%と最も高かったが、平成 31 年度に比べて「浪人」の割合が減少し、「高卒後、他の高等教育機関に入学した」の割合がやや上昇した。各学部における浪人の割合は、文教育学部が相対的に低く、理学部および生活科学部が高いという傾向は平成 30 年度・平成 31 年度も同様である。また今年度の新入生においても平成 30 年度・平成 31 年度と同様に、高校卒業から調査時点までの間に海外留学をしたものはいなかった。



図表 3-4 高校卒業から現在までの間に経験したこと

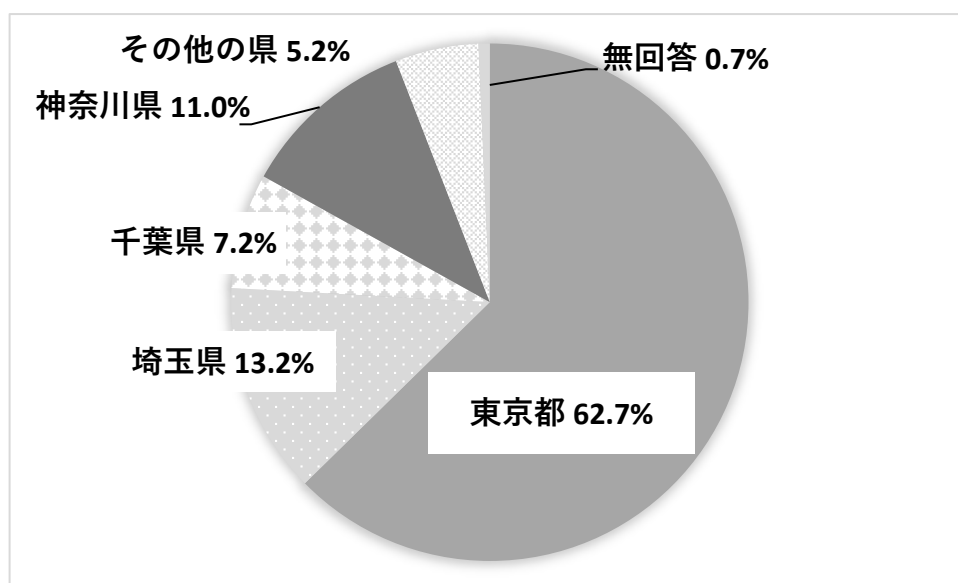
(4) 大学入学後の生活の予定

本節では、新入生の大学入学後の生活の予定に関する分析結果を示す。

調査項目は、①大学入学後に居住予定の都道府県、②大学入学後の住居の予定、③1 か月の家賃の予算、④1 か月あたりの仕送り予定金額、⑤大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動、⑥アルバイト活動の予定、⑦授業料の負担予定、⑧大学生活での不安・心配事、⑨本学の学生支援活動への期待についてである。

① 大学入学後に居住予定の都道府県

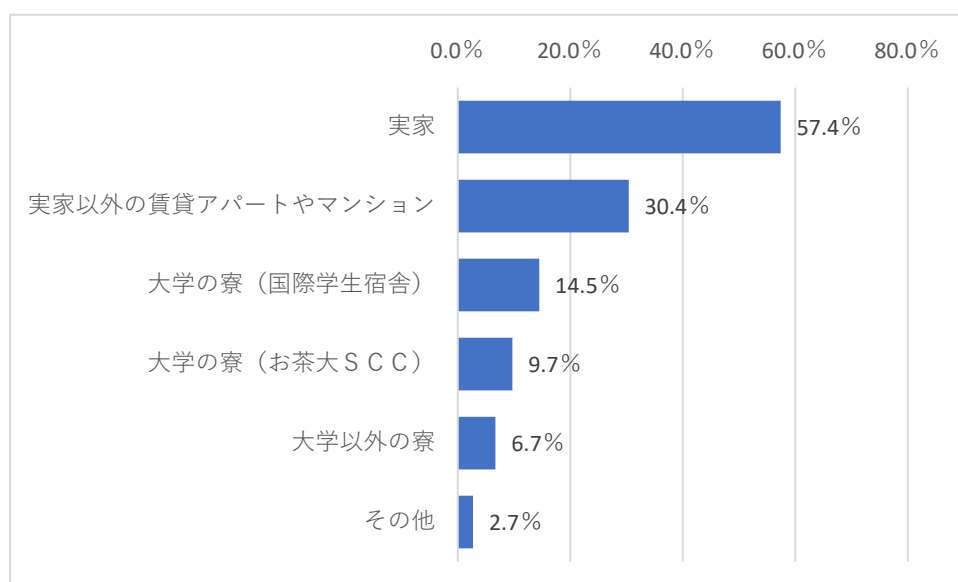
図表 4-1 に大学入学後に居住予定の都道府県について示す。全体では、東京都が 62.7%と最も高く、埼玉県、神奈川県、千葉県と続く。この傾向は例年と同様ある。



図表 4-1 大学入学後に居住予定の都道府県

② 大学入学後の住居の予定

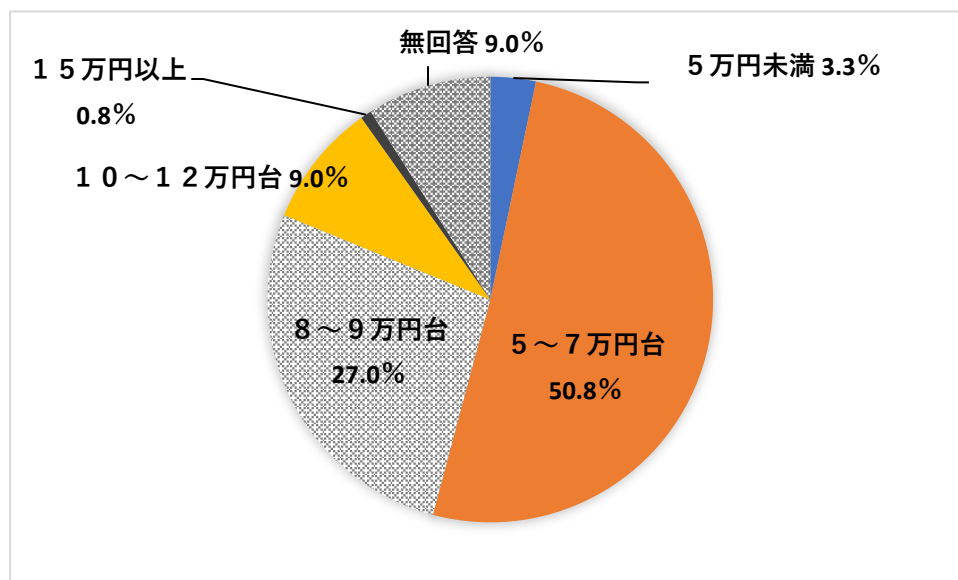
図表 4-2 は、大学入学後に予定している住居について、複数回答可として尋ねた結果である。全体では「実家」が 57.4%を占め、次いで「賃貸アパートやマンション」30.4%、「国際学生宿舎」14.5%、「お茶大 SCC」9.7%といった学生寮が続き、過年度と同様である。図表には示していないが、理学部は平成 31 年度と同様に、実家の比率が 65.7%と文教育学部や生活科学部に比べて高い。



図表 4-2 大学入学後に予定している住居

③ 1か月の家賃（管理費込み）の予算

図表 4-3 は、1 か月の家賃（管理費込み）の予算（千円未満は四捨五入）について、「賃貸アパートやマンション」に居住予定の者に尋ねた結果である¹。例年と同様に「5～7 万円」が 50.8%と最も多く、「8～9 万円」27.0%と続き、両カテゴリーを合わせると約 8 割の学生が 1 か月の家賃として 5～9 万円を予定していることがわかる。平成 31 年度と比較すると「5 万円未満」が 7.8 ポイント低下し「5～7 万円」の割合が 3.7 ポイント上昇していた。



図表 4-3 1か月の家賃（管理費込み）の予算

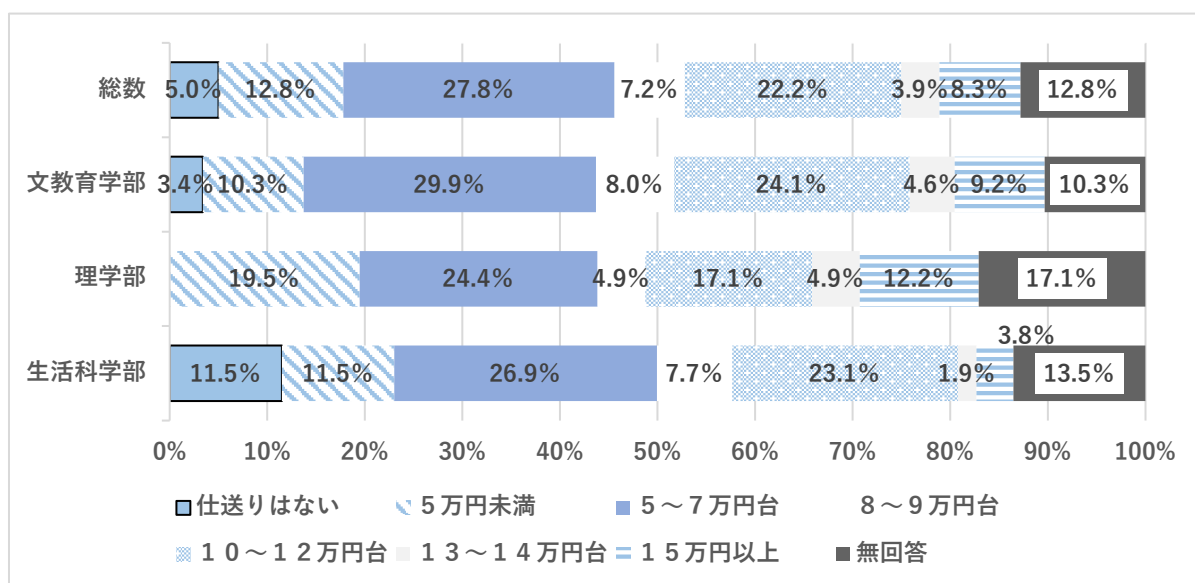
④ 1か月あたりの仕送り予定金額

図表 4-4 は、1 か月あたりの仕送り予定額（万円未満は四捨五入）について、「実家」以外に居住予定の者に尋ねた結果である²。「5～7 万円台」が 27.8%と最も多く、次に「10～12 万円」22.2%となっており、例年と同様である。しかし、学部による分布を見ると、生活科学部は「仕送りがない」割合が 11.5%と高い一方で、10～12 万円の割合も 23.1%と高く、学生間に格差があるようだ。

なお「第 55 回 学生生活実態調査の概要報告」（全国大学生生活協同組合連合会 2020）によれば、下宿生のうち、仕送り金額が 5～10 万円の学生の割合は 33.4%、仕送り 10 万円以上は 27.9%、仕送り 0 の割合は 7.1%、5 万円未満は 16.3%となっており、仕送り 5 万円未満が緩やかに上昇している。この調査との比較において、本学学生の仕送り金額は、全国の大学生の平均的な水準よりもやや多いようである。また、本調査は仕送り予定金額を尋ねたものであるため、コロナ禍における実際の仕送り額とは差異が生じている可能性もあるだろう。

¹ 本分析の対象者数は 180 名である。

² 本分析の対象者数は 180 名である。

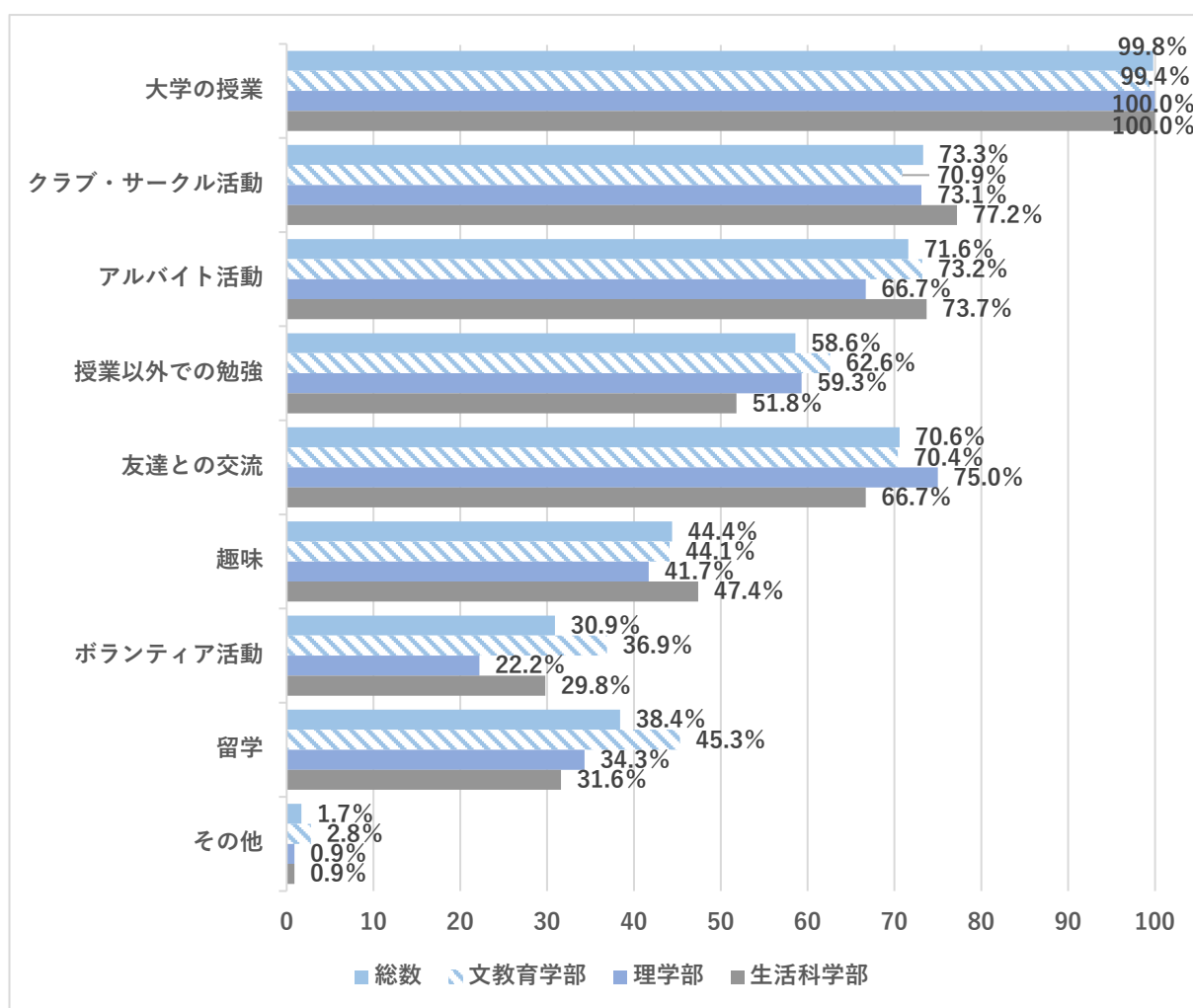


図表 4-4 1 か月あたりの仕送り予定額

⑤ 大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動

図表 4-5 に、入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動について、複数回答可として尋ねた結果を示す。「大学の授業」が99.8%とどの学部でも例年通り最も高い。続いて、「クラブ・サークル活動」73.3%、「アルバイト活動」が71.6%、「友達との交流」70.6%であり、これらの傾向も過年度と同様である。

また、平成29年度の調査から加えた「留学」は、平成29年度が25.2%、平成30年度は35.4%、平成31年度も36.3%、令和2年度38.4%と上昇傾向にある。ボランティア活動も平成30年度から3割を超えている。留学やボランティア活動については、特に文教育学部の割合が高い。理学部では友達との交流が、生活科学部ではクラブ・サークル活動、アルバイト活動、趣味の回答割合が他学部より高くなっている。

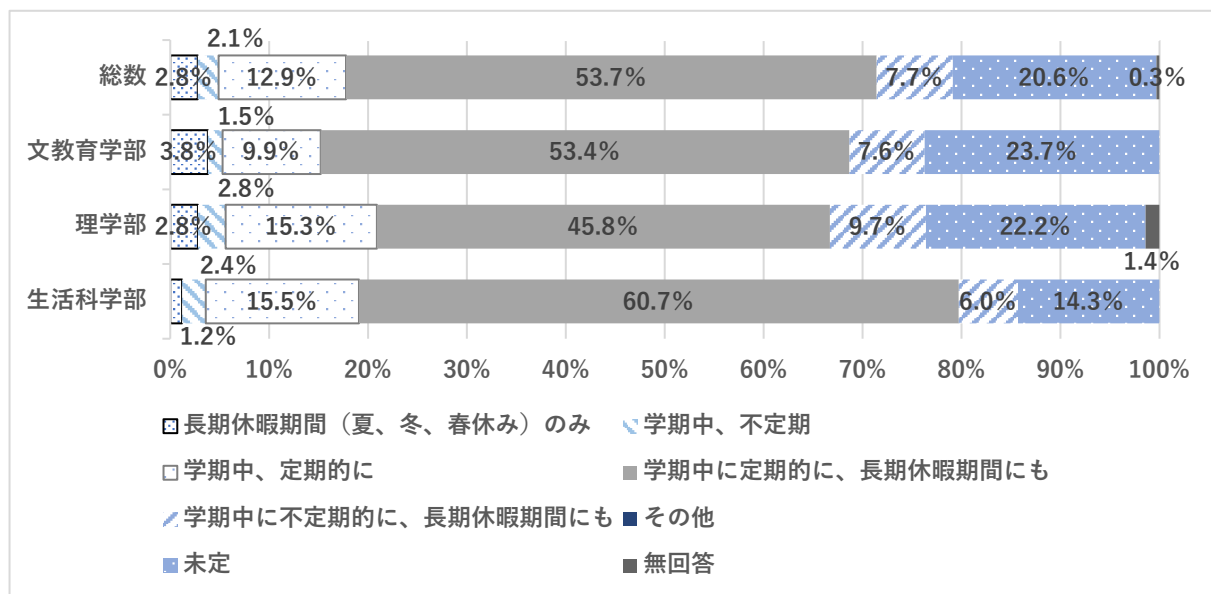


図表 4-5 大学に入学後、特にこの 1 年で頑張ろうと思う活動

⑥ アルバイト活動の予定

図表 4-6 は、入学後にアルバイト活動を予定している者に対して、具体的な活動時期や仕方を尋ねた結果である³。最も多いのは「学期中に定期的に、長期休暇期間にも」53.7%であり、「学期中に定期的に」12.9%と合わせると 66.6%である。この傾向は平成 30 年度・平成 31 年度も同様であった。学部別では、生活科学部が定期的なアルバイトを予定する割合が高いが理学部では低く、文教育学部・理学部は未定である割合が高かった。

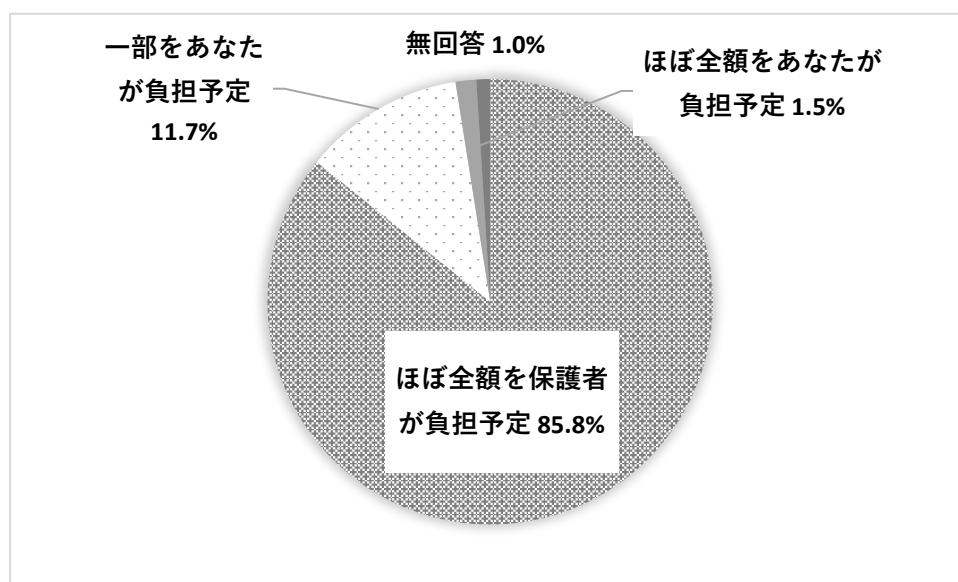
³ 本分析の対象者数は 287 名である。



図表 4-6 アルバイト活動をする予定の時期や頻度

⑦ 授業料の負担予定

図表 4-7 は、授業料の負担予定について尋ねた結果である。「ほぼ全額を保護者が負担予定」が 85.8%と高く、平成 31 年度比で約 3 ポイント上昇した。同時に、「ほぼ全額をあなた(学生)が負担予定」の割合が 1.5%と、平成 30 年度・平成 31 年度に比べて減少した。学生の負担については、奨学金、アルバイトを含めて回答を得ている。



図表 4-7 授業料の負担予定

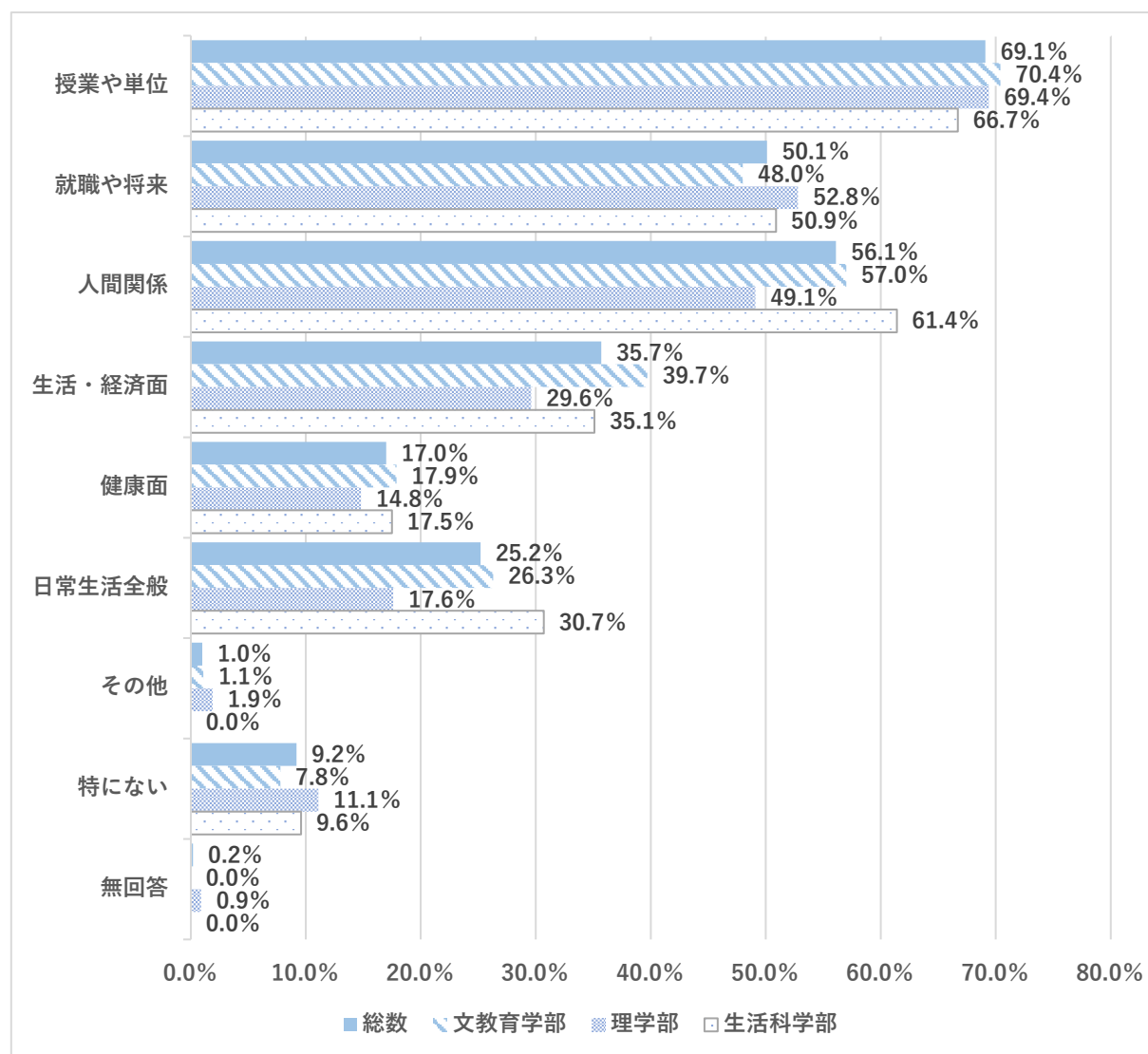
⑧ 大学生活での不安・心配事

図表 4-8 は、全国大学生生活協同組合連合会が実施している「保護者に聞く新入生調査」の調査項目を参考に、大学生活が始まって心配なことについて複数回答可として尋ねた結果である。

最も高い割合を示したのは「授業や単位」69.1%で、「人間関係」56.1%、「就職や将来」50.1%が

続く。上位3項目の内容は平成30年度・平成31年度と同様だが、「就職や将来」を不安・心配に感じる割合は10ポイント程度低下している。これら3つの項目以外のその他項目についても例年と同様の結果であった。「特にない」の回答割合は平成31年度に比べて2ポイント低下した。

学部別では、文教育学部で「生活・経済面」の割合が高く、生活科学部では「人間関係」「日常生活全般」の割合が高い。例年は理学部で「授業や単位」の割合が高くなる傾向があるが、令和2年度は文教育学部のほうがやや高かった。



図表 4-8 大学生活が始まって心配なこと

さらに図表 4-9 は大学入学後の不安・心配事に対する今の気持ちについて尋ねた結果を示す。今の気持ちは「あてはまる」「ある程度あてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4件法で尋ねているが、本分析は「あてはまる」と「ある程度あてはまる」を統合した割合を項目別・学部別に示す。

まず「友達ができるか」については全体で69.9%があてはまると回答している。これは平成31年度と同程度である。他の項目を同様に見てみよう。「大学になじめるか」を不安に思う割合は67.1%、全体で約7割であり、昨年度と同様に高い。生活科学部で大学になじめるかを不安に思う

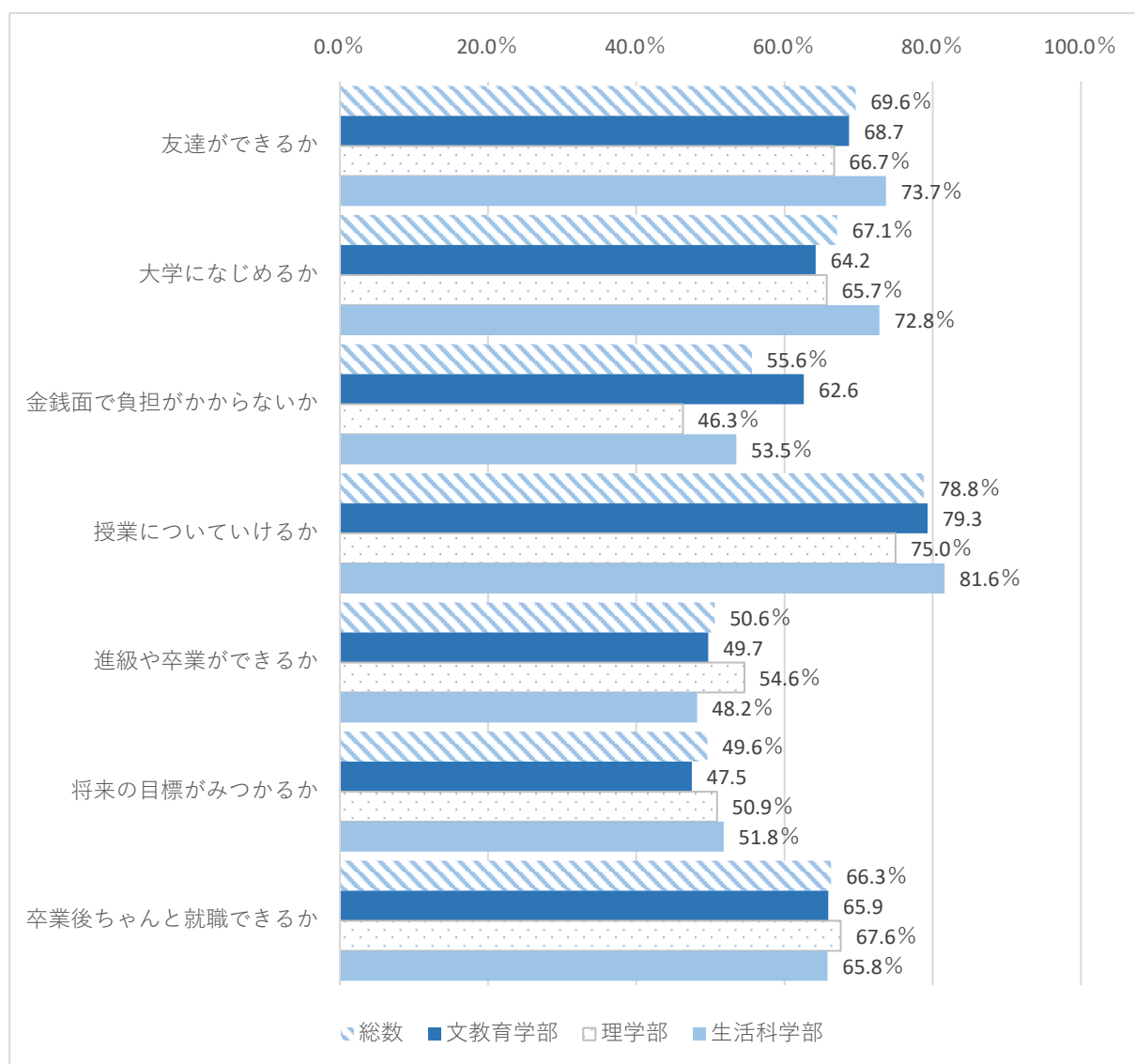
割合が高くなっている。

「金銭面で負担がかからないか」は全体 55.6%で、理学部は例年と同様に低い。

「授業についていけるか」については 8 割近い割合となっており、平成 31 年度よりも約 3 ポイント高く、調査したすべての項目の中で最も高かった。授業についていけるかをもっとも不安に感じているのは生活科学部で 81.6%である。

「進級や卒業ができるか」については 50.6%で、理学部がもっとも高いが、平成 31 年度よりも 3.5 ポイント低い。「将来の目標が見つかるか」は 49.6%で、平成 31 年度の約 6 割より 10 ポイント程度低下し、特に理学部は昨年度に比べて 18.6 ポイント低くなっている。「卒業後ちゃんと就職できるか」は 66.3%で、学部間の大きな差異はなかった。

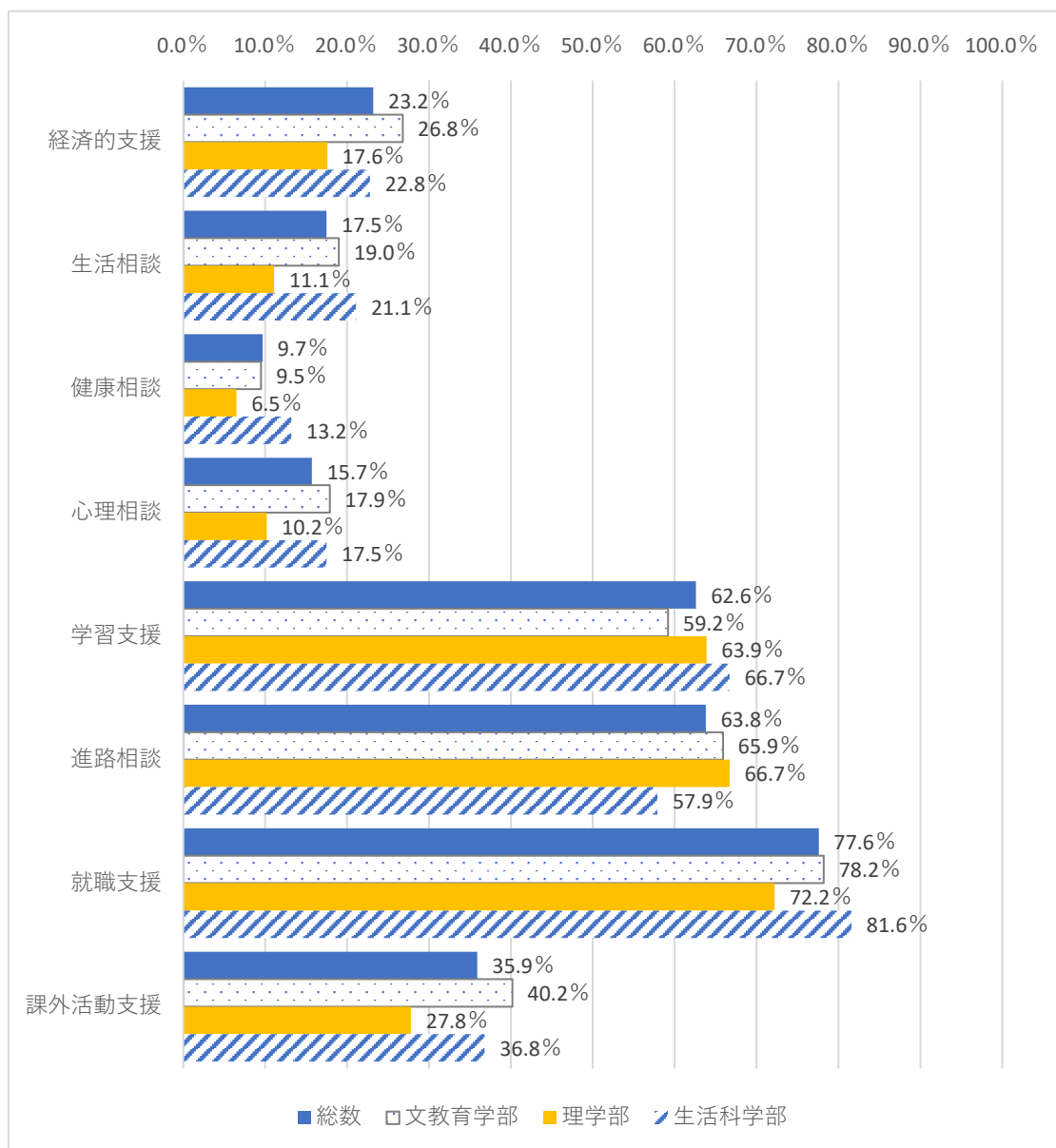
以上の通り、大学生活での不安・心配ごとについては「将来の目標が見つかるか」をのぞくいずれの項目においても半数以上の新入生は不安を抱えているおり、特に、授業についていけるかどうかについて心配している。学部別では、文教育学部で金銭面の負担への不安が 62.68%と高く、生活科学部は授業、友達、大学へなじめるかについて高い不安が示された。



図表 4-9 大学生活での不安・心配事

⑨ 本学の学生支援活動への期待

図表 4-10 は、本学の学生支援活動に期待することについて、複数回答可として尋ねた結果である。全体では「就職支援」が例年と同様に 77.6%と最も高く、次いで「進路相談」63.8%、「学習支援」62.6%となっている。学部別では、理学部が「進路相談」「学習支援」の割合が高く、文教育学部と生活科学部は「就職支援」が高いことも例年と同じ傾向であった。



図表 4-10 本学の学生支援活動への期待

(5) 将来の進路

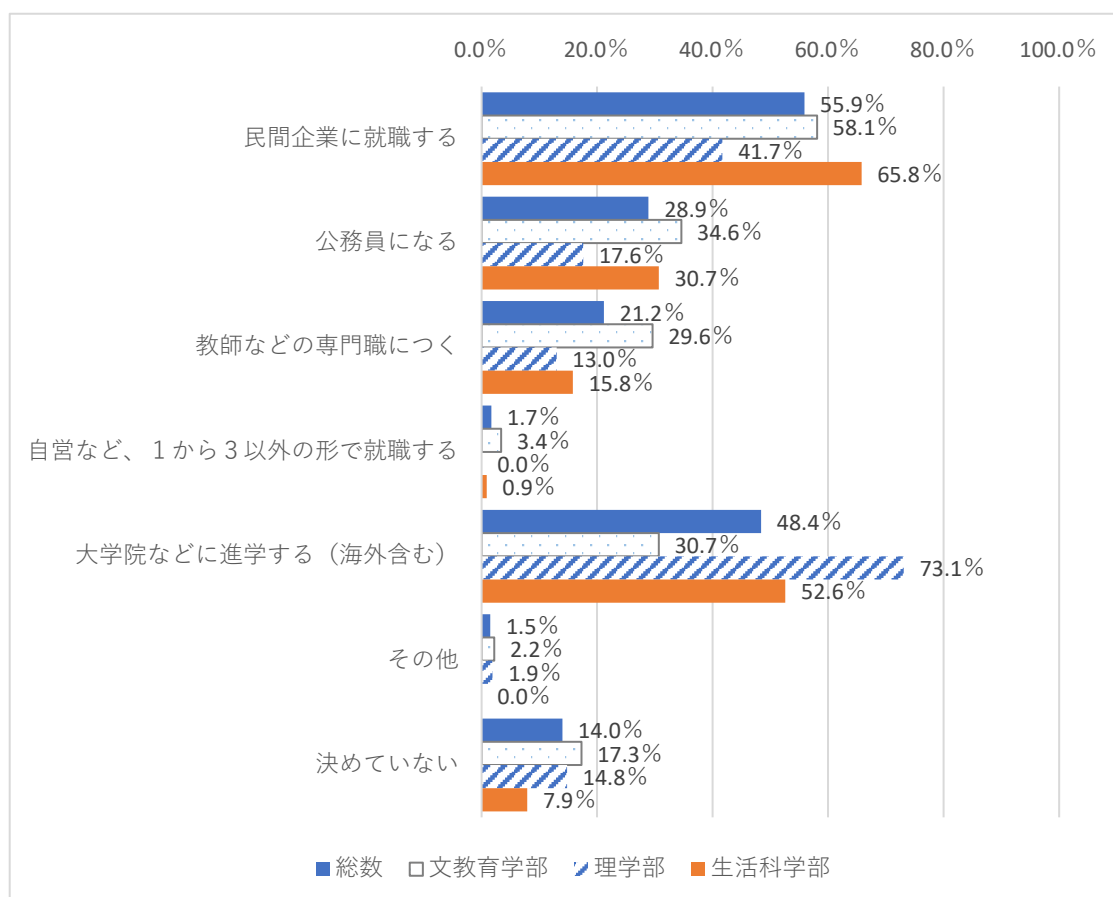
本節では、新入生の将来の進路について①大学卒業後の進路希望、②大学卒業後のキャリアについての考え、③就職や将来に関する親の関与について示す。

① 大学卒業後の進路希望

図表 5-1 は、大学卒業後の進路希望について、複数回答可として尋ねたものである。

全体でみると、「民間企業」が最も高く 55.9%、「大学院など（海外含む）」がそれに続いて 48.4%であった。学部別では、生活科学部は「民間企業」65.8%と平成 31 年度と同様に高く、「大学院など（海外含む）」は理学部が 73.1%と例年通り高い。

「公務員」を志望する新入生は全体の 28.9%で、文教育学部が 34.6%と高いが、平成 31 年度よりは 5 ポイント程度低い。「教師など専門職」を志望する新入生は全体の 21.2%で、平成 31 年度と同様に文教育学部が高かった。



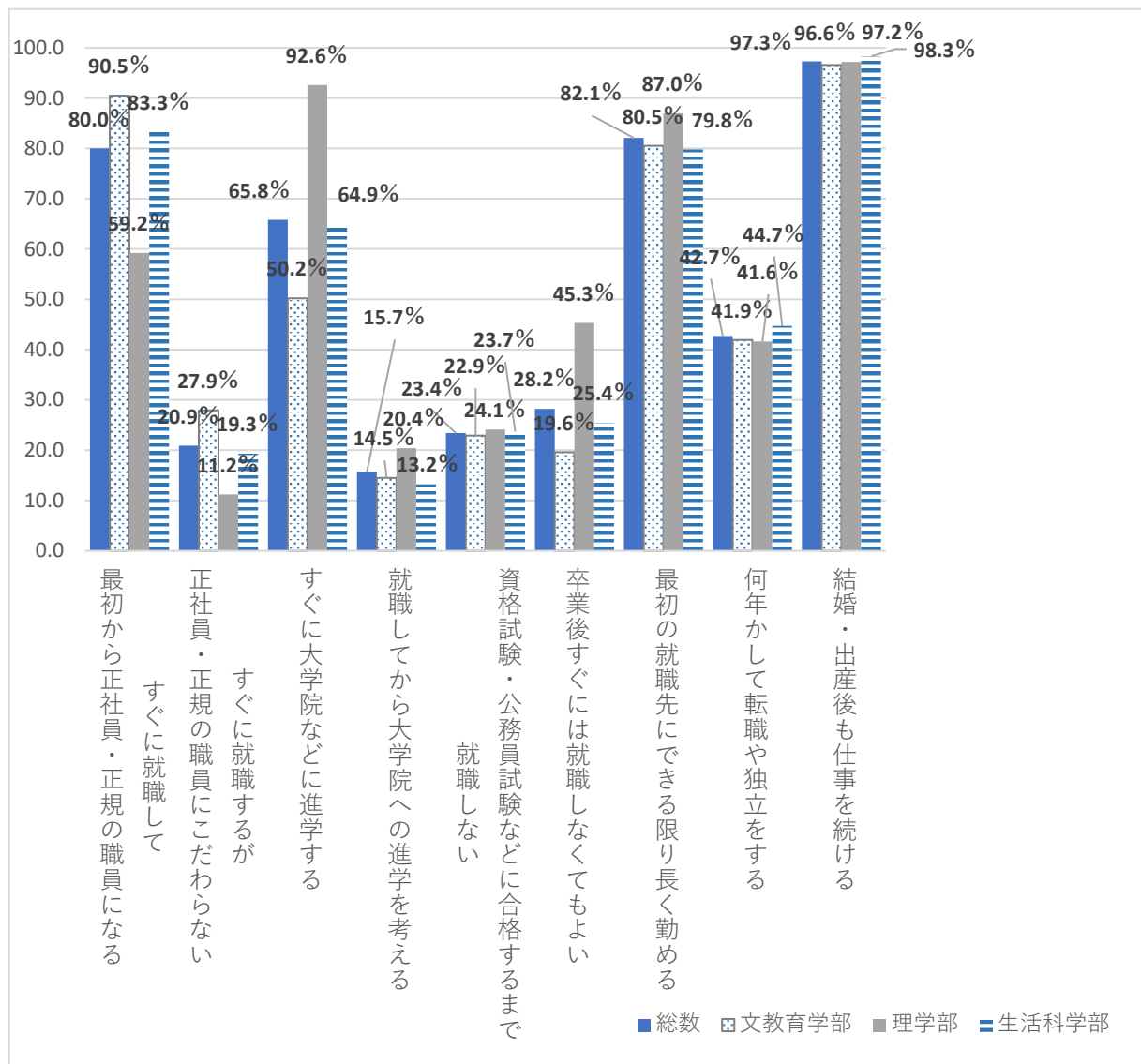
図表 5-1 大学卒業後の進路希望

② 大学卒業後のキャリアについての考え

全国大学生調査コンソーシアム/東京大学 大学経営・政策研究センターが 2007 年に実施した「全国大学生調査」を参考に、「大学卒業後のキャリアについての考え」に関する 9 項目について 3 件法で尋ねた結果を図表 5-2 に示す。図表に示す割合は、「そう思う」「ある程度思う」を合計したものである。

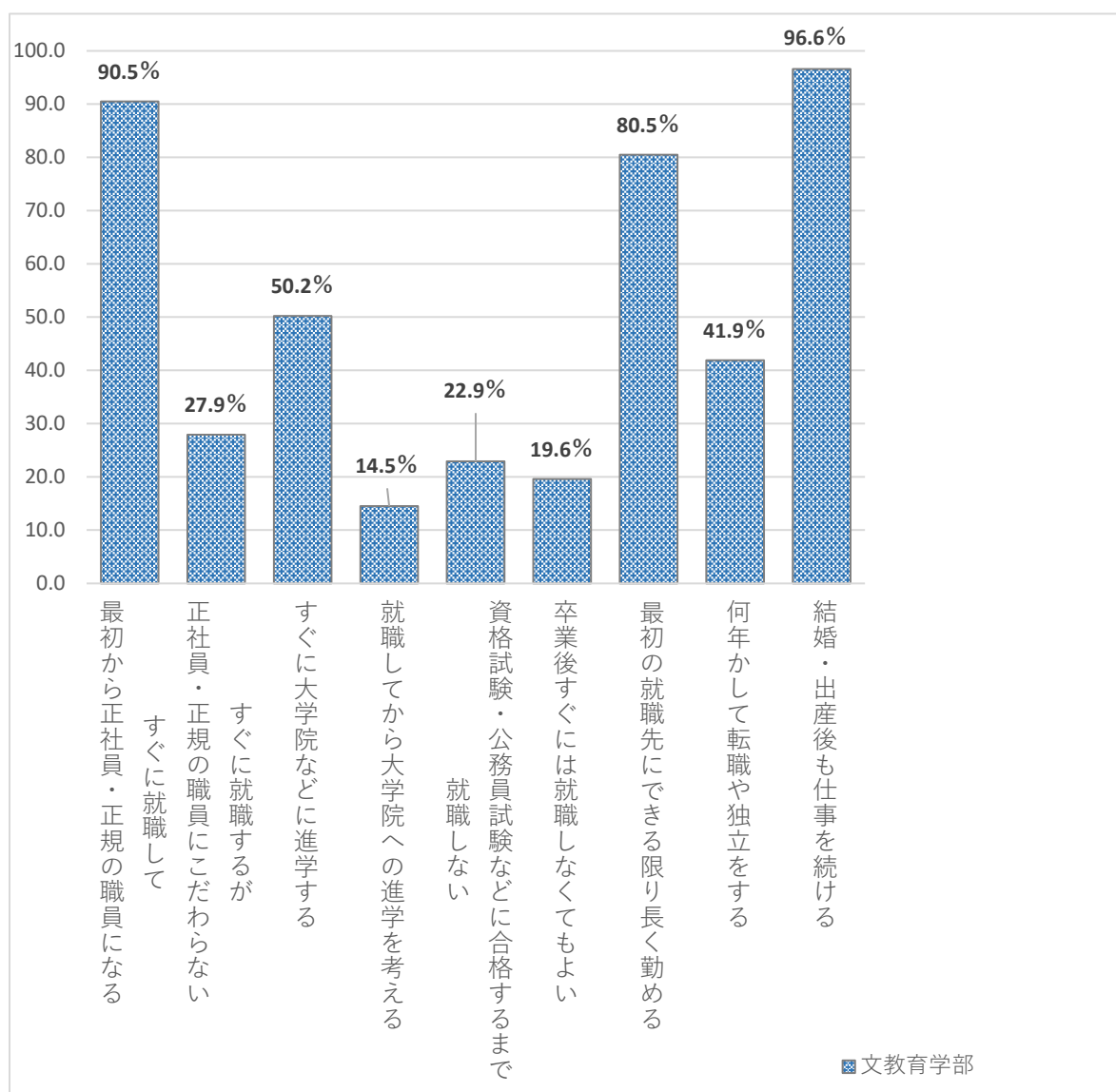
「すぐに就職して正社員・正規の職員になる」については全体で 80.0%と最も高い。同様に「最初の就職先にできる限り長く勤める」も 82.1%と高いことから、卒業後に正規就業をして、長期勤続する進路を希望する学生が多いといえる。大学院への進学意向は例年と同様に理学部が高く、令和 2 年度は 92.6%と例年よりも際立って高い。「卒業後すぐに就職をしなくてもよい」についても理学部が 45.3%で平成 31 年度より 6 ポイント増加している。

結婚・出産後も仕事を続ける割合はいずれの学部においても例年と同様に高かった。

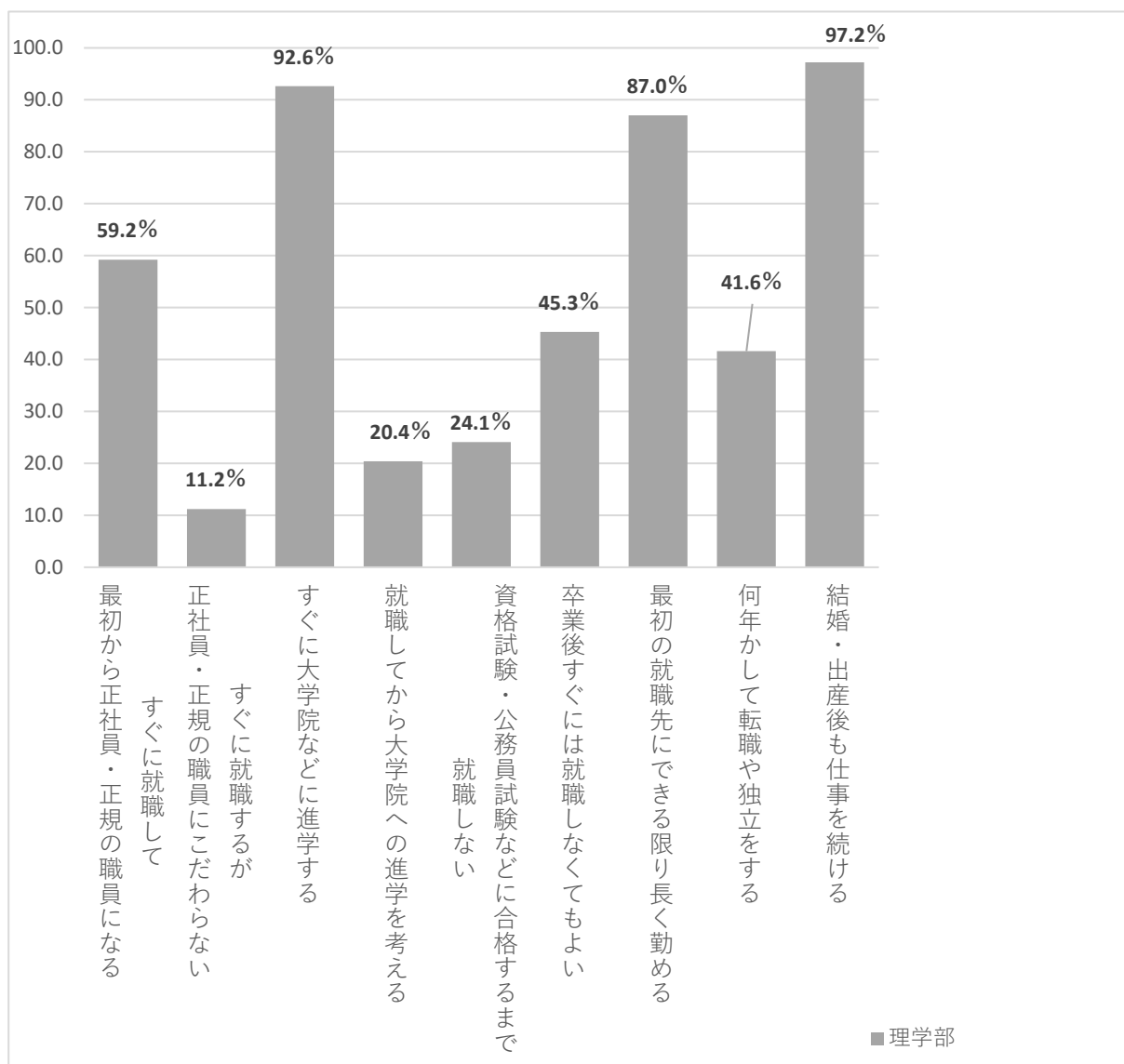


図表 5-2 大学卒業後のキャリアについての考え（全体）

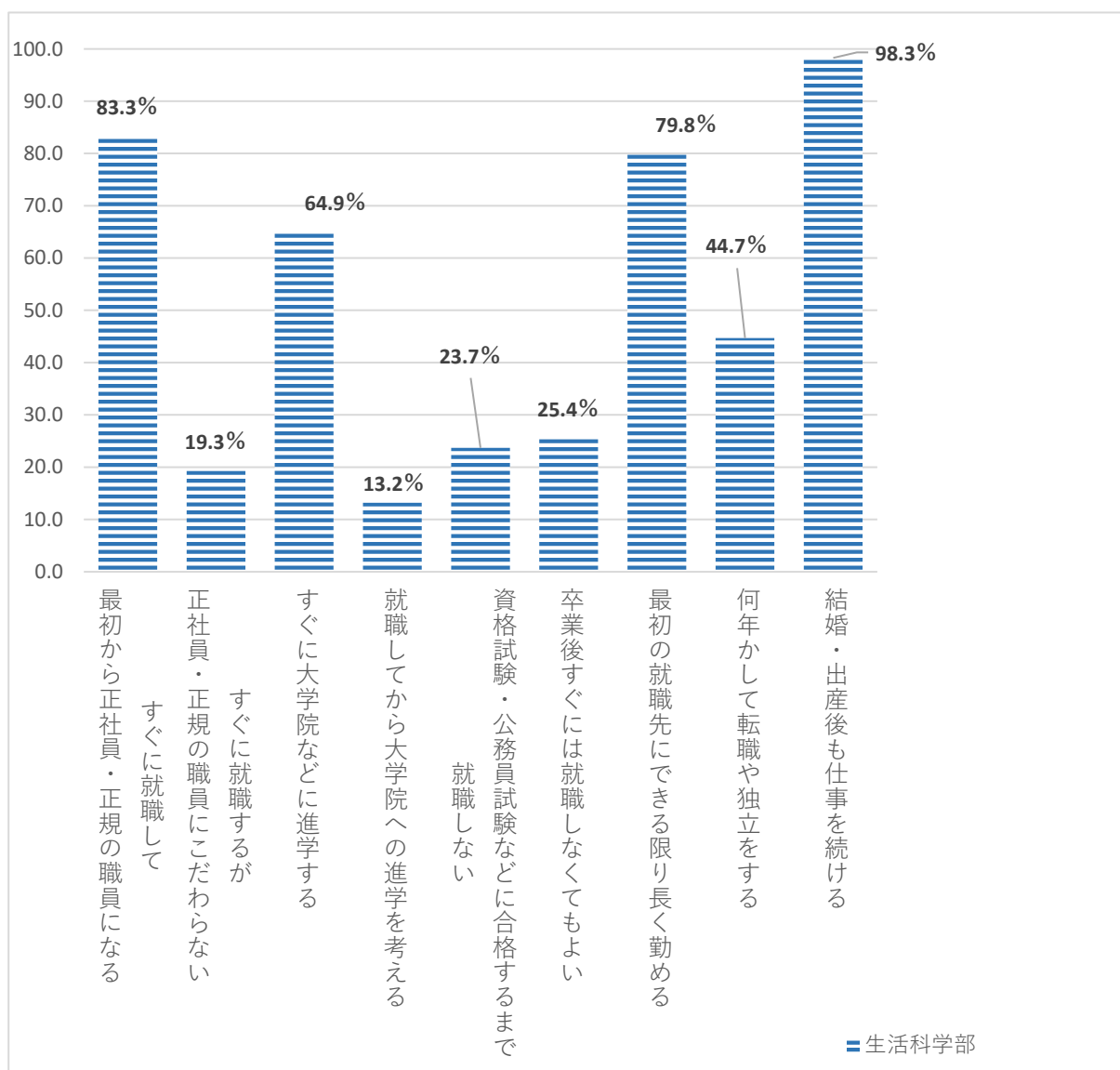
図表 5-3～図表 5-5 は、図表 5-2 で示した大学卒業後のキャリアを学部別に示したものである。図表 5-3 の文教育学部では、卒業後に正規就業について結婚・出産後も仕事を続けて初職に長く勤めるという働き方を考えている学生が多いようである。ただし、大学院進学も 50.2%で半数程度いる。図表 5-3 の理学部では、大学院進学を考えている割合が高く、また、文教育学部以上に初職を継続する希望や結婚・出産後の継続就業を考えている割合が高い。図表 5-3 の生活科学部も文教育学部と同様に学部卒業後すぐに正規就業を考えている学生の割合は高く、大学院への進学は 64.9%と文教育学部より高くなっている。



図表 5-3 大学卒業後のキャリアについての考え（文教育学部）



図表 5-4 大学卒業後のキャリアについての考え（理学部）

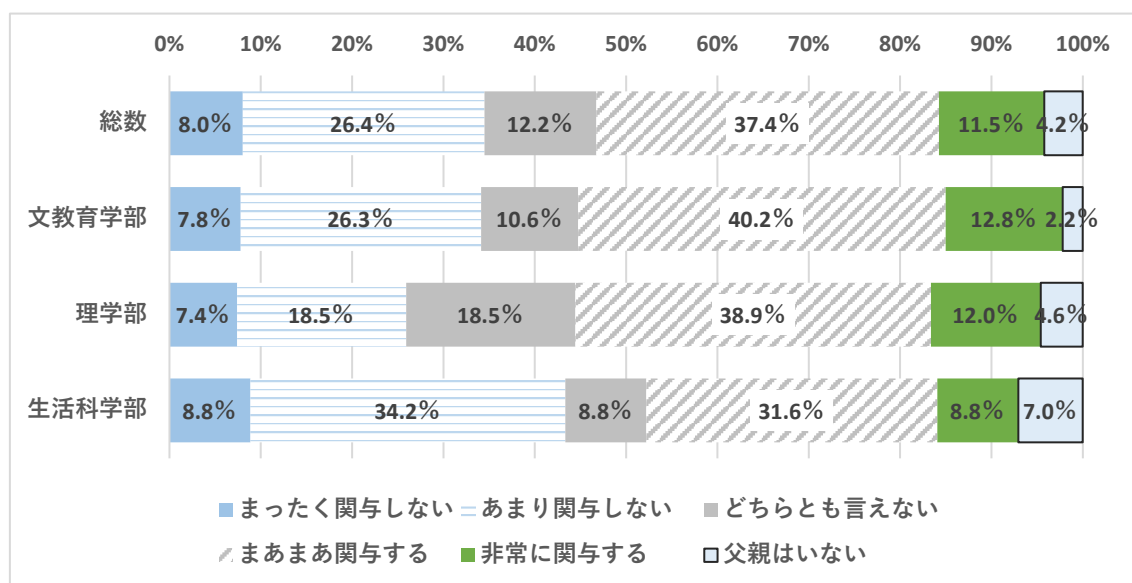


図表 5-5 就職してから大学院への進学を考える(生活科学部)

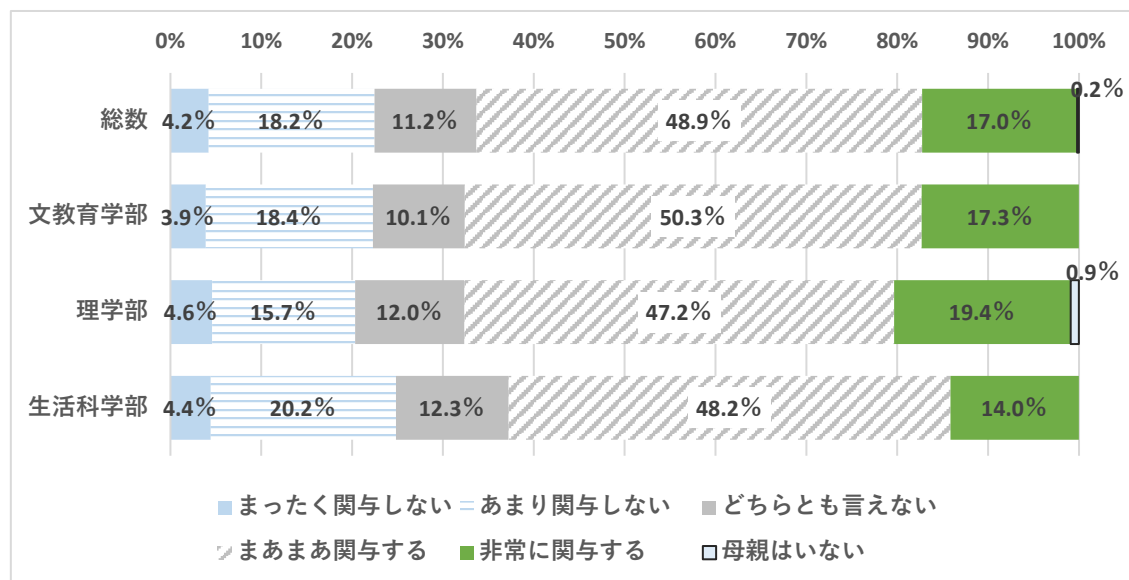
③ 就職や将来に関する親の関与

就職や将来に関する親の関与について「あなたのご両親は、あなたの就職や将来のことに関して、どれくらい関与しますか」について、「まったく関与しない」「あまり関与しない」「どちらとも言えない」「まあまあ関与する」「非常に関与する」の5件法で尋ねた。図表 5-6 に父親の関与についての結果を、図表 5-7 に母親の関与についての結果を示す。

はじめに父親の関与について、令和2年度の新入生は、就職や将来のことに関して全体の48.9%に父親の関与がある(「非常に関与する」+「まあまあ関与する」)と回答している。同様に母親に関しては、全体の65.9%に母親の関与があると回答した。この傾向は例年と同様である。学部別では、理学部が父親・母親ともに「関与する」の割合が他学部よりやや高い。



図表 5-6 就職や将来のことに関する父親の関与



図表 5-7 就職や将来のことに関する母親の関与

第2章「新入生の保護者調査」の結果

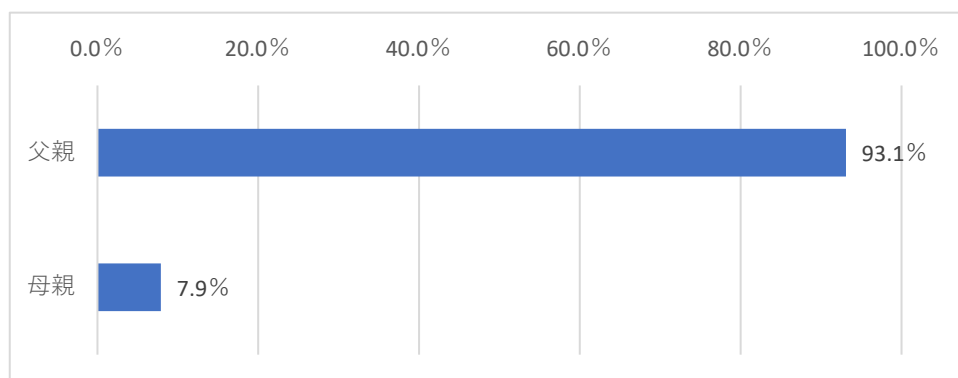
第2章では、新入生の保護者394名に対する調査結果について報告する。学部別の内訳は、文教育学部177名、理学部105名、生活科学部111名である。

(1) 家庭の暮らし向き

はじめに、新入生の家庭の暮らし向きについて、①主な家計支持者、②家計支持者の職業、③家計支持者および世帯の年収、④大学入学後の家庭の暮らし向きについて示す。

① 主な家計支持者

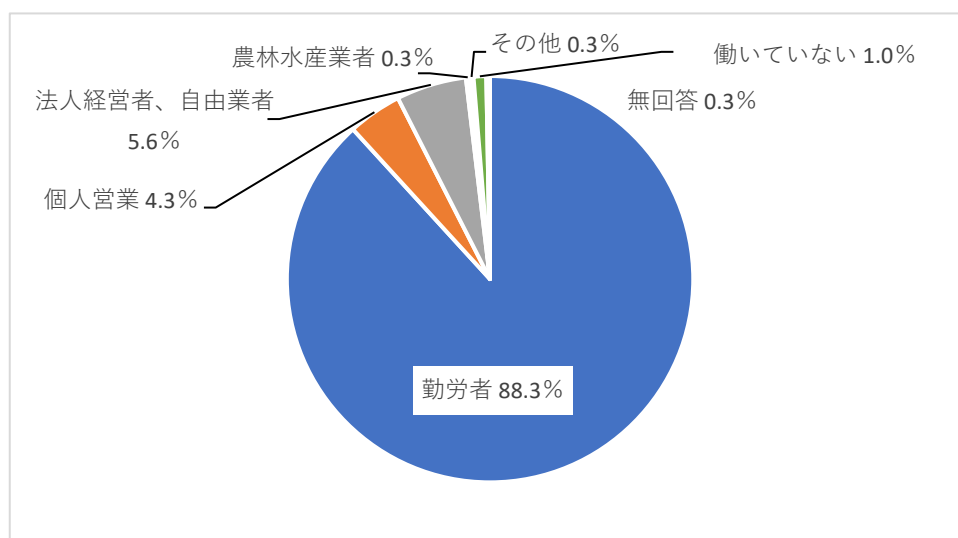
図表1-1は、新入生の主な家計支持者について尋ねた結果である。主な家計支持者は、全体の93.1%が「父親」、7.9%が「母親」である。複数回答を含むため、父親と母親と両方を回答した場合が含まれている。この傾向は例年と同様である。



図表1-1 家計支持者

② 家計支持者の職業

図表1-2に主な家計支持者の職業について示す。家計支持者の職業は「勤労者」が全体の88.3%を占め、次いで「法人経営者・自由業者」5.6%、「個人営業」4.3%である。この傾向は例年と変わらない。

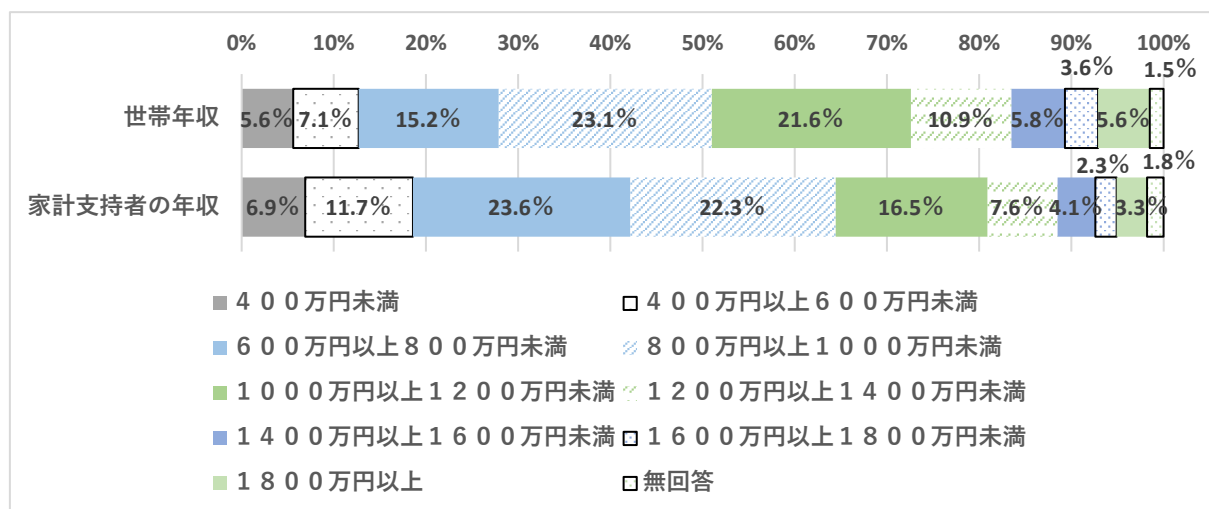


図表1-2 家計支持者の職業

③ 家計支持者および世帯の年収

図表 1-3 に家計支持者および世帯の年収を示す。家計支持者については、「600 万円以上 800 万円未満」23.6%が最大カテゴリーで、次いで「800 万円以上 1000 万円未満」22.3%、「1000 万円以上 1200 万円未満」16.5%と続く。

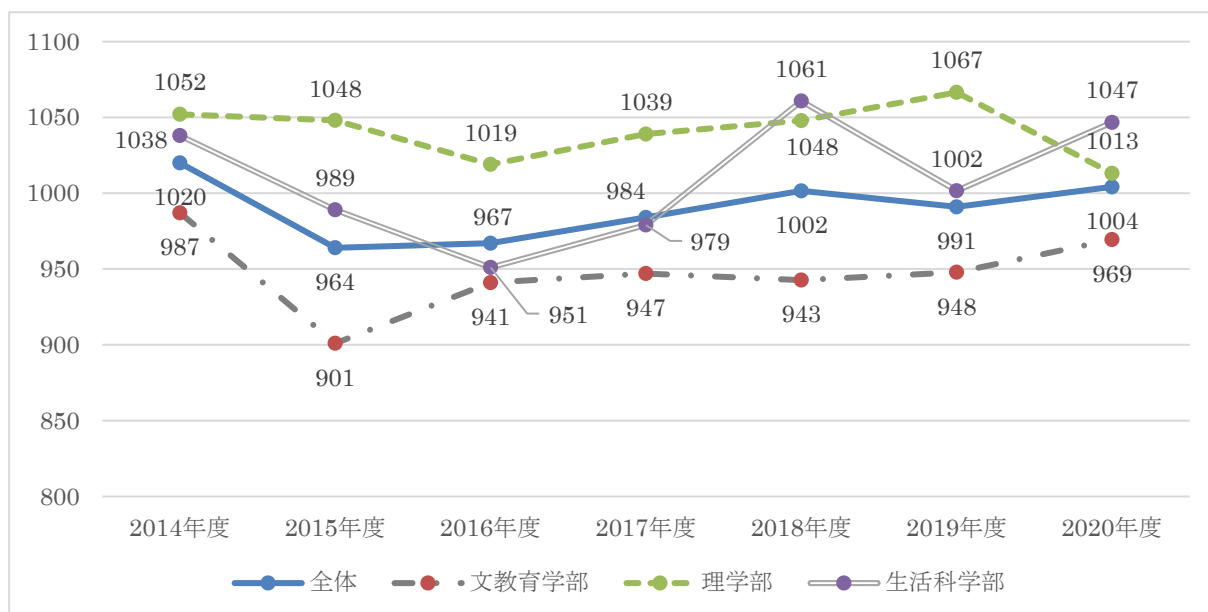
世帯年収については、「800 万円以上 1000 万円未満」23.1%がもっとも多く、「1000 万円以上 1200 万円未満」21.6%が続く。家計維持者・世帯の年収とも、例年と同様の傾向である。



図表 1-3 家計支持者の年収

『平成 30 年度学生生活調査』（日本学生支援機構 2020）によると、世帯年収が 1000 万円を超える家庭は全体の 28.5%、国立大学・女子では 31.1%である。それに対して、本学の新入生の家庭では、世帯年収が 1000 万円を超えている家庭が全体の 49%を占めており、全国水準に比べて高い方に偏っている。これも例年の新入生と同様の傾向である。

図表 1-4 には、各カテゴリーの中央値に基づき、2014 年度以降の新入生の家庭の世帯年収平均（推計）の推移を示している。年度による差異はあるが、この 5 年の平均世帯年収は 1000 万円前後となっている。大学昼間部の家庭の年間平均収入額は 862 万円であることから（日本学生支援機構 2020）、図表 1-3 でも確認したように本学の学生の家庭の収入水準は高いと考えられる。



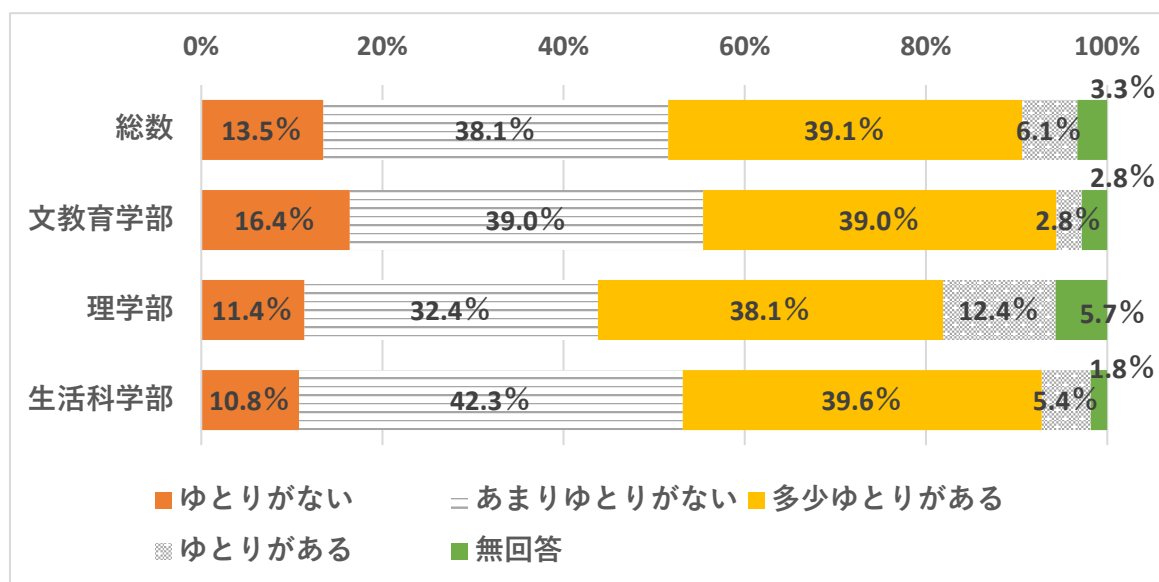
図表 1-4 世帯年収平均（推計）

④ 大学入学後の家庭の暮らし向き

図表 1-5 に、新入生が大学に入学した後の家庭の暮らし向きについて尋ねた結果を示す。

全体でみると「多少ゆとりがある」が 39.1%と最も高く、平成 31 年度よりも 4.5 ポイントほど高い。ゆとりがある 6.1%を加えると 45.2%の家庭でゆとりがあると回答しており、平成 31 年度にくらべて、ゆとりがあると考える家庭の割合は高い。

学部別では例年と同様に理学部において相対的に「ゆとりがある」と回答する割合が高く、図表 1-4 で示した学部別の世帯年収平均の結果と整合的である。



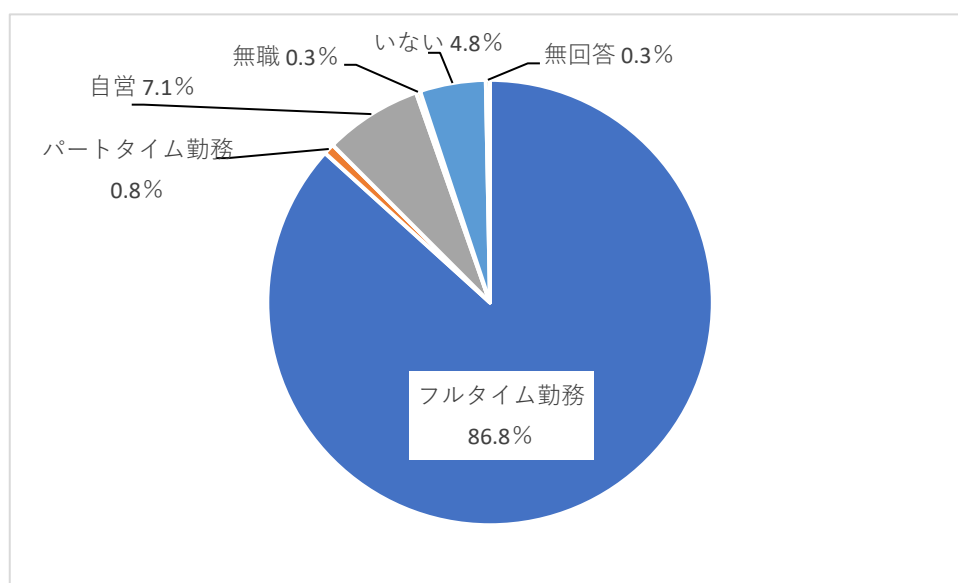
図表 1-5 入学した後の家庭の暮らし向き

(2) 親の職業・学歴

本節では新入生の親の職業や学歴について、①親の勤務形態および職種、②親の学歴について示す。

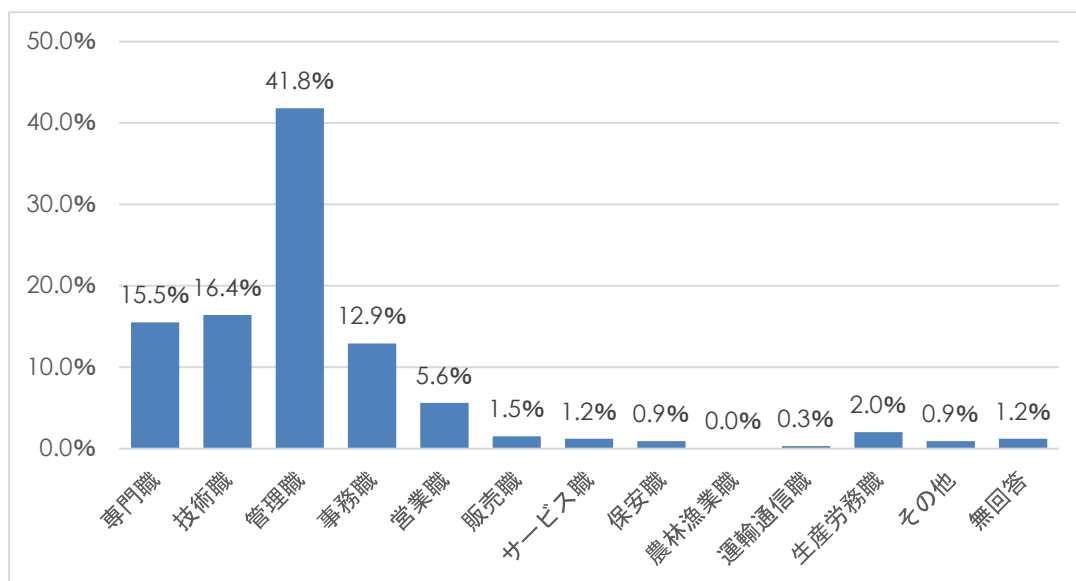
① 親の勤務形態および職種

図表 2-1 は、新入生の父親の勤務形態について、「フルタイム勤務」「パートタイム勤務」「自営」「無職」「いない」別に尋ねた結果である。新入生の父親の勤務形態は「フルタイム勤務」が 86.8%と約 9 割を占め、次いで「自営」が 7.1%である。これらの勤務形態の割合は例年と同様である。



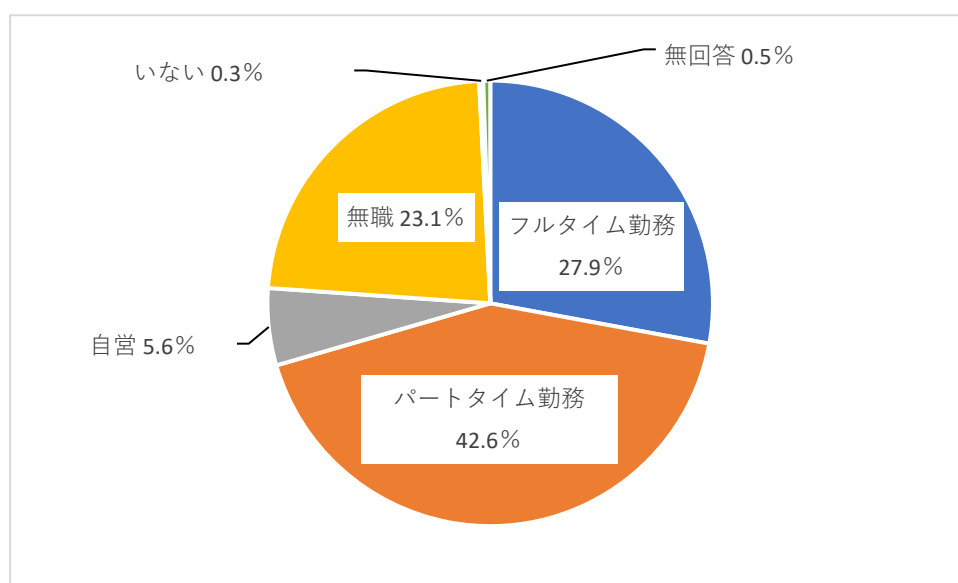
図表 2-1 父親の勤務形態

次にフルタイムで勤務する父親だけに職種を尋ねた結果を図表 2-2 に示す。最も多い職種は、管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）41.8%である。次いで、技術職（エンジニア・情報処理技術者など）16.4%、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）が 15.5%である。例年と類似する結果である。



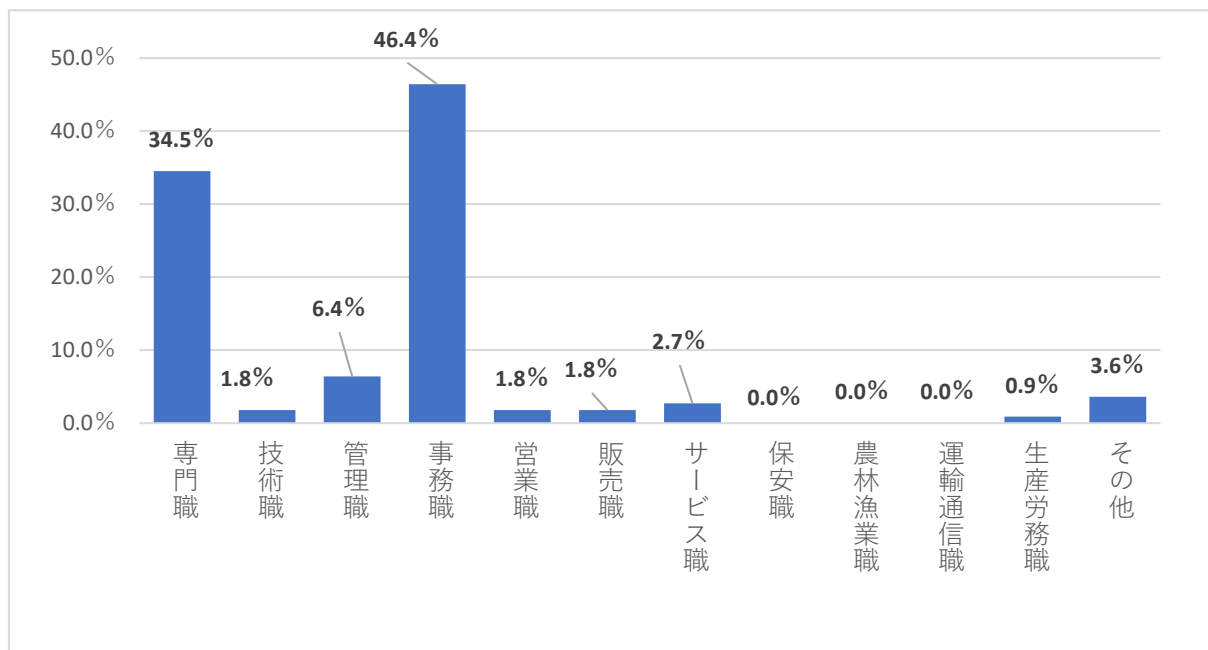
図表 2-2 父親の職種

同様に、新入生の母親の勤務形態について尋ねた結果が図表 2-3 である。「パートタイム勤務」が全体の 42.6%で最も多く、「フルタイム勤務」27.9%、「無職」23.1%である。令和 2 年度は平成 31 年度にくらべてフルタイム勤務が約 4 ポイント高く、新入生の 7 割超の母親は就業している。



図表 2-3 母親の勤務形態

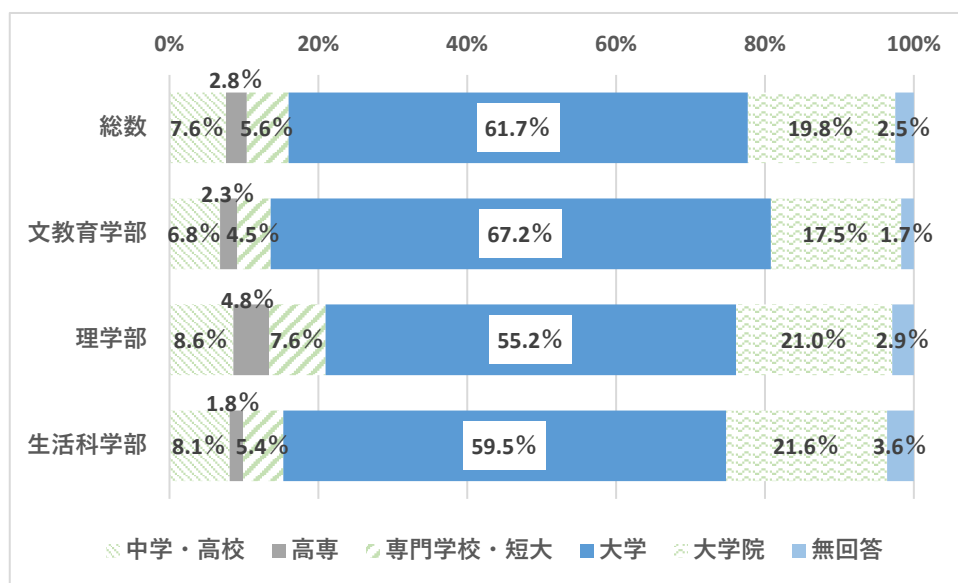
次にフルタイムで勤務する母親だけに職種について尋ねた結果を図表 2-4 に示す。最も多い職種は、事務職（庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など）46.4%で、専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）34.5%が続く。これは平成 31 年度と同様である。管理職（会社・団体の役員、部課長・工場長・支店長など）は 6.4%で、平成 31 年度よりも 5 ポイント程度高くなっている。



図表 2-4 母親の職種

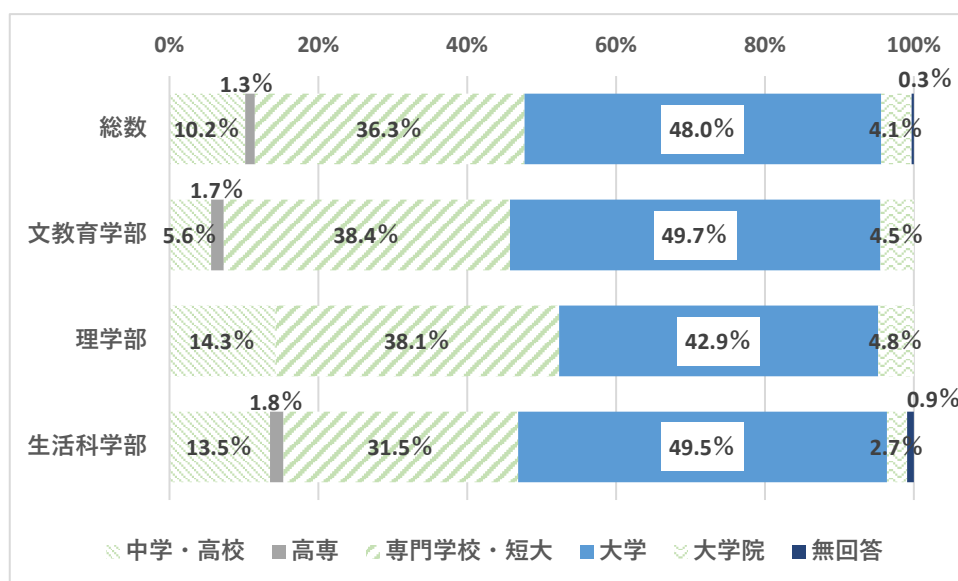
② 親の学歴

図表 2-5 は、新入生の父親の最終学歴を「大学院」「大学」「専門学校・短大」「高等専門学校」「中学・高校」別に集計した結果である。全体でみると、「大学」が 61.7%と最も高く、続いて「大学院」19.8%、「中学・高校」7.6%である。大学卒業以上が 8 割を超えており、令和 2 年度の新入生の父親も例年と同様に学歴がかなり高いほうに偏っている。学部別では、「大学院」の割合が生活科学部・理学部で高い。



図表 2-5 父親の最終学歴

新入生の母親の最終学歴について尋ねた結果が図表 2-6 である。全体で「大学」48.0%、「専門学校・短大」36.3%、「中学・高校」10.2%である。学部別では、文教育学部と生活科学部では「大学」の割合が高く、父親と同様に令和 2 年度新入生の母親の学歴も高い。



図表 2-6 母親の最終学歴

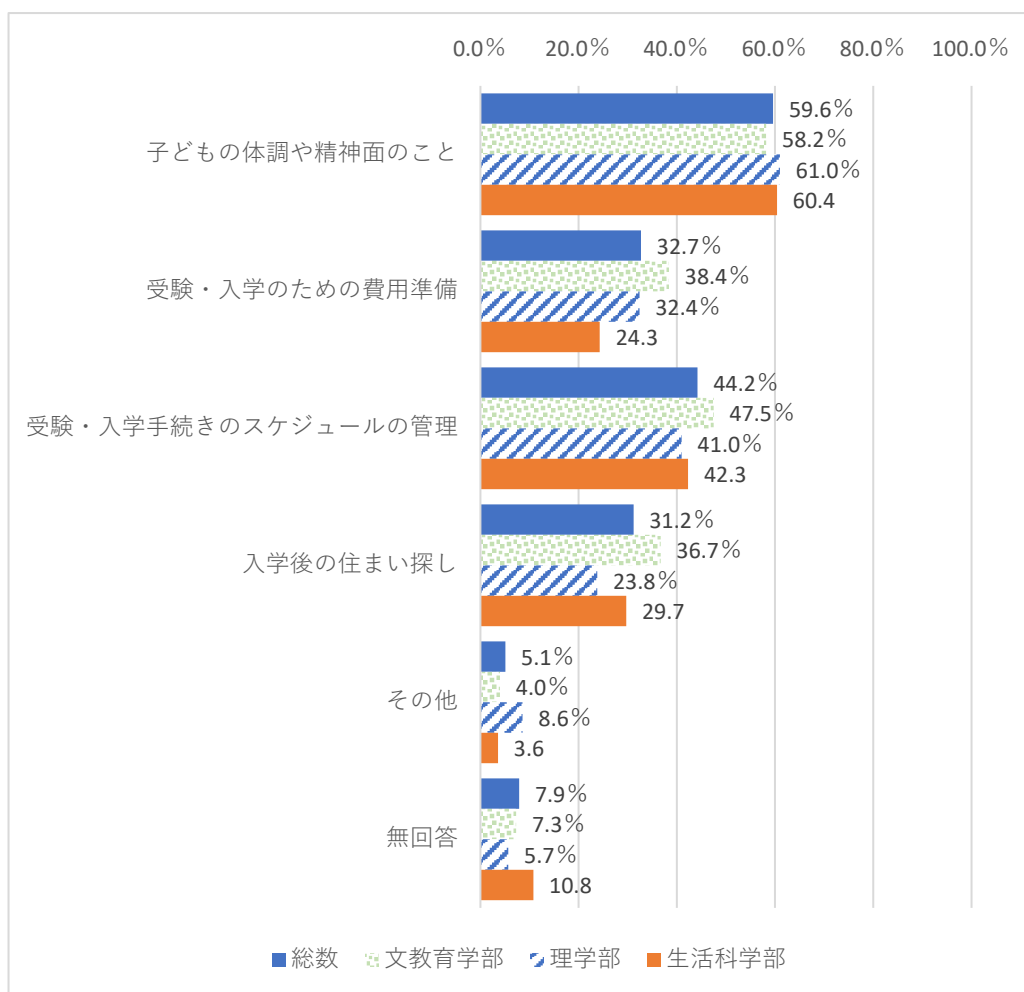
(3) 大学生生活の不安・心配事・学生支援活動への期待

本節では保護者から見た子女の大学生生活の不安・心配事について、①受験から入学までに困ったこと、②大学生活が始まって心配なこと、③本学の学生支援活動で期待するものを示す。

① 受験から入学までに困ったこと

図表 3-1 は、受験から入学までに困ったことについて、複数回答可として尋ねた結果である。

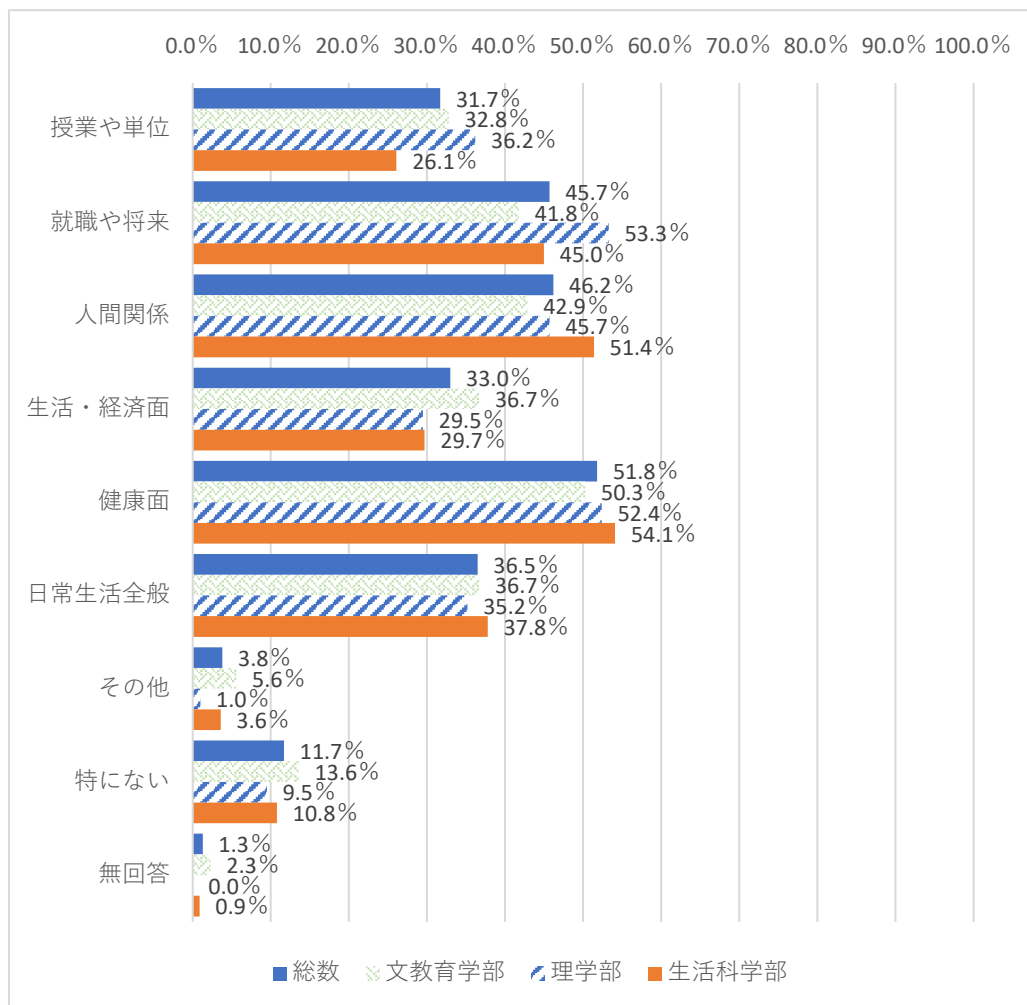
困ったこととして「子どもの体調や精神面」が全体の 59.6%と最も高く、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」が 44.2%と続いており、例年と同様であるが、平成 31 年度にくらべて割合はそれぞれ 6 ポイント、8 ポイント減少している。学部別では、「受験・入学手続きのスケジュールの管理」および「入学後の住まい探し」において、文教育学部の回答割合がやや高い傾向が見られた。



図表 3-1 受験から入学までに困ったこと

② 大学生活が始まって心配なこと

図表 3-2 は、大学生活が始まって心配なことについて、複数回答可として尋ねたものである。心配なこととして、全体で「健康」51.3%、「人間関係」46.2%、「就職や将来」45.7%が例年通り高かった。学部別では、理学部で「将来や就職」、生活科学部で「人間関係」が心配と考える割合が高くなっていた。

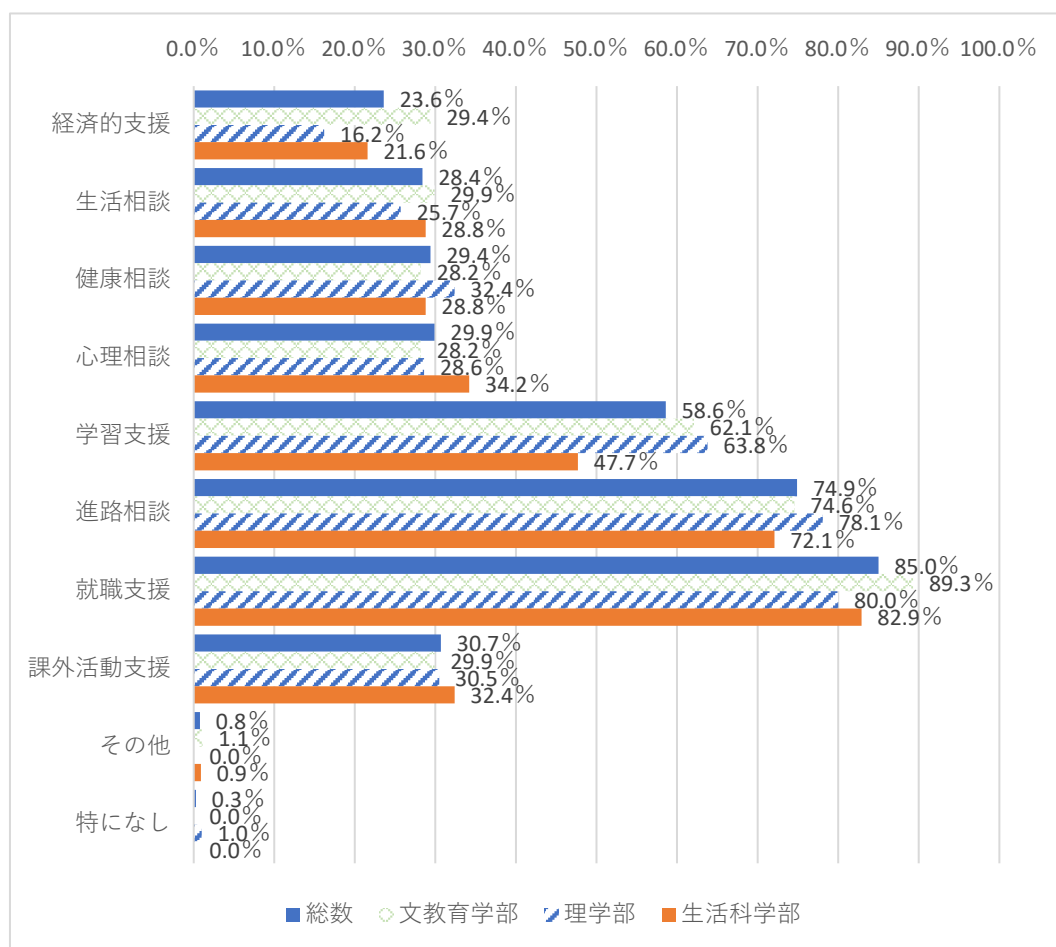


図表 3-2 大学生活が始まって心配なこと

③ 本学の学生支援活動で期待するもの

図表 3-3 は、「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」の調査項目を参考に、本学の学生支援活動に期待するものについて、複数回答可として尋ねた結果である。

「就職支援」が全体の 85.0%で最も高く、「進路相談」74.9%と続く。例年同様、保護者が学生支援として、キャリアや進路支援に期待を寄せている様子が見て取れる。学部別では、文教育学部が「就職支援」への期待が高く、理学部は「進路相談」への期待が高かった。



図表 3-3 本学の学生支援活動で期待するもの

第3章 新入生および保護者調査の結果

—奨学金・学生寮に関するクロス集計—

第3章では、新入生401名、新入生の保護者394名に対する調査結果について報告する。

(1) 問題・目的

本章では、新入生および保護者を対象とした調査の中から、奨学金制度および学生寮に関する調査項目を中心に、それぞれの現状を明らかにし、昨年度の結果と比較しながら、学生生活支援における今後の課題や展開を示唆することを目的とする。具体的には、以下の2点を明らかにする。

1. 新入生のうち、どのような学生が奨学金を認知しているのか、奨学金の受給経験があるのか、学生寮を認知しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。
2. 保護者のうち、どのような保護者が奨学金を希望しているのか、学生寮への入寮を希望しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

(2) 奨学金に関する結果

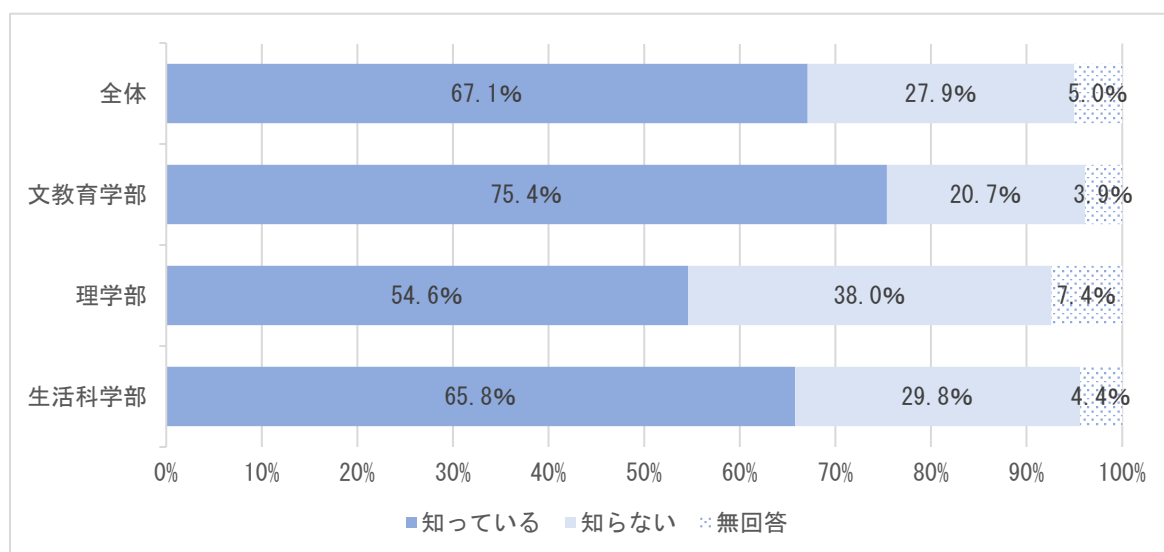
① 新入生の結果

<奨学金等制度の認知と受給経験>

新入生の奨学金等制度の認知と受給経験について示したものが図表1-1～1-3である。

図表1-1は奨学金等制度の認知について、学部別に表示している。奨学金等制度について、1つでも認知していれば「知っている」とした。

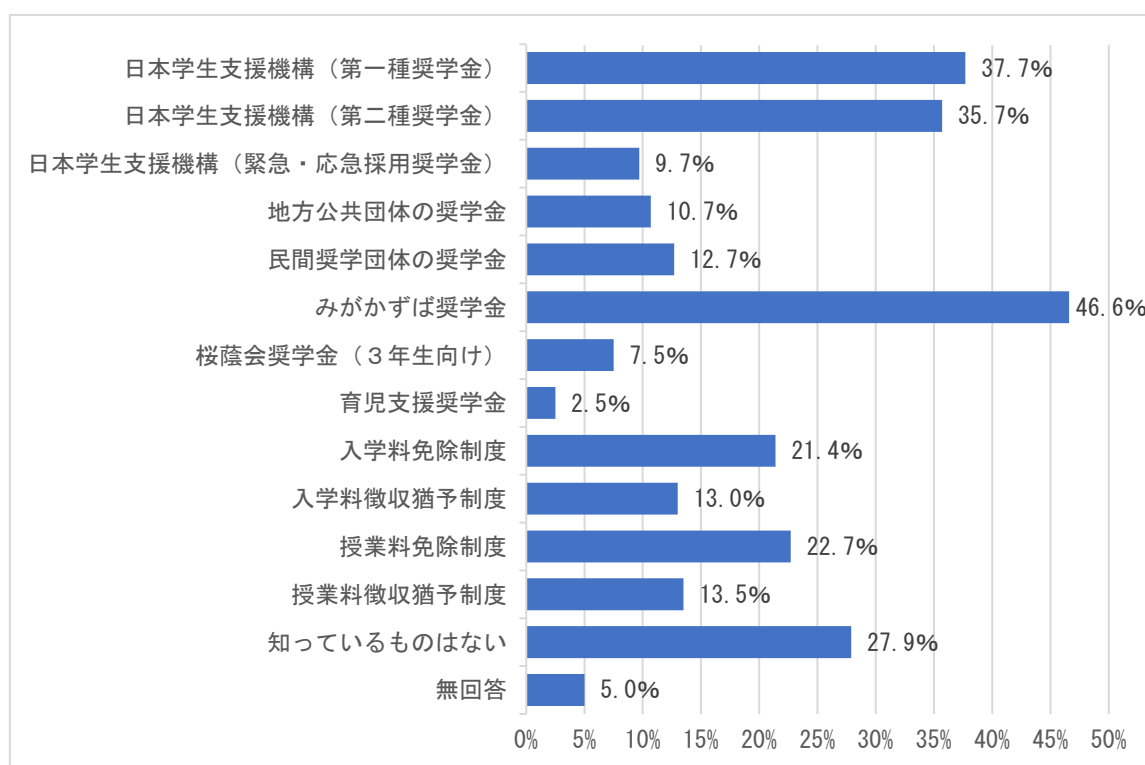
全体では67.1%の新入生が奨学金等制度について認知している。学部別にみると、理学部での認知度が最も低く、54.6%であり、これは昨年度と同様の傾向である。



図表 1-1 学部別奨学金等制度の認知

図表1-2は、奨学金等制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果

である。最も認知度が高いものは本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」で46.6%である。それに次いで日本学生支援機構の奨学金の第一種・第二種が37.7%、35.7%と続いている。また、「知っているものはない」が27.9%であり、これは昨年度の26.7%と比べて上昇傾向である。



図表 1-2 奨学金等制度の認知

図表1-3は、これまで受けたことのある奨学金等制度について、複数回答可として尋ねた結果である。「特待生」が3.5%と最も多く、「学費免除」が3.2%であった。ほかの奨学金等制度の受給経験は1～2%程度の割合を示している。

図表 1-3 制度別奨学金・学費免除等制度の受給経験

奨学金等 制度名称	日本学生 支援機構	地方公共 団体	学校独自	民間奨学 団体	新聞社	その他	学費免除	特待生
受けた ことがある	2.2%	1.7%	1.5%	1.7%	0.0%	0.7%	3.2%	3.5%

<奨学金等制度の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような学生が奨学金等制度を認知しているのかを明らかにするため、「奨学金の認知」と各項目のクロス表を作成し、カイ二乗検討を行った。「奨学金の認知」は、それぞれの選択肢の中で一つでも認知していれば「知っている」として分析した。結果を図表1-4～1-9に示す。

図表1-4は「きょうだい数」と「奨学金認知」のクロス表である。きょうだい数と奨学金認知について有意な関連はみられなかった。

図表 1-4 きょうだい数と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	42	26	68
		%	61.8%	38.2%	100.0%
	2人きょうだい	度数	152	62	214
		%	71.0%	29.0%	100.0%
	3人以上	度数	74	24	98
		%	75.5%	24.5%	100.0%
合計		度数	268	112	380
		%	70.5%	29.5%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表1-5は「出身高校設置者」と「奨学金認知」のクロス表である。ただし出身高校の設置者と奨学金の認知について有意な関連は見られなかった。

図表 1-5 出身高校設置者と奨学金認知の クロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	173	66	239
		%	72.4%	27.6%	100.0%
	私立	度数	77	39	116
		%	66.4%	33.6%	100.0%
	国立	度数	18	6	24
		%	75.0%	25.0%	100.0%
	海外	度数	1	1	2
		%	50.0%	50.0%	100.0%
合計		度数	269	112	381
		%	70.6%	29.4%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-6 は「奨学金受給経験」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金の受給経験がある場合には、奨学金等制度についても認知している割合が高いとの分析結果である。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 1-6 奨学金受給経験と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	229	106	335
		%	68.4%	31.6%	100.0%
	経験あり	度数	40	6	46
		%	90.9%	9.1%	100.0%
合計		度数	269	112	381
		%	70.6%	24.9%	100.0%

** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-7 は「入学後の予定住居」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金等制度について、入学後に予定している住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）の新入生のほうが認知の割合が高く、有意な関連が見られた。

図表 1-7 入学後の予定住居と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の予定住居	実家以外	度数	123	35	158
		%	77.8%	22.2%	100.0%
	実家	度数	145	76	221
		%	65.6%	34.4%	100.0%
合計		度数	268	111	379
		%	70.7%	29.3%	100.0%

* 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表1-8は「仕送り額」と「奨学金認知」のクロス表である。図表1-8での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）」と回答した新入生の仕送り額を示している。仕送り額が高いほど奨学金の認知率が下がる傾向である。昨年度までは有意な関連があったが、今回では有意性が確認できなかった。

図表 1-8 仕送り額と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	7	1	8
		%	87.5%	12.5%	100.0%
	5万円未満	度数	19	3	22
		%	86.4%	13.2%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	51	9	60
		%	85.0%	15.0%	100.0%
	10万円以上	度数	41	19	60
		%	68.3%	31.7%	100.0%
合計		度数	118	32	150
		%	78.7%	21.3%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 1-9 は「学生寮認知」と「奨学金認知」のクロス表である。昨年度と同様に、学生寮について認知している場合は、奨学金等制度についても認知している割合が高い結果であり、有意な関連が見られた。

図表 1-9 学生寮認知と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
学生寮認知	知っている	度数	201	39	240
		%	86.2%	16.3%	100.0%
	知らない	度数	68	72	140
		%	48.6%	51.4%	100.0%
合計		度数	269	111	380
		%	70.8%	29.2%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

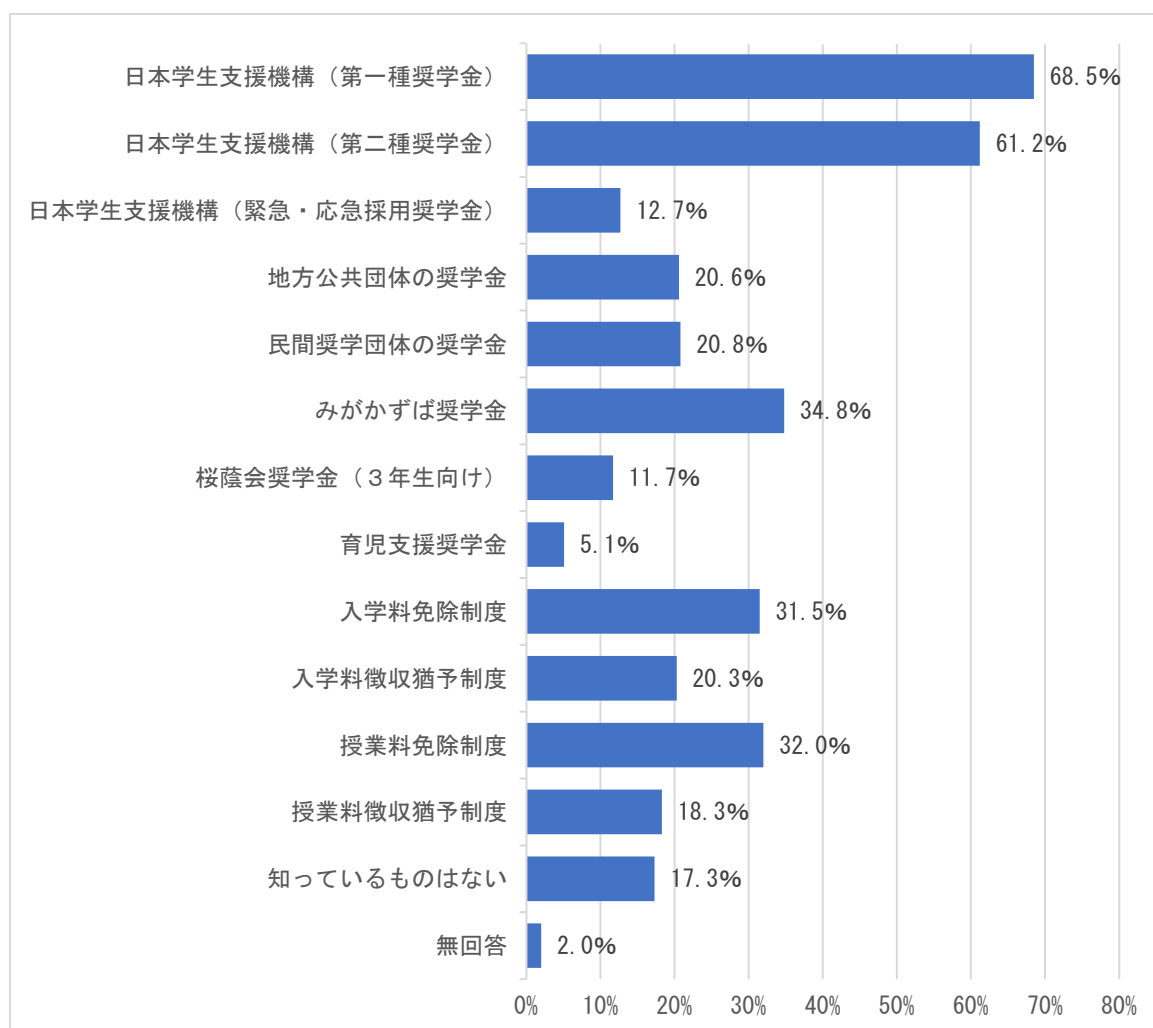
② 保護者の結果

<奨学金等制度の認知・受給経験・利用希望>

保護者の票の奨学金等制度の認知、利用希望について示したものが図表 2-1～2-2 である。

図表2-1は、保護者の奨学金・学費免除等の制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。

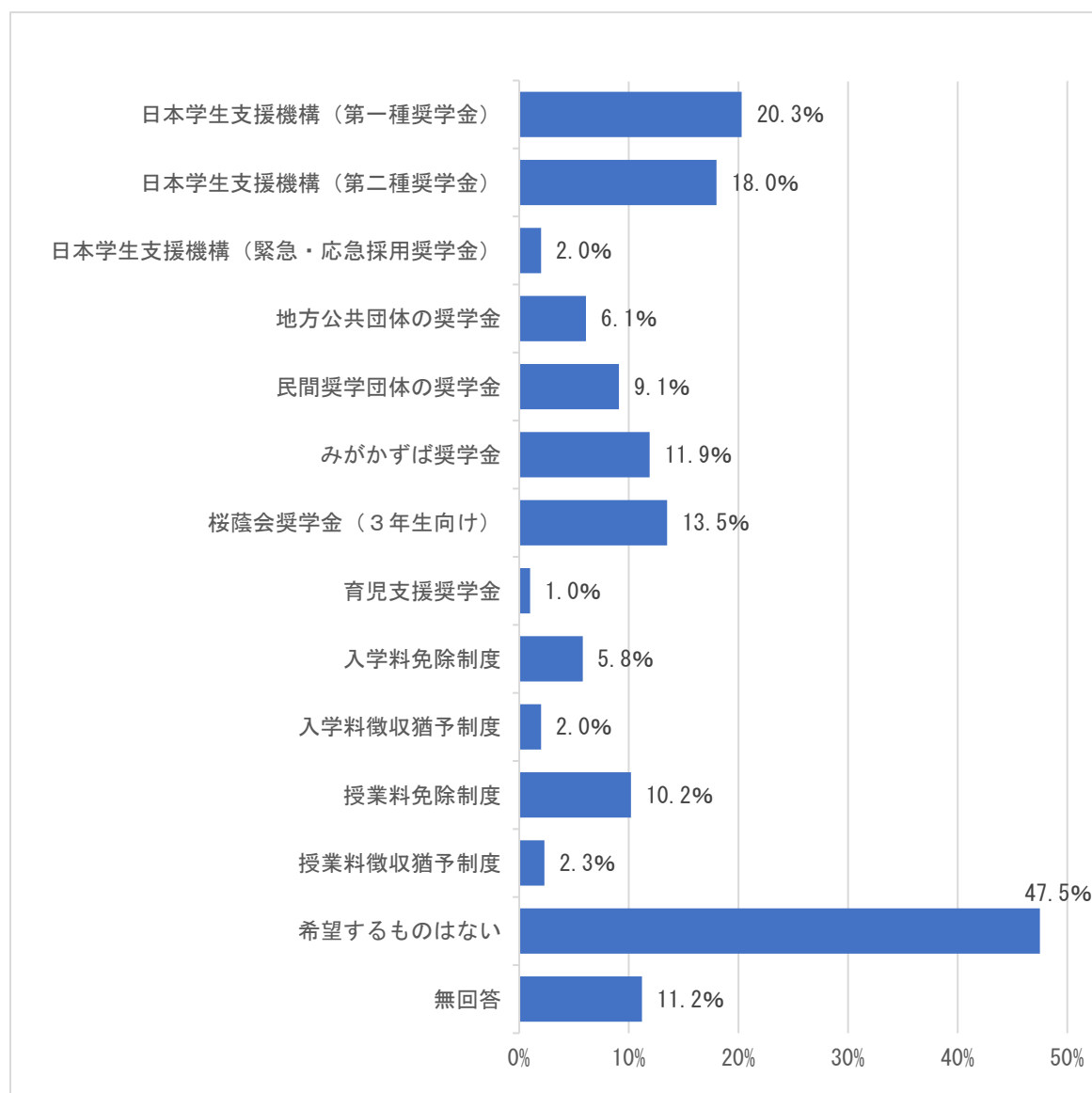
奨学金制度に関しては、最も認知率が高いのは日本学生支援機構第一種の68.5%であり、第二種が61.2%と続く。平成31年度の「新入生の生活に関する調査報告書」保護者回答と比較すると、「授業料免除制度」、「入学料徴収猶予」、「授業料徴収猶予」のいずれの制度の認知率も上がっており、「知っているものはない」という回答は、昨年度よりも2.5ポイント低くなった。



図表 2-1 保護者の奨学金等制度の認知度

図表 2-2 では大学入学後の奨学金等制度利用希望について、複数回答可として尋ねた結果である。日本学生支援機構（第一種奨学金）はもっとも利用希望率が高かった。日本学生支援機構（第二種奨学金）はその次であった。本学独自の奨学金である「桜蔭会奨学金（3年生向け）」と「みがかずば奨学金」が第三位、第四位と続く。昨年度を除いた以前の「新入生の生活に関する調査報告書」では、日本学生支援機構（第一種奨学金）が最も高い利用希望率であり、本年と同じ結果となっている。

また、「希望するものはない」と回答した割合が 47.5%であり、昨年度 5.7 ポイントほど減っている。



図表 2-2 奨学金等制度の利用希望

＜奨学金希望と属性などの項目とのクロス表＞

次に、どのような保護者が奨学金等制度の利用を希望しているか明らかにするため、「奨学金の希望」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれの結果を図表 2-3～2-11 に示す。

図表 2-3 は「家計支持者」と「奨学金希望」のクロス表である。家計支持者が母親の場合、昨年度と同様に統計的に奨学金を希望する割合が高いという傾向がみられた。ただし、母親が家計支持者であるものは 26 名と少ない傾向である。

図表 2-3 家計支持者と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者	父***	度数	140	183	323
		%	43.3%	56.7%	100.0%
	母***	度数	26	5	31
		%	83.9%	16.1%	100.0%
	本人 n.s.	度数	1	0	1
		%	100%	0	100.0%
合計		度数	163	186	349
		%	46.7%	53.3%	100.0%

注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-4 は、「父親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。父親が「いない」と奨学金を希望する割合が統計的に高い傾向がみられた。ただし、父親がいないものは 17 名、父親がいた場合もフルタイム勤務以外のパートタイム勤務、自営、無職は合計して 17 名と少なく、奨学金希望と父親の就労形態には、統計的に有意な関連が見られた。

図表 2-4 父親の就労形態と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	129	172	301
		%	42.9%	57.1%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	3	0	3
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	自営	度数	13	12	25
		%	52.0%	48.0%	100.0%
	無職	度数	1	0	1
		%	100.0%	0%	100.0%
	いない	度数	17	2	19
		%	89.5%	10.5%	100.0%
合計		度数	163	186	349
		%	46.7%	53.3%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-5 は、「母親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。有職母親の就労形態は「フルタイム」、「パートタイム」、「自営」それぞれであるが、奨学金の希望率はほぼ同じである。昨年度では「自営」もしくは「いない」と回答した場合、奨学金を希望する割合が高く、それ以外の場合は奨学金を希望する割合が低い傾向がみられたが、今年度は「無職」のほうが奨学金の希望率が低い。ただし、「母親の就労形態」と「奨学金希望」との間には有意な関連が見られなかった。

図表 2-5 母親の就労形態と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	46	50	96
		%	47.3%	52.1%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	75	80	155
		%	48.4%	51.6%	100.0%
	自営	度数	10	10	20
		%	50.0%	50.0%	100.0%
	無職	度数	31	47	78
		%	39.7%	60.3%	100.0%
合計		度数	162	187	349
		%	46.4%	53.6%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-6は「入学後の暮らし向き」と「奨学金希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-6 入学後の暮らし向きと奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	132	51	183
		%	72.1%	27.9%	100.0%
	ゆとりがある	度数	27	133	160
		%	16.9%	83.1%	100.0%
合計		度数	159	184	343
		%	46.4%	53.6%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-7は「世帯年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢を合算してクロス表を作成した。昨年度と同様に、世帯年収が800万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が800万円以上1000万円未満の場合には奨学金を希望する割合が低下する。一

昨年度は1000万円以上から奨学金を希望する割合が低下する傾向であった。

図表 2-7 世帯年収と保護者の奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
世帯年収	400万円未満	度数	20	1	21
		%	95.2%	4.8%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	23	5	28
		%	82.1%	17.9%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	37	19	56
		%	66.1%	33.9%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	41	42	83
		%	49.4%	50.6%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	22	48	70
		%	31.4%	68.6%	100.0%
	1200万円以上	度数	20	70	90
		%	22.2%	77.8%	100.0%
	合計	度数	163	185	348
		%	46.8%	53.2%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-8は「家計支持者年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が800万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、家計支持者の年収が800万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低下する傾向が見られた。これは、昨年度と同様の結果である。

図表 2-8 家計支持者年収と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者年収	400万円未満	度数	23	3	26
		%	88.5%	11.5%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	36	8	44
		%	81.8%	18.2%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	49	37	86
		%	57.0%	43.0%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	27	50	77
		%	35.1%	64.9%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	17	40	57
		%	29.8%	70.2%	100.0%
	1200万円以上	度数	10	47	57
		%	17.5%	82.5%	100.0%
合計		度数	162	185	347
		%	46.7%	53.3%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-9は「奨学金受給経験」と「奨学金希望」のクロス表である。これまでに奨学金受給経験がある場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 2-9 奨学金受給経験と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	126	174	300
		%	42.0%	58.0%	100.0%
	経験あり	度数	35	11	46
		%	76.1%	23.9%	100.0%
合計		度数	161	185	346
		%	46.5%	53.5%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-10 は「学生寮認知」と「奨学金希望」のクロス表である。学生寮を知っている場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 2-10 学生寮認知と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮の認知	知っている	度数	99	100	199
		%	49.7%	50.3%	100.0%
	知らない	度数	64	87	151
		%	42.4%	57.6%	100.0%
合計		度数	163	187	350
		%	46.6%	53.4%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表2-11は「学生寮希望」と「奨学金希望」のクロス表である。学生寮を希望している場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度の結果と同様の結果であった。

図表 2-11 学生寮希望と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮希望	希望する	度数	59	23	82
		%	72.0%	28.0%	100.0%
	希望しない	度数	100	162	262
		%	38.2%	61.8%	100.0%
合計		度数	159	185	344
		%	46.2%	53.8%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

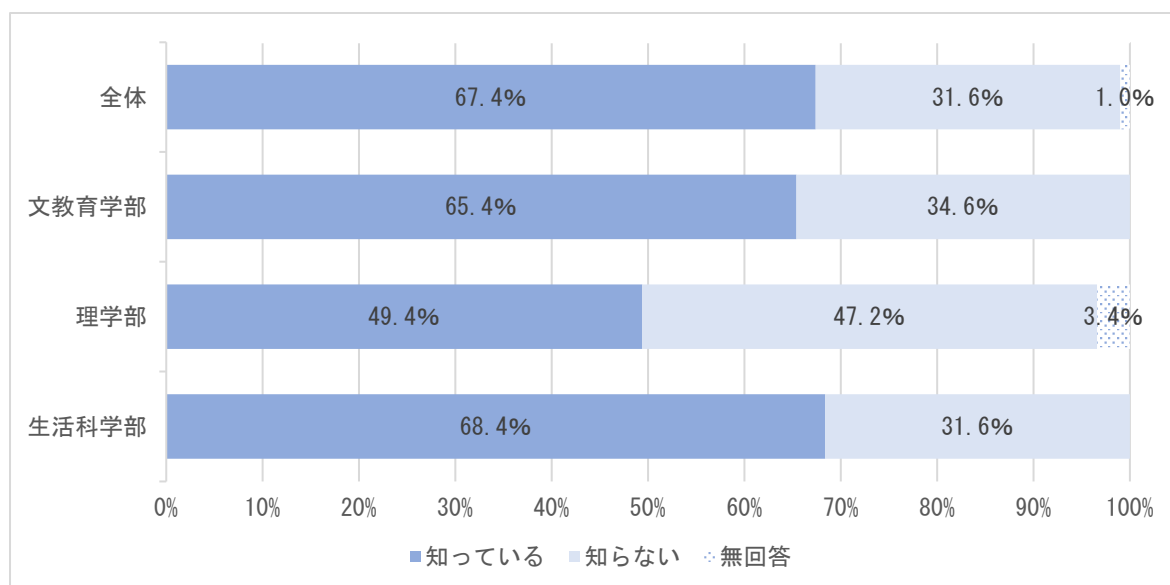
(3) 学生寮に関する結果

① 新入生の結果

<学生寮の認知>

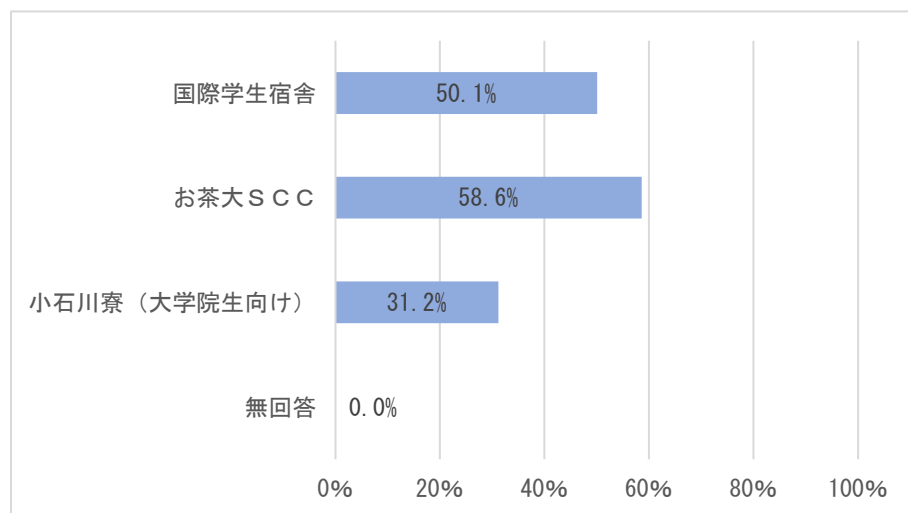
図表3-1は本学の学生寮の認知について、複数回答可として尋ね、学部別に集計した結果である。1つでも認知している学生寮があれば「知っている」とした。全体では67.4%の新入生が学生寮について認知している。

学部別にみると、理学部が他学部に比べて低い結果となっており、これは昨年度、一昨年度の調査でも同様の結果であった。



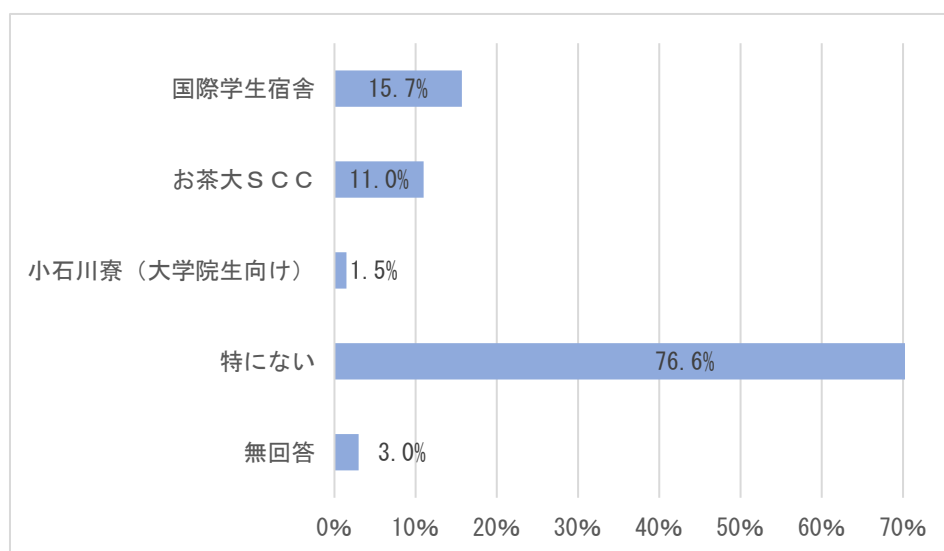
図表 3-1 本学の学生寮に対する認知（学部別）

図表 3-2 では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ね、寮の種類別に集計した結果である。本学には自治寮である国際学生宿舎（学部生対象）、小石川寮（大学院生対象）、教育寮であるお茶大 SCC（学部 1・2 年生対象）の 3 つの学生寮がある。認知率は、お茶大 SCC が 58.6%と最も高く、次いで国際学生宿舎 50.1%、小石川寮 31.2%であった。



図表 3-2 本学の学生寮に対する認知（寮別）

入寮を希望する学生寮を複数回答可として尋ねた結果が図表 3-3 である。希望する学生寮を「特にない」と回答した新生入生が最も多く 76.6%であった。国際学生宿舎を希望する学生は 15.7%で、お茶大 SCC を希望する学生は 11.0%、小石川寮は 1.5%であった。



図表 3-3 本学の学生寮への入寮希望（寮別）

<学生寮の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような新生入生が本学の学生寮について認知しているか明らかにするため、「学生寮の認知」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 3-4～3-8 に示す。「学生寮の認知」は、本学の学生寮のうち、1 つでも知っているものがあれば「知っている」とした。

図表3-4では「きょうだい数」と「学生寮認知」のクロス表である。きょうだい数と学生寮認知との間には有意な関連はみられなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 3-4 きょうだい数と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	40	32	72
		%	55.6%	44.4%	100.0%
	2人きょうだい	度数	141	82	223
		%	63.2%	36.8%	100.0%
	3人以上	度数	66	35	101
		%	65.3%	34.7%	100.0%
	合計	度数	247	149	396
		%	62.4%	37.6%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表3-5は「出身高校設置者」と「学生寮認知」のクロス表である。「出身高校設置者」と「学生寮認知」との間には有意な関連は見られなかった。

図表 3-5 出身高校設置者と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	160	92	252
		%	63.5%	36.5%	100.0%
	私立	度数	68	51	119
		%	57.1%	42.9%	100.0%
	国立	度数	19	5	24
		%	79.2%	20.8%	100.0%
	海外	度数	1	1	2
		%	50.0%	50.0%	100.0%
	合計	度数	248	149	397
		%	62.5%	37.5%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表3-6は「奨学金受給経験」と「学生寮の認知」のクロス表である。「奨学金受給経験」と「学生寮認知」の間には有意な関連はみられなかった。

図表 3-6 奨学金受給経験と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	213	134	347
		%	61.4%	38.6%	100.0%
	経験あり	度数	35	15	50
		%	70.0%	30.0%	100.0%
合計		度数	248	149	397
		%	62.5%	37.5%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表3-7では「入学後の予定住居」と「学生寮認知」のクロス表である。入学後の住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）の場合には、学生寮について認知している割合が高いことが明らかになった。

図表 3-7 居住予定の住居と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の居住予定	実家以外	度数	142	25	167
		%	85.0%	15.0%	100.0%
	実家	度数	104	124	228
		%	45.6%	54.4%	100.0%
合計		度数	246	149	395
		%	62.3%	37.7%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 3-8 は「仕送り額」と「学生寮の認知」のクロス表である。図表 3-8 での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）」と回答した新入生の仕送り額を示している。「仕送り額」と「学生寮の認知」の間には有意な関連は見られなかった。

図表 3-8 仕送り額と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	8	1	9
		%	88.9%	11.1%	100.0%
	5万円未満	度数	18	5	23
		%	78.3%	21.7%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	56	7	63
		%	88.9%	11.1%	100.0%
	10万円以上	度数	51	11	62
		%	82.3%	17.7%	100.0%
合計		度数	133	24	157
		%	84.7%	15.3%	100.0%

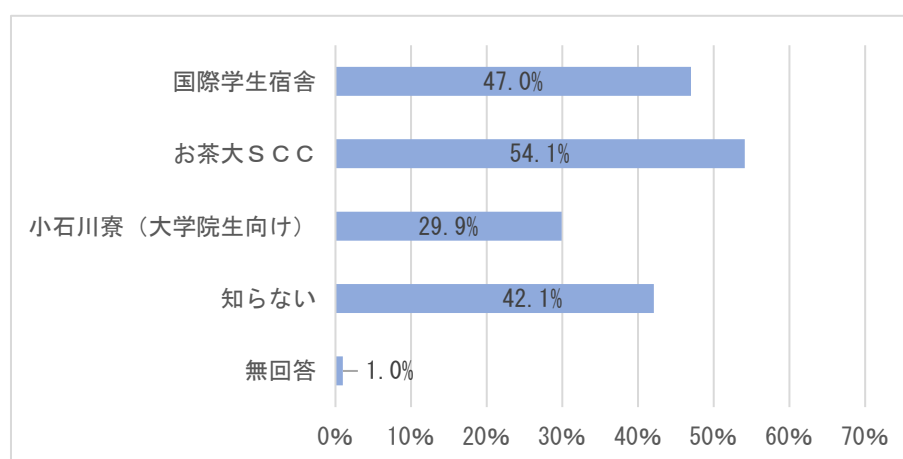
n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

② 保護者の結果

<学生寮の認知と利用希望>

図表 4-1 では、新入生の保護者に本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ねた結果である。

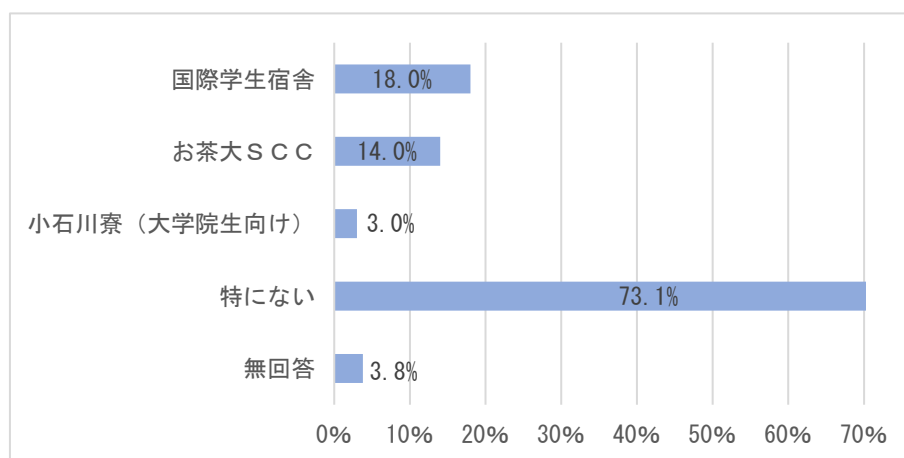
認知率が最も高かったのは、お茶大 SCC で 54.1%と最も高く、次いで国際学生宿舎が 47.0%、小石川寮は 29.9%であった。「知らない」と回答した割合は 42.1%であった。



図表 4-1 保護者の学生寮認知

図表 4-2 は、本学の学生寮への入寮希望について複数回答可として尋ねた結果である。

国際学生宿舎への入寮希望が 18.0%、次いでお茶大 SCC が 14.0%、小石川寮が 3.0%であり、入寮希望について「特にない」が 73.1%であった。



図表 4-2 本学の学生寮への入寮希望

<学生寮入寮希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が学生寮への入寮を希望しているか明らかにするために「入寮希望」とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 4-3～4-10 に示す。

図表 4-3 では「家計支持者」と「入寮希望」のクロス表である。家計支持者が父親または母親である場合には学生寮を希望する割合が高いという関連が見られた。

図表 4-3 家計支持者と入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者	父親*	度数	78	275	353
		%	22.1%	77.9%	100.0%
	母親**	度数	12	18	30
		%	40.0%	60.0%	100.0%
	本人n.s.	度数	0	1	1
		%	0.0%	100.0%	100.0%
合計		度数	90	288	378
		%	23.8%	76.2%	100.0%

注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-4 では「父親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。父親の就労形態が「フルタイム勤務」や「自営」の場合は入寮を希望する割合が統計的に低い傾向がみられ、その他の「パートタイム勤務」や「無職」、そして父親が「いない」場合は高い傾向がみられた。

図表 4-4 父親の就労形態と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
父親の就労形態	フルタイム勤務	度数	76	252	328
		%	23.2%	76.8%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	0	3	3
		%	0.0%	100.0%	100.0%
	自営業	度数	6	21	27
		%	22.2%	77.8%	100.0%
	無職	度数	1	0	1
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	いない	度数	8	11	19
		%	42.1%	57.9%	100.0%
合計		度数	91	287	378
		%	24.1%	75.9%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表4-5は「母親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。母親が「フルタイム勤務」や「自営業」の場合には学生寮を希望する割合が高い傾向がみられた。ただし「母親の就労形態」と「入寮希望」との間には有意な関連は見られなかった。

図表 4-5 母親の就労形態と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の就労形態	フルタイム勤務	度数	31	72	103
		%	30.1%	69.9%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	36	125	161
		%	22.4%	77.6%	100.0%
	自営業	度数	6	16	22
		%	27.3%	72.7%	100.0%
	無職	度数	17	74	91
		%	18.7%	81.3%	100.0%
	いない	度数	0	1	1
		%	0.0%	100.0%	100.0%
合計		度数	90	288	378
		%	23.8%	76.2%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-6 は「入学後の暮らし向き」と「入寮希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きについて「ゆとりがない」と回答している場合、学生寮を希望する割合が高いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表 4-6 入学後の暮らし向きと入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	74	123	197
		%	37.6%	62.4%	100.0%
	ゆとりがある	度数	15	157	172
		%	8.7%	91.3%	100.0%
合計		度数	89	280	369
		%	24.1%	75.9%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-7 は「世帯年収」と「入寮希望」のクロス表である。質問票では、世帯年収に対して、400 万円未満から 1800 万円以上までを回答項目としていたが、「1200 万円以上」の回答数が少ないため「1200 万円以上 1400 万円未満」「1400 万円以上 1600 万円未満」「1600 万円以上 1800 万円未満」「1800 万円以上」は合算してクロス表を作成した。もっとも入寮希望が高かったのは「400 万円以上 600 万円未満」の世帯年収のものであり 42.9%であり、ついで「600 万円以上 800 万円未満」の 39.7%であった。世帯年収が上がると、入寮希望の割合が低くなる傾向がみられた。

図表 4-7 世帯年収と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
世帯年収	400万円未満	度数	7	15	22
		%	31.8%	68.2%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	12	16	28
		%	42.9%	57.1%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	23	35	58
		%	39.7%	60.3%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	23	67	90
		%	25.6%	74.4%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	17	63	80
		%	21.3%	78.8%	100.0%
	1200万円以上	度数	9	89	98
		%	9.2%	90.8%	100.0%
合計		度数	91	285	376
		%	24.2%	75.8%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-8 は「家計支持者の年収」と「入寮希望」のクロス表である。質問票では、家計支持者の年収に対して、400 万円未満から 1800 万円以上までを回答項目としていたが、「1200 万円以上」の回答数が少ないため「1200 万円以上 1400 万円未満」「1400 万円以上 1600 万円未満」「1600 万円以上 1800 万円未満」「1800 万円以上」は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が高くなるほど、学生寮を希望する割合が低くなる傾向であり、有意な関連がみられた。これは昨年度と同じ結果であった。

図表 4-8 家計支持者年収と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者年収	400万円未満	度数	8	19	27
		%	29.6%	70.4%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	19	26	45
		%	42.2%	57.8%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	35	55	90
		%	38.9%	61.1%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	18	67	85
		%	21.2%	78.8%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	7	57	64
		%	10.9%	89.1%	100.0%
1200万円以上	度数	4	60	64	
	%	6.3%	93.8%	100.0%	
合計		度数	91	284	375
		%	24.3%	75.7%	100.0%

*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-9 は「奨学金受給経験」と「入寮の希望」のクロス表である。今年度の調査では昨年度同様に、奨学金の受給経験がある場合、学生寮を希望する割合が高い結果を示した。

図表 4-9 奨学金受給経験と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
学生の奨学金受給経験	経験なし	度数	76	253	329
		%	23.1%	76.9%	100.0%
	経験あり	度数	15	33	48
		%	31.3%	68.8%	100.0%
合計		度数	91	286	377
		%	24.1%	75.9%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-10 は「学生寮認知」と「入寮希望」のクロス表である。学生寮について認知している場合には、学生寮を希望する割合が高く有意な関連がみられた。

図表 4-10 学生寮認知と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮の認知	知っている	度数	87	128	215
		%	40.5%	59.5%	100.0%
	知らない	度数	4	160	164
		%	2.4%	97.6%	100.0%
合計		度数	91	288	379
		%	24.0%	76.0%	100.0%

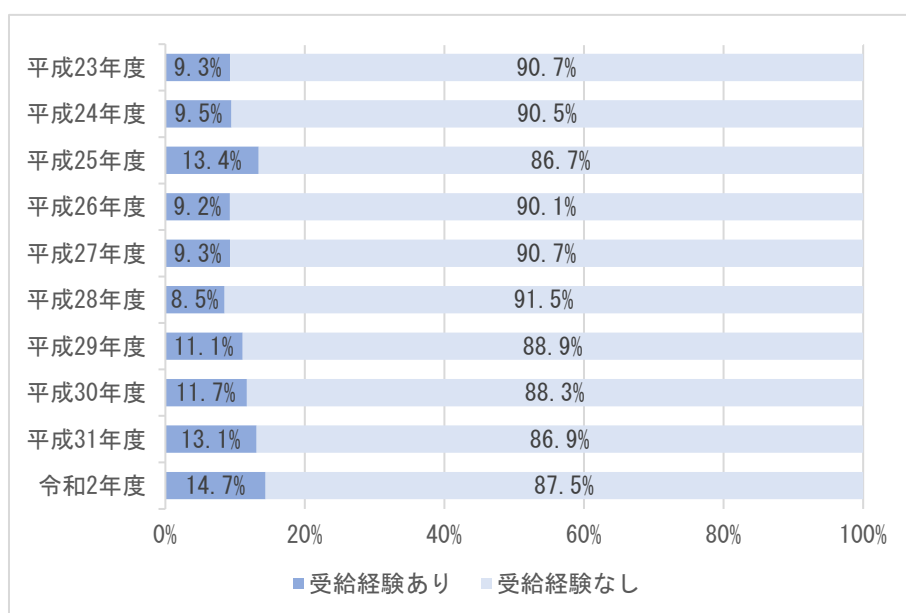
*** 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

(4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較

① 新入生

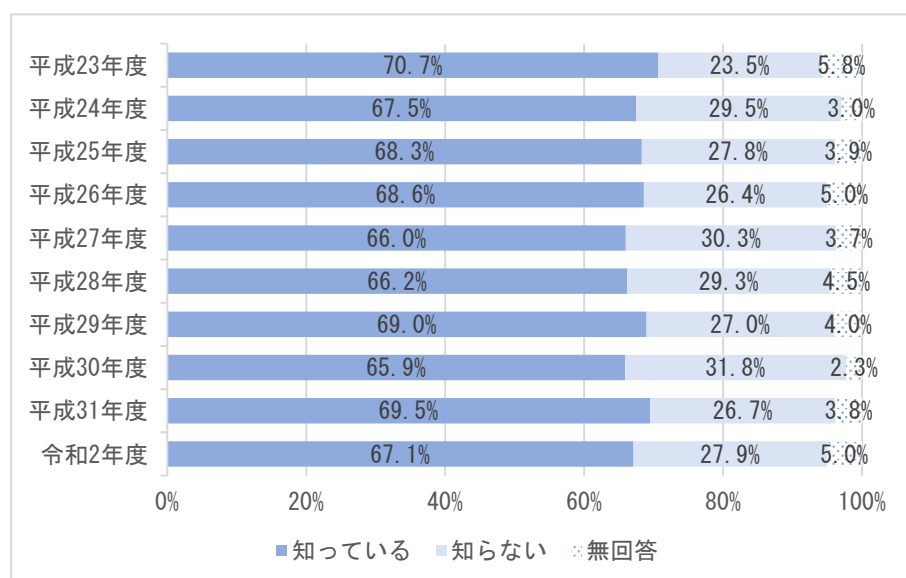
新入生の奨学金等制度受給経験、奨学金等制度の認知、学生寮の認知について過去9年間の結果と今年度の結果とを比較したものを図表5-1～5-3に示す。

図表5-1は新入生のこれまでの奨学金等制度の受給経験について過去9年間の結果と比較したものである。今年度は、奨学金受給経験が「ある」と回答した割合が14.7%であり、本調査が始まって以来の最も高い割合を示した。



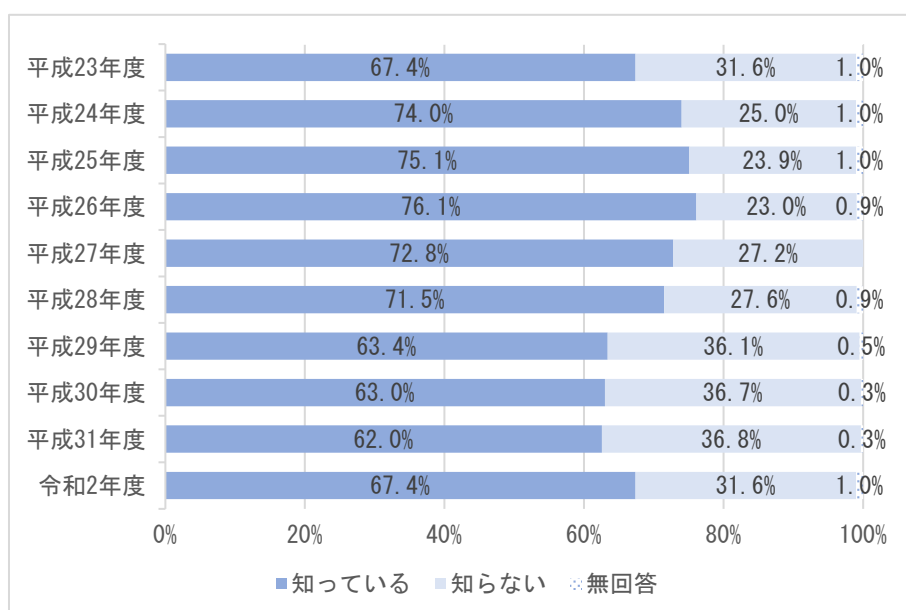
図表 5-1 新入生の奨学金等制度受給経験 過年度比較

図表5-2は新入生の奨学金等制度の認知について過去9年間の結果と比較したものである。今年度の調査において、奨学金等制度について認知している割合は、「知っている」が67.1%である。



図表 5-2 新入生の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 5-3 は新入生の学生寮の認知について、過去 9 年間の結果と比較したものである。新入生の学生寮認知率については、平成 26 年度以降認知率が低下し続けたが、今年度調査では、「知っている」が 67.4%と上昇が見せた。

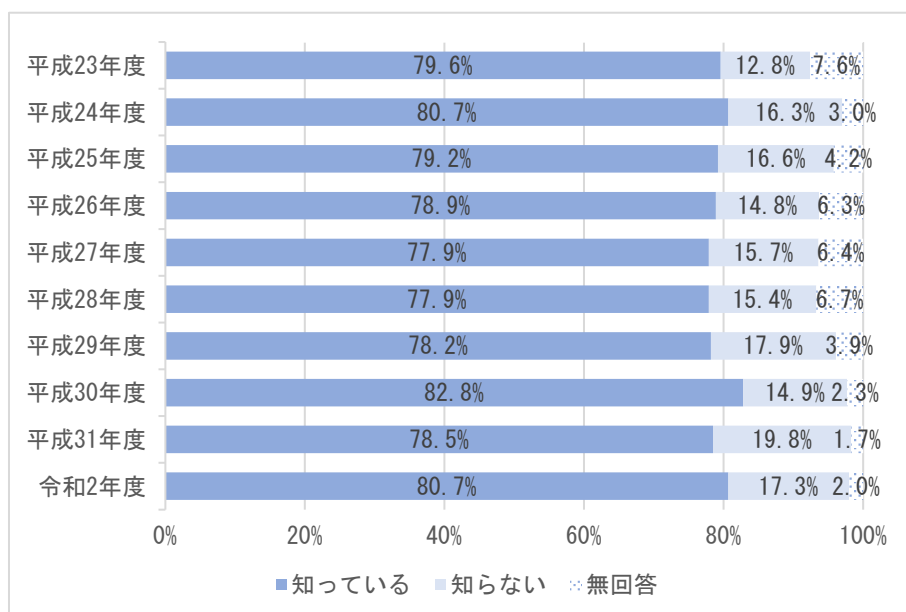


図表 5-3 新入生の学生寮の認知 過年度比較

② 保護者

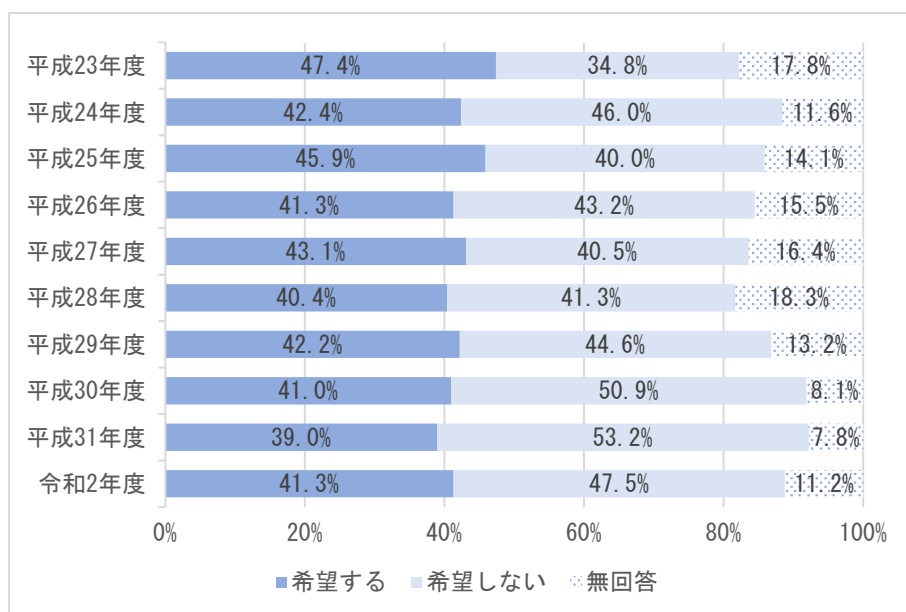
保護者の奨学金等制度の認知・希望、学生寮の認知・希望について過去 9 年間の結果と比較したものを図表 6-1～6-4 に示す。

図表 6-1 は保護者の奨学金等制度の認知について過去 9 年間の結果と比較したものである。今年度の調査においては、「知っている」が 80.7%であり、昨年度の調査からは、約 2.2 ポイント上がった。「知らない」が 17.3%であった。



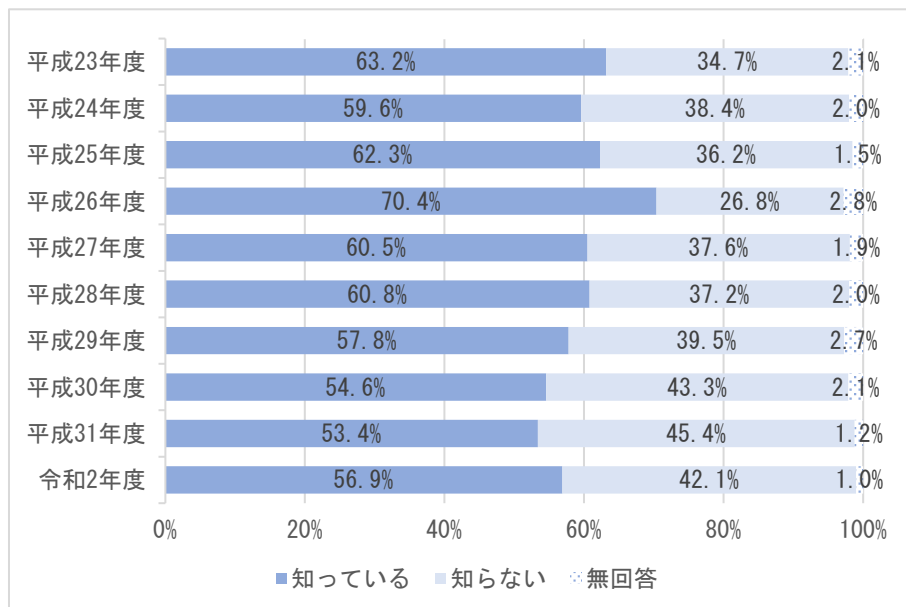
図表 6-1 保護者の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 6-2 は保護者の奨学金等制度の利用希望について過去 9 年間の結果と比較したものである。昨年度の調査では奨学金を希望しない」と回答した割合が過去の調査と比べて最も高い結果となったが、今年度の調査結果では奨学金の希望率が昨年度と比べ、やや増加する傾向が見られた。



図表 6-2 保護者の奨学金等制度利用希望 過年度比較

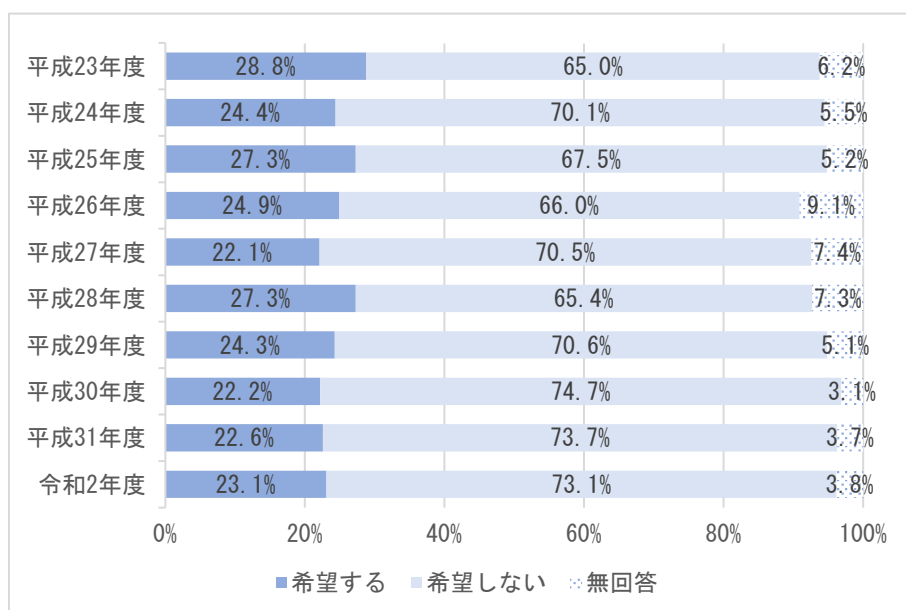
図表 6-3 は保護者の学生寮の認知について過去 9 年間の結果と比較したものである。昨年度は過去の調査の中で最も低い認知率を示していたが、今年度は 56.9% となり、昨年度より約 3.4 ポイント増加した。



図表 6-3 保護者の学生寮の認知 過年度比較

図表 6-4 は保護者の学生寮希望について過去 9 年間の結果と比較したものである。今年度は、学生寮への入寮を「希望する」と回答した割合は 23.1%、「希望しない」と回答した割合は 73.1% で

ある。



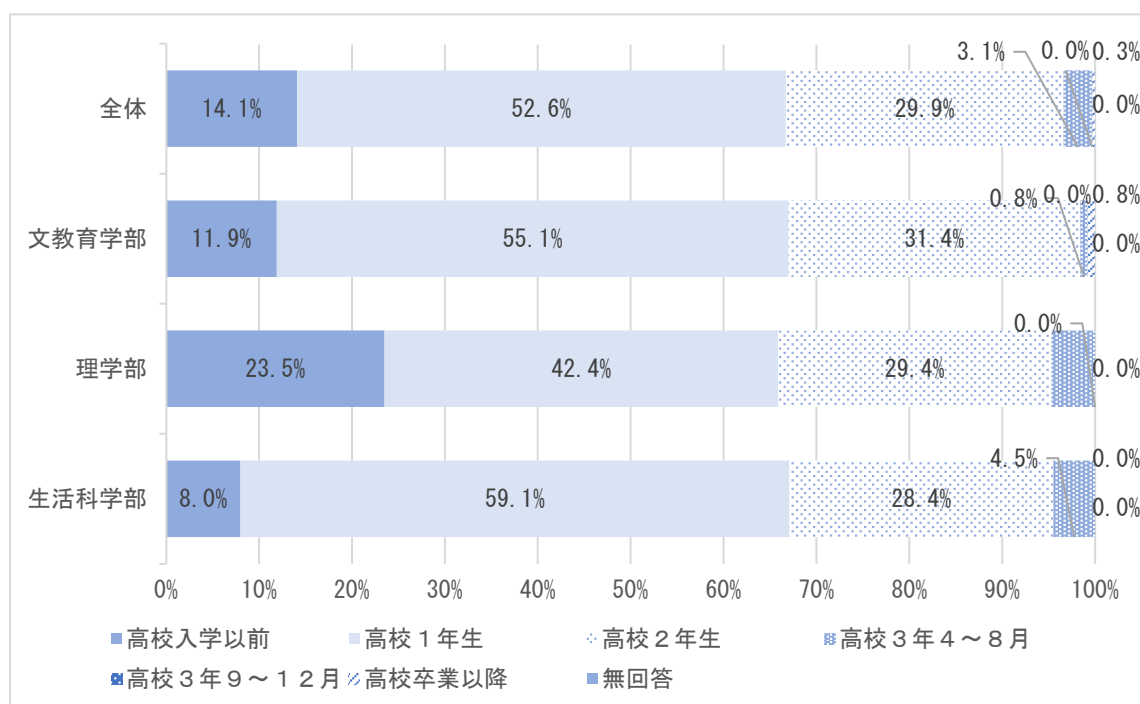
図表 6-4 保護者の学生寮利用希望 過年度比較

第4章 高校時代進路選択の分析結果

本章では、一般入試合格者 291 名にこれまでの進路選択にかかわる質問や、高校時代の進路指導、お茶の水女子大学を選んだ理由等について尋ねた結果を報告する。

図表 1-1 は、高校時代にコース（文系・理系）を決めた時期について、尋ねたものである。全体では「高校 1 年生」に文理のコース選択をしたと回答した割合が 52.6%と最も多い割合を示しており、次いで「高校 2 年生」が 29.9%、「高校入学以前」が 14.1%と続く。全体の 90%以上が、高校 3 年生になる前に文理の選択が終了している。

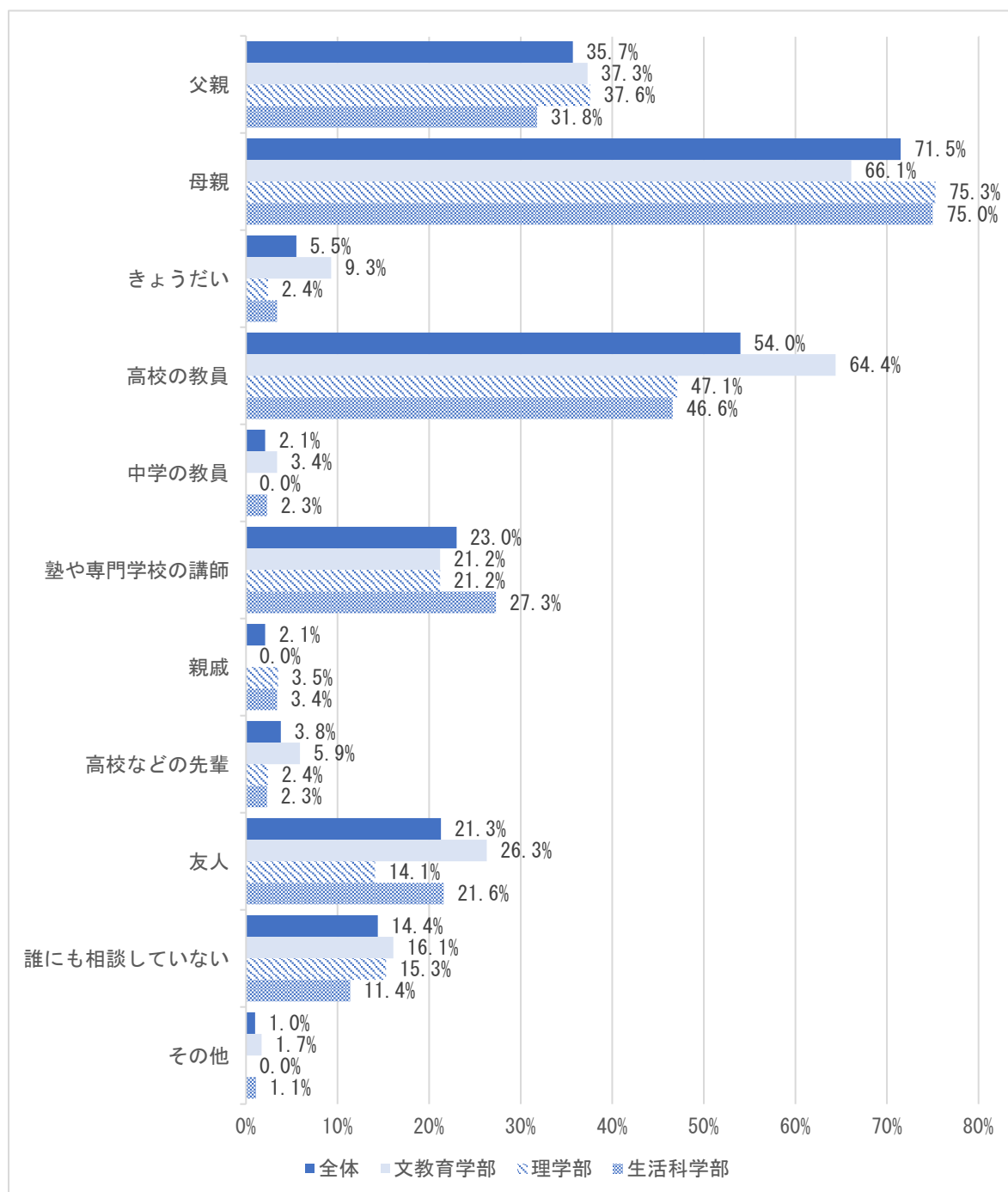
学部別に見ると、高校入学前に進路選択がおこなわれている割合が最も高いのは、理学部で 23.5%、文教育学部 11.9%であった。昨年度の調査においても、高校入学前に進路選択がおこなわれている割合が最も高い学部は理学部であり 25.9%であった。



図表 1-1 文理選択の時期

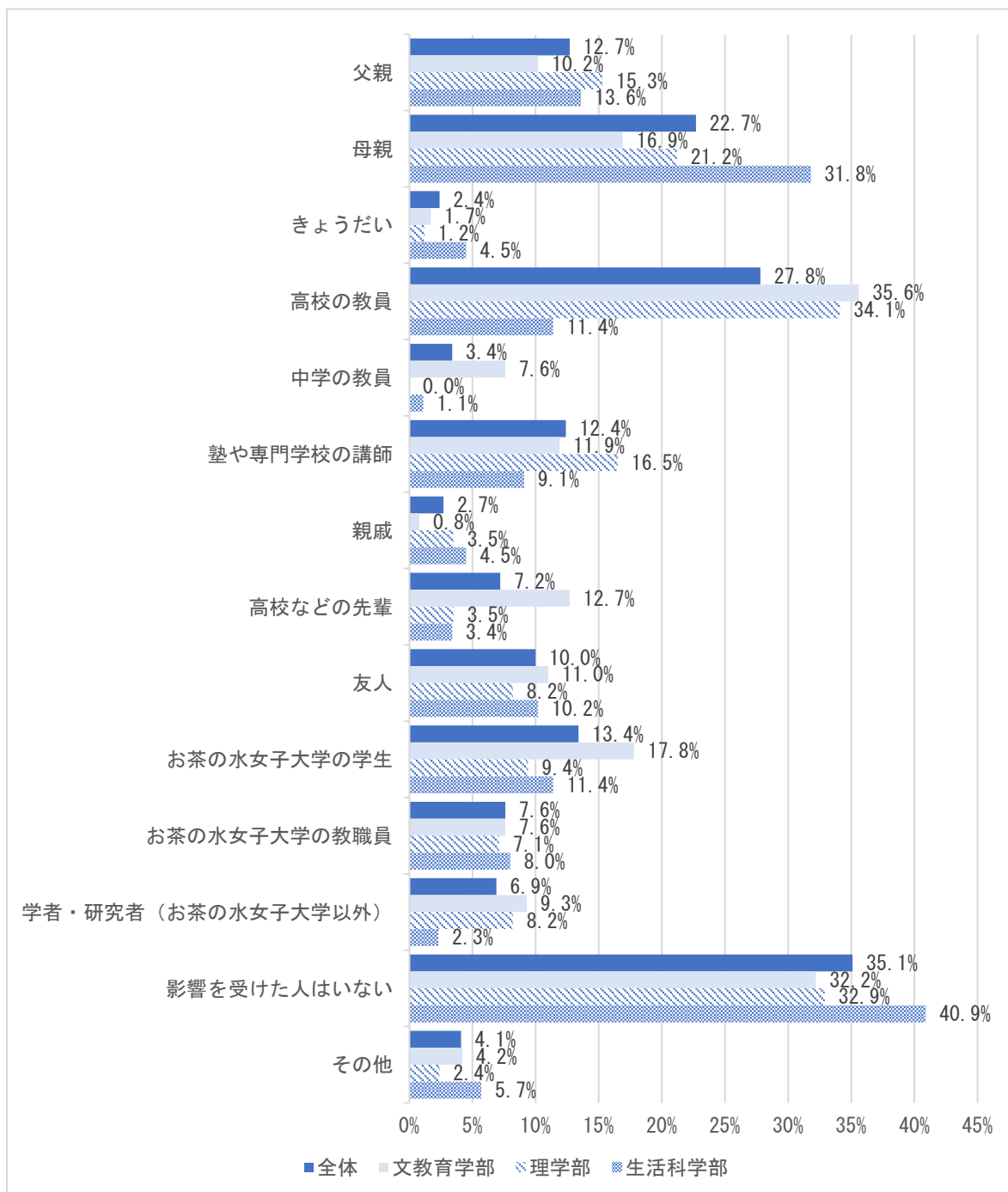
図表 1-2 では、専門（学科）を選ぶ際に、相談した人について、複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も多い割合を示しているのは、「母親」の 71.5%であり、次に「高校の教員」54.0%、「父親」35.7%であった。「誰にも相談していない」と回答した割合も 14.4%と一定数あることが示された。

学部別に見ても、どの学部においても、相談した人の最も高い割合を示したのは「母親」であり、次いで「高校の教員」、「父親」という結果であった。



図表 1-2 専門（学科）を選ぶ際に相談した人

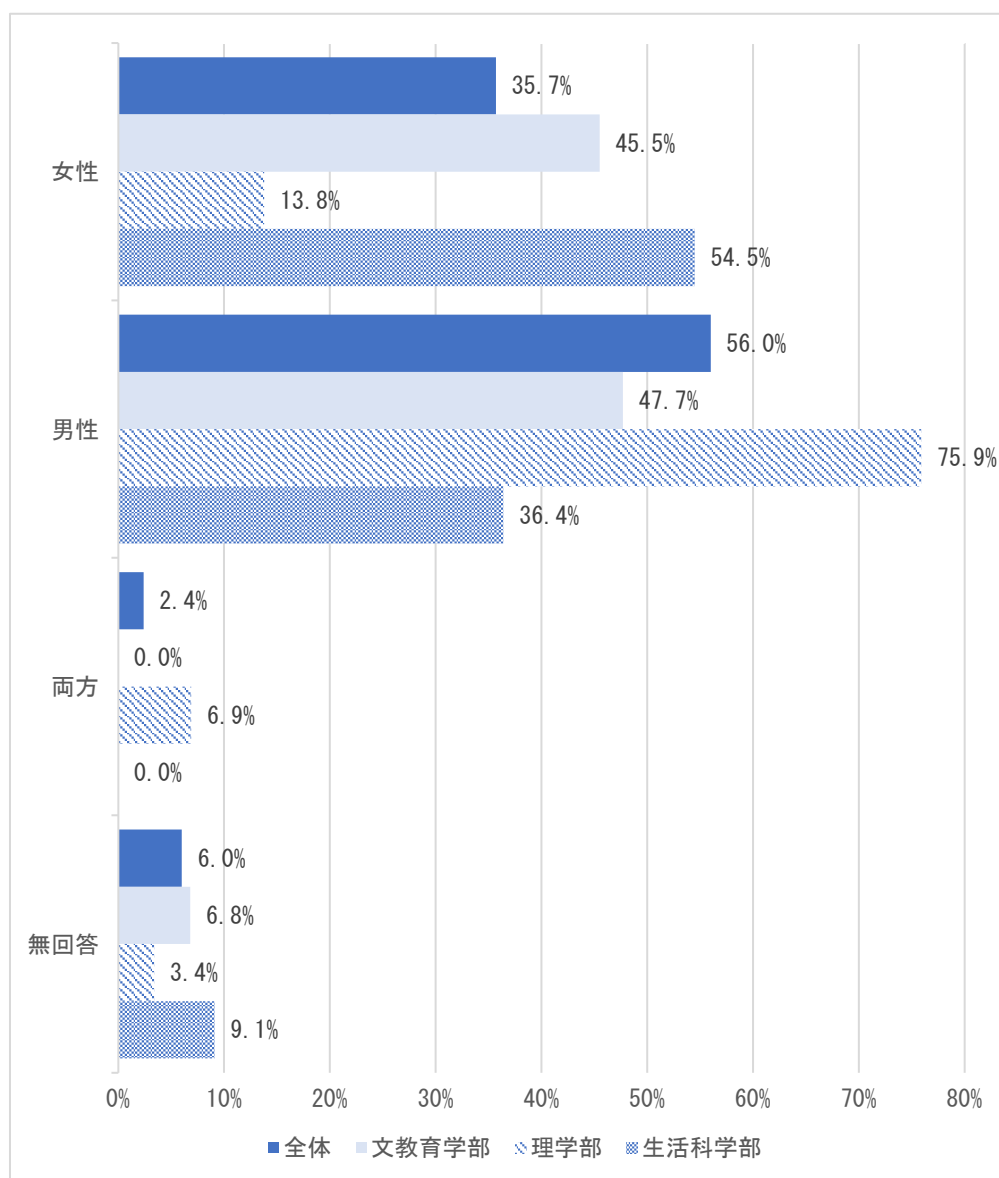
図表 1-3 では、専門（学科）を選ぶに当たって影響を受けた人について、複数回答可として尋ねた結果である。最も多いものは「影響を受けた人はいない」で 35.1%であった。影響を受けた人がいると回答した中では全体では「高校の教員」が最も多く 27.8%、次に「母親」が 22.7%、「お茶の水女子大学の学生」が 13.4%であった。学部別にみると、理学部では「中学の教員」から影響を受けたという回答がなかった。文教育学部では、最も影響を受けたのは「高校の教員」であり、生活科学部の場合は「母親」である。



図表 1-3 専門（学科）を選ぶ際に影響を受けた人

図表 1-4～1-7 では、専門（学科）を選ぶにあたって、「中学の教員」もしくは「高校の教員」から影響を受けたと回答した新入生 84 名に、その教員について尋ねた結果である。図表 1-4 では影響を受けた教員の性別、図表 1-5 では教員の専門科目、図表 1-6、1-7 では教員の卒業大学について尋ねた結果を示している。

図表 1-4 からは、どの学部においても女性教員より男性教員から影響を受けたと回答する割合が高いという、昨年度の結果とは異なっていることがわかる。文教育学部、理学部では女性の教員よりも男性の教員から影響を受けたと回答する割合が高いが、生活科学部では、女性の教員から影響を受けたと回答する割合が高い。



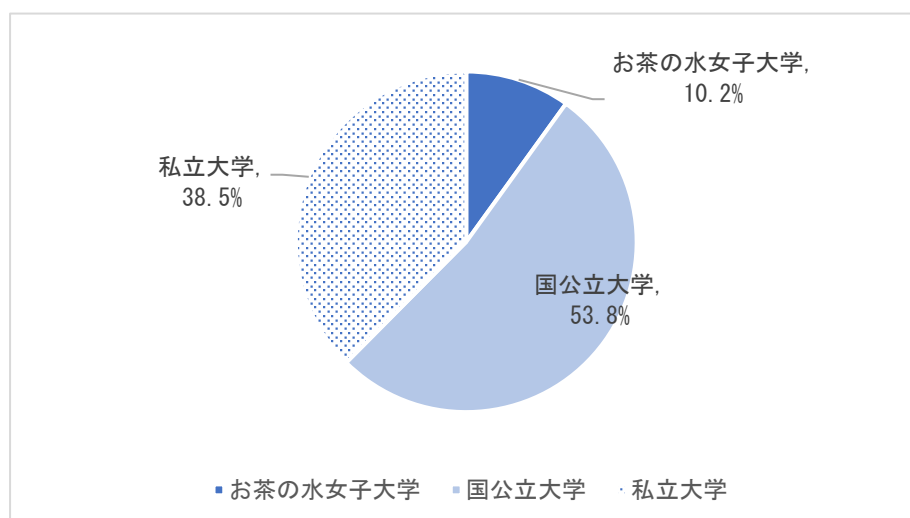
図表 1-4 影響を受けた教員（中学/高校）の性別

図表 1-5 では、影響を受けた教員の専門科目が、自身の入学学科と深くかかわりを持つものである場合が多いことが示された。これは、昨年度の新入生調査でも同じ結果であった。

図表 1-5 影響を受けた教員（中学/高校）の専門

入学学部	入学学科	影響を受けた先生の専門
文教育学部	人文科学科	国語（3）、西洋史(1)、世界史(2)、朝鮮史(1)、地理学(3)、日本史(1)、日本史/生物(1)、倫理/政治・経済(1)
	言語文化学科	国語(6)、英語(5)、中国文学(1)、日本文学(1) 日本文学（近現代）(1)、古文(1)、数学(1)、中世史(1)、日本史(1)、物理(1)、保健体育(1)
	人間社会科学科	英語(1)、政治学（欧州）(1)、国語(2)、倫理(1)、世界史(1)、考古学(1)、数学(1)
	芸術・表現行動学科	記入なし
理学部	数学科	数学(2)、物理(1)
	物理学科	物理(6)、電気電子工学(1)
	化学科	化学(5)、無機化学(1)、有機化学(1)、化学・数学(1)
	生物学科	生物(6)
	情報科学科	地理(1)、数学(1)、情報(1)
生活科学部	食物栄養学科	化学(1)、数学(1)、家庭科(1)
	人間・環境科学科	数学(1)
	人間生活学科	社会科(1)、世界史（中国史）(1)
	心理学科	英語(1)、国語(1)、社会科(1)

図表 1-6 では、影響を受けた教員の卒業大学について回答のあった 39 名の結果を、お茶の水女子大学、その他の国立大学、私立大学の割合を示したものである。また、図表 1-7 ではその卒業大学名を一覧で示している。影響を受けた教員の卒業大学について回答があったうち、10.2%がお茶の水女子大学を卒業した教員であることが示された。これは昨年の 19.6%と比べて 9.4 ポイント低い結果であった。

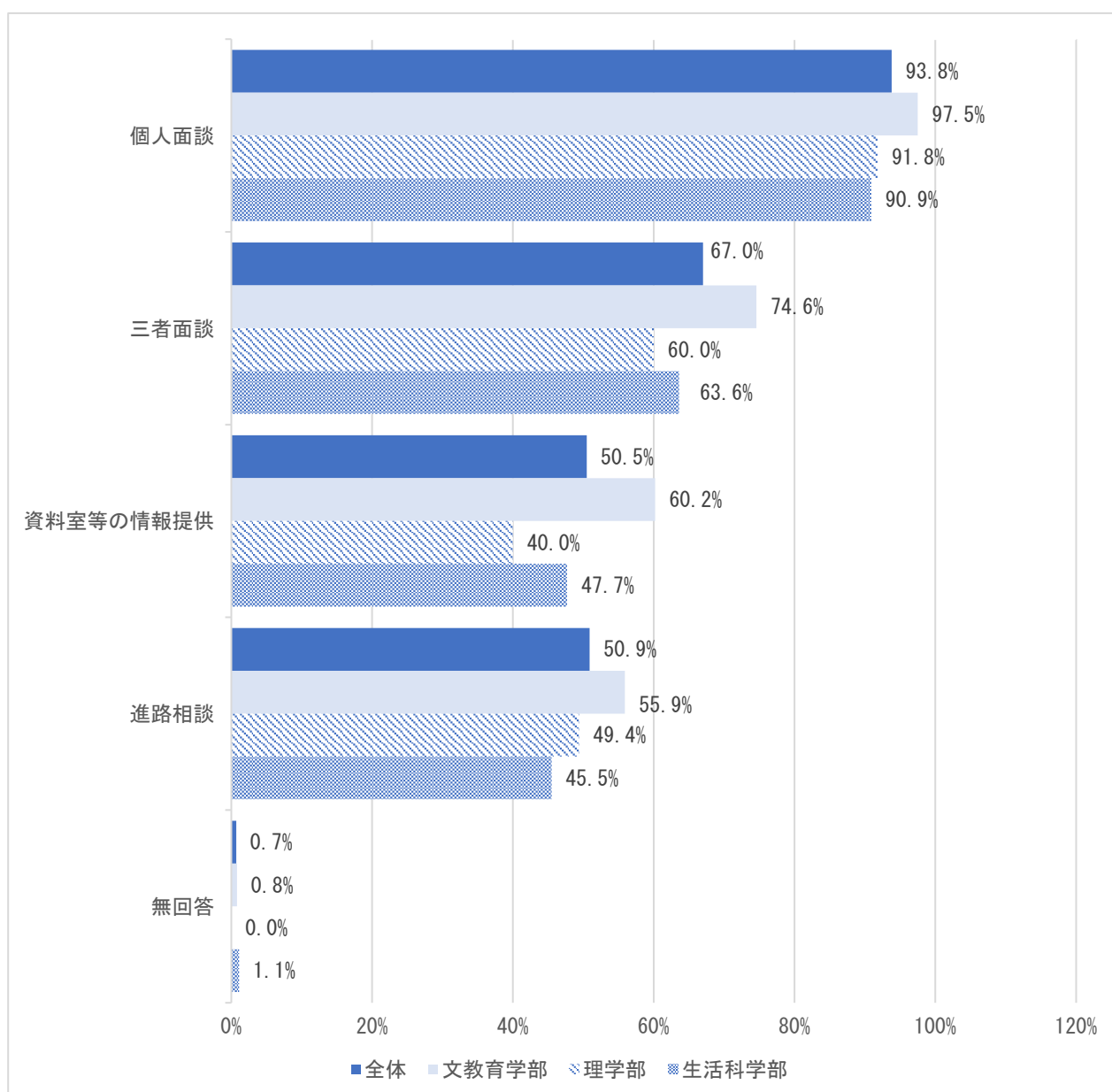


図表 1-6 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学

図表 1-7 影響を受けた教員（中学/高校）の卒業大学名一覧

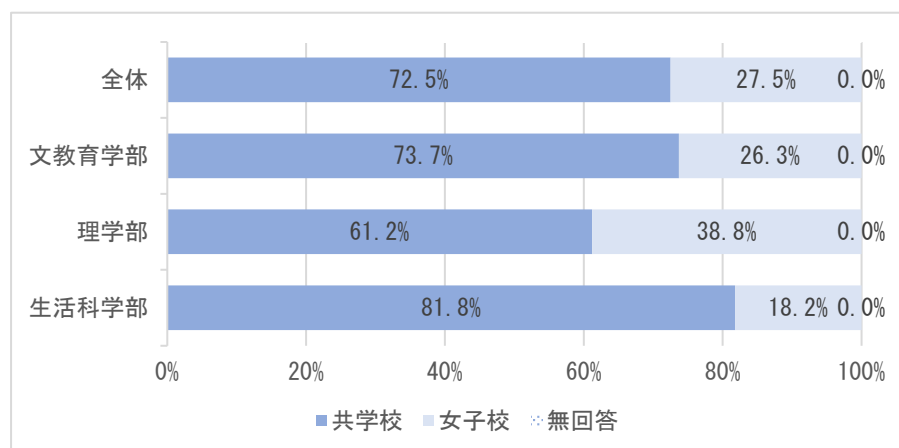
国立大学	お茶の水女子大学（3）、大阪大学（2）、鹿児島大学、群馬大学、埼玉大学（2）、東京工業大学（2）、筑波大学（4）、東北大学、都立大学、長崎大学、広島大学（2）、山口大学、横浜国立大学、千葉大学、東京学芸大学（2）
私立大学	慶応義塾大学、國學院大學、上智大学（2）、成蹊大学、東京理科大学（4）、東邦大学、立命館大学、早稲田大学（4）

図表 1-8 では、高等学校で受けた進路指導がどのようなものだったかについて、「個人面談」、「三者面談」、「資料室等の情報提供」、「進路相談」の4つから複数回答可として尋ねた結果である。全体で最も高い割合を示していたものは「個人面談」で93.8%であった。



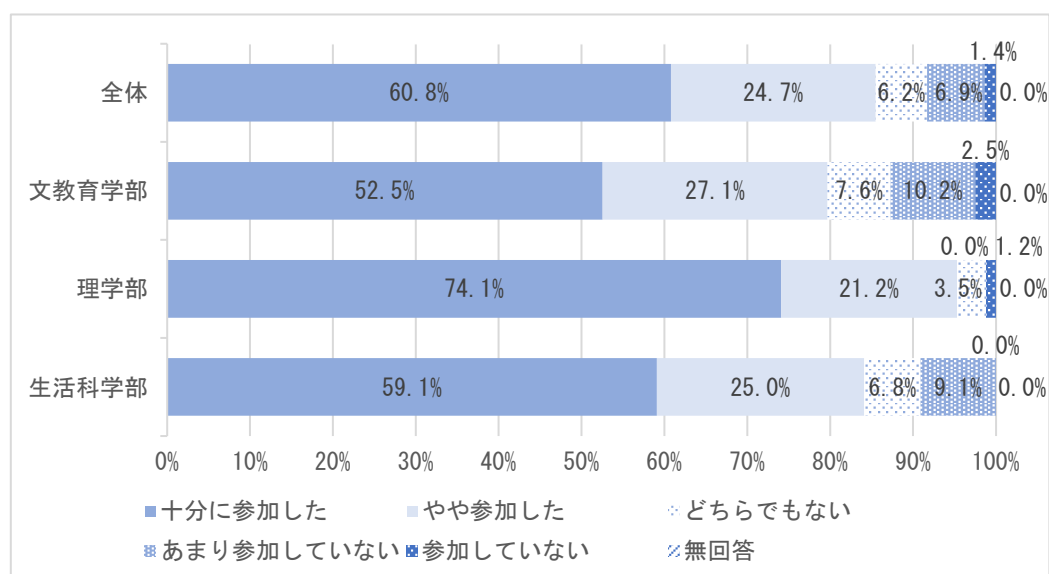
図表 1-8 高等学校で受けた進路指導

図表 1-9 では、出身高等学校について尋ねた結果である。全体では高等学校が「共学校」であると回答した割合が 72.5%、「女子校」と回答した割合は 27.5%であった。学部別にみると、理学部では、「共学校」と回答した割合が他 2 学部と比べて低い結果であった。



図表 1-9 出身高等学校について（共学/女子校）

図表 1-10 では、高等学校時代の理系科目の学修において、どの程度実験や実習に参加していたかを尋ねた結果である。全体で見ると、「参加した」（「十分に参加した」＋「やや参加した」）と回答した割合は 85.5%であり、「参加していない」（「あまり参加していない」＋「参加していない」）と回答した割合は、8.3%であった。3 学部で比較すると、理学部が「参加した」と「参加していない」と回答した割合は最も高いとの結果であった。

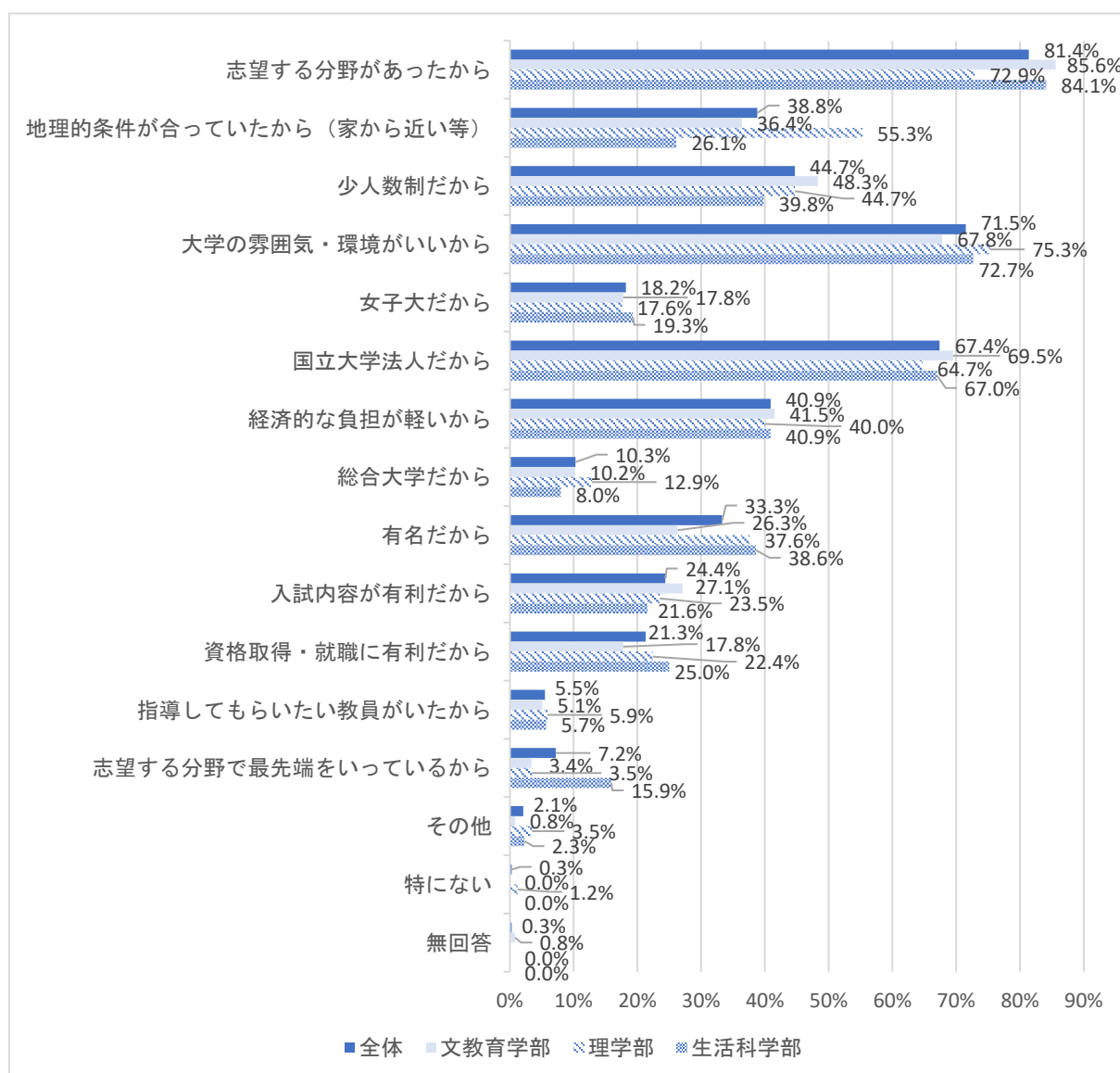


図表 1-10 理系科目の実験・実習の参加度合い

図表 1-11 では、お茶の水女子大学を選んだ理由について、自分の学力や入試の難易度以外に重視したものを複数回答で尋ねた結果である。

全体で最も高い割合を示しているのは、「志望する分野があったから」で 81.4%であり、昨年度の結果と同様に高い水準を維持している。次に「大学の雰囲気・環境がいいから」71.5%、「国立大学法人だから」67.4%、が続く。学部別にみると、文教育学部・生活科学部で最も高い割合を示しているのは「志望する分野があったから」であり、理学部では「大学の雰囲気・環境がいいから」の 57.3%であった。

また、理学部では、「地理的条件が合っていたから（家から近い等）」を理由としてあげるものの割合が 55.3%であり、他の学部と比較して高い傾向がみられた。



図表 1-11 お茶の水女子大学を選んだ理由（自分の学力や入試難易度以外）

第5章 考察および今後の課題

(1) 令和2年度新入生の特徴と考察

第1章、第2章に示した令和2年度新入生調査より明らかになった特徴をまとめる。

1. お茶の水女子大学の受験を決める時期は高校2年生・高校3年生の4月から8月が半数以上を占める。新入生の約9割%は「お茶大を第一志望」として入学。ただし、受験を決める時期、志望度ともに学部間にはやや差異がある

令和2年度新入生の本学を第一志望とする割合は全体で87.3%と、依然として高い水準にある。学部別では生活科学部が95.6%で、平成31年度より約4ポイント高く文教育学部も88.3%でほぼ例年なみである。理学部の第一希望割合は76.9%で、大幅に上昇した平成31年度よりは4.4ポイント減少している。引き続き学部別の志望度に注視する必要がある。

受験を決める時期は、例年理学部が遅めであるが、令和2年度については、高校3年生の4月から8月の割合が最も大きく、決定時期が前倒しになっている。

2. 学びの意欲が高い一方で、授業についていけるかどうかに対する不安もある

「大学に入学後、特にこの1年で頑張ろうと思う活動」において「大学の授業」と回答した学生は99.8%と例年同様非常に高く、同時に尋ねた他の活動を大きく上回っている。同時に、「大学生活が始まって心配なこと」として最も高いのは「授業についていけるか」78.8%で、平成31年度から10ポイント上昇している。大学としては、引き続き学生の学習意欲を十分に受け止め、授業への不安や心配を取り除くような学生支援をすることが求められる。本報告書はコロナ感染前に行われたものであるため、オンライン学習が中心の環境下であることを考慮したきめ細やかな学習支援が求められるだろう。

3. 卒業後の進路希望は例年同様「民間企業への就職」「進学」が多く、学部による差異あり

大学卒業後の進路希望については、全体では「民間企業に就職する」55.9%、「大学院などに進学する（海外含む）」48.4%、「公務員」28.9%、「教師など専門職」21.2%であり、例年と同様である。学部別の特徴は、理学部で大学院への進学希望者が多く(73.1%)、文教育学部では「民間企業(58.1%)」「公務員(34.6%)」が多い。生活科学部は、「民間企業(65.8%)」、「進学(52.6%)」の希望者が相対的に高いという特徴があるが、各学部の進路希望の特徴に大きな変化はない。

4. 実家から通学する学生は57.4%、生活科学部で仕送りがいない割合が高い

入学後の住居の予定として複数回答可として尋ねた結果、全体で「実家から通学」は57.4%、「賃貸アパートやマンション」30.4%、国際学生宿舎は14.5%、お茶大SCCは9.7%となっている。また、自宅外通学者の「仕送りなし」者の割合は5.0%と平成31年度より減少したが、生活科学部が11.5%と高い。本学学生の仕送り額は一般的な水準より高いようだが、5万円以下の学生も約2割存在するため、学生間の仕送り額の違いに注視する必要がある。

5. 大学に期待する学生支援活動は学生・保護者ともに「就職支援」と「進路相談」

大学の学生支援活動への期待（複数回答）は、「就職支援」に期待する人が例年同様77.6%と最も多く、次いで「進路相談」63.8%、「学習支援」62.6%であった。保護者調査も学生と同様に「就職支援」85.0%、「進路相談」74.9%、「学習支援」58.6%と高かった。学生・保護者ともに、卒業後の学生のキャリア形成に対する大学への期待が高い状況は継続している。

(2) 奨学金と学生寮に関する考察

第3章で述べた学生支援における奨学金・学生寮の結果についてまとめ、考察する。

1. 奨学金

どのような学生、保護者が奨学金を認知しているのかを念頭に、奨学金等制度について新入生の結果をまとめた。新入生においては、「奨学金受給経験者」、「入学後の予定住居が実家以外の者」、「学生寮を認知している者」、「学寮を認知している者」は奨学金等制度を認知している割合が高いことが示された。また、保護者調査においては、「入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている者」、「世帯年収が800万円未満の者」、「家計支持者の年収が600万円未満の者」、「奨学金受給経験のある者」、「学生寮を希望している者」は奨学金等制度の利用を希望する割合が高いことが示された。

また、新入生の奨学金受給経験者の割合は過去9年の結果の中で最も多い結果となっているが、奨学金制度の認知率は例年並みである。保護者の奨学金認知率は昨年度より2.2ポイント増加し、9年間の調査で2番目の認知率となっている。保護者の奨学金制度の利用希望について、「希望しない」の回答は昨年度より下がったが、9年間のデータを俯瞰的に見ると、やや高い水準を維持していると言える。

新入生において、本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」への認知率は最も高い46.6%となっている。但し、奨学金全般の認知率から見ると、保護者の奨学金認知率は8割前後である一方で、新入生は6割前後となっている。新入生の奨学金認知率は一定の水準で維持されているが、保護者の認知率ほどではなかったため、奨学金制度に関する新入生への広報は依然課題として挙げられる。

2. 学生寮

学生寮について新入生の結果をまとめると、「入学後の予定住居が実家以外の者」は学生寮を認知している割合が高いことが示された。

また保護者調査の結果では、「入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている者」、「世帯年収が400万円～800万円未満の者」、「家計支持者年収が400万円～800万円未満の者」、「学生寮を認知している者」について、学生寮を希望する割合が高いことが示された。世帯年収、家計支持者の年収が400万円～800万円未満の場合は、学生寮に入寮する希望の割合が高まる傾向が今年度調査の特徴である。しかし、この特徴は収入が400万円未満の人数が例年より半数以上減ったための影響とも考えられるため、経済支援の一環として学生寮が機能することには変わりがないであろう。

学生寮の認知について過去9年の調査結果と比較すると、学生寮の認知率が低下していた一昨年、昨年度の結果とは一転し、上昇する傾向が見られた。今年度新入生の認知率は67.2%であり、保護者の認知率は56.9%である。また保護者が学生寮を「希望しない」割合は73.1%と、調査開始以来では比較的低い水準となっている。

本学の学部生向けの寮には自治寮、個室タイプの国際学生宿舎と教育寮、シェアハウスタイプのSCCがある。また、令和4年にキャンパスの敷地内に新しい学生寮を開寮する予定である。各学生寮の特徴はそれぞれであり、多様な選択ができるようになったため、学生及び保護者が自身のニーズとマッチングする際にイメージしやすいように、具体的な情報を提供することが一層重要となってくる。また、コロナ感染の社会背景を踏まえた各寮の広報、情報公開と同時に、適宜学生のニーズ、寮の生活満足度を把握し、学生生活支援の実践につなげることも重要と考える。

(3) 学生・キャリア支援における課題

令和2年度新入生調査および保護者調査を通じて得られた、本学における学生・キャリア支援の課題は次の3点である。

1. 大学での学びとキャリア形成に向けた活動の両立支援

令和2年度の新入生も、これまでと同様に約9割が第一志望として本学に入学し、高い学習意欲をもっている。進路の希望は、民間企業、大学院への進学、公務員、教員など多様で、学部による特徴もある。また、本学学生は初職を継続し、結婚・出産などのライフイベントと仕事の両立も希望している。教職員はこのような学生のニーズを十分に理解し、学生が勉学に打ち込みながら同時に自らのキャリア形成を考え、実現してゆけるような両立支援に努める必要がある。

キャリア形成支援活動については、すでに学生・キャリア支援センター(以下、センター)において、学生の段階に応じた支援行事を実施している。また、理系・文系学生対象、公務員・教員志望者対象など、特定のニーズにフォーカスした支援行事も行っている。さらに、自己理解や面接対応などを目的としたワークショップでは、個別の学生に対してきめ細やかな支援活動を実践している。その際、授業への出席や勉学への支障がないよう開催時期や時間帯を考慮している。今後も学生との対話を通してニーズを見極め、支援内容をブラッシュアップすること、就職活動時期の変動、日本型雇用慣行のゆらぎなどの社会・企業における環境変化に十分な配慮をしながら、支援活動の質を向上させる不断の努力を重ねる必要がある。

さらに、本学の保護者の方々は、大学の進路相談や就職支援へ期待を寄せているのと同時に、ご自身が学生たちの就職や将来に深く関与している。大学は、就業環境の変化や就職活動の時期や方法の変化・進化などについて保護者の方々にも適切な情報提供を行い。保護者の方々と大学が一体となって、学生が学びとキャリア形成を充実させることができるよう努める必要がある。

2. 大学院博士課程への進学を希望する学生へのキャリア支援

高度化・グローバル化する社会環境において、博士課程を修了した高度人材に対する社会的なニーズが一層高まることが予想される。本学の院生もそのような社会からの期待に応えるべき人材である。本学の特徴として、理学部を中心に大学院進学を希望する新入生の割合は高く、さらに博士後期課程の進学を視野に入れる学生も一定割合存在する。このような学生に対しては、学部卒業直後に就職を希望する学生とは異なり、研究や学びと並行して大学院進学後のキャリアプランを考えるためのキャリア教育や支援が必要である。すでに、センターにおいては博士後期課程の学生やその予備軍を念頭に置いた支援行事やキャリア相談をスタートさせているが、今後も支援内容の質的向上を継続的に行うことが求められる。

3. 学生の個々の状況に応じた生活支援

本学の保護者の世帯年収は大学に通わせている保護者の全国平均に比べて高く、仕送り額も多い傾向があるため、全体としては、学生が経済生活を心配することなく学業に専念できる環境にある。しかし、入学した後の家庭の暮らし向きに「ゆとりがない」と答える保護者は半数を超え、特に、自宅外から通学する学生の保護者は暮らし向きにゆとりがないと回答する割合が高い。また、令和2年度の自宅外通学者は42.6%で、自宅外通学で仕送り額がないと答えるものも5%程度存在し、仕送り額の少ない学生では、入学後の「生活・経済」に関する不安・心配が高い。大学としては、このような学生の個別事情を認識し、日本学生支援機構や本学独自の奨学金をはじめとし、その他の経済的支援を学生および保護者に十分に広報することが重要である。コロナ感染による環境変化によって、経済的な問題が今後顕在化してくる可能性があるため、学生からの相談を教職員が学生支援部門につなぎ、すべての学生が学業に専念できるような経済的支援を充実させることが重要である。

新入生生活調査

<入学予定者用>

(一般入試合格者および私費外国人留学生)

お茶の水女子大学に入学を予定されているみなさまへ

この度は、お茶の水女子大学に合格おめでとうございます。お茶の水女子大学は、みなさんのご入学を歓迎し、今後の学生生活が実りあるものになるよう祈念しております。

さて、本学では、入学予定者およびその保護者の方にアンケートを実施いたします。これは、入学を予定している方の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的としています。具体的には、

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

上記4点を中心にするものです。

ご回答いただきました内容は、統計的に処理をします。個人としてのご回答が公表されることはありません。また、調査結果は上記の目的以外に使用することはありません。

調査票中、質問項目の左に＊がついている項目は、本学入学後も、新入生個人の情報として、学生支援を行うために利用しますが、回答に含まれる個人情報、お茶の水女子大学個人情報の管理に関する規則及び関係諸規定に基づき、厳格に管理いたします。

なお、アンケートにご協力いただけなかった場合でも、本学教育課程その他に不利益を被ることはありません。また、入学を辞退された方の個人情報は、入学辞退届を受理次第、破棄いたします。

どうかアンケートの趣旨をご理解賜り、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下の通りです。

【実施主体】 国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

【問い合わせ先】 新入生生活調査担当 (03-5978-2646)

【個人情報について】

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めています。

<http://www.ocha.ac.jp/about/individual.html>

以下のご回答にあたってのご注意をお読みのうえ、ご回答願います。

ご回答にあたってのお願い

- ・お答えは、黒鉛筆または黒ボールペンで、あてはまる回答についている数字を○でかこんでいただく場合と、マスの中に数字を記入する場合があります。「その他」にあてはまる時は、数字を○でかこみ、() 内に具体的な内容を記入して下さい。() 内に書ききれない場合は、欄外にご記入下さい。
- ・質問番号順にお答え下さい。質問の中には、一部の方にだけおたずねするものがありますが、その場合は指示に従って下さい。
- ・「⑨⑩=01」とか⑪などの記号は、コンピュータで処理するためのものですので、質問やお答えとは関係ありません。
- ・表紙依頼文にも一部記載いたしましたが、アンケートの最後に、ご回答内容の研究調査へのデータ使用および皆様個人への学生支援のためのご回答の管理・登録への許可をお伺いしております。許可いただけない場合は、使用することはありません。
- ・入学辞退をされた方は、入学辞退届を受理次第、調査票そのものを破棄いたします。
- ・アンケートは、大学で付けた I D 番号で管理をしております。**アンケート用紙には、あなたや保護者の方のお名前、住所などは記載せず**ご回答、ご返送ください。
- ・アンケートの回答及び返送をもって、個人情報の取り扱いに同意いただけたものといたします。回答後に同意を撤回されたい場合は、2020 年 4 月 10 日までに、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター新入生生活調査担当（03-5978-2646）へ、お知らせください。
- ・ご回答いただきました調査票は、同封いたしました調査票返送用封筒に入れていただき、**他の入学手続関係書類に同封し、締め切り期日までに返送をお願いいたします。**

それでは、よろしくお願いいたします。

I. まず、あなた自身およびご家族のことについて、お聞きします。

(1) 入学予定の学部学科に○をつけてください。

・文教育学部

1. 人文科学科 2. 言語文化学科 3. 人間社会科学科 4. 芸術・表現行動学科

・理学部

5. 数学科 6. 物理学科 7. 化学科 8. 生物学科 9. 情報科学科

・生活科学部

10. 食物栄養学科 11. 人間・環境科学科 12. 人間生活学科 13. 心理学科

(2) 出身高校について、それぞれあてはまるものに○をつけてください。

A. 高校(設置者)は → 1. 公立 2. 私立 3. 国立 4. 海外 5. 高等学校卒業程度認定試験

B. 種類は → 1. 3年制 2. 中高一貫校 ↳ (3)へ

C. 学科は → 1. 普通科(理数科も含む) 2. 総合学科
3. 専門学科(商業・工業、家庭、農業科など) 4. その他

()

(3) 出身高校の所在地の都道府県をご記入ください。高等学校卒業程度認定試験合格者は、受験時に住んでいた都道府県をご記入ください。

1. 都道府県(県名) 2. 海 外

(4) あなたのご家族の構成について、同居を問わず、あてはまる方**すべて**に○をつけてください。

1. 父親 3. 兄 5. 弟 7. 祖父 9. 夫 11. 娘
2. 母親 4. 姉 6. 妹 8. 祖母 10. 息子 12. その他()

(5) あなたを含む兄弟姉妹の人数をご記入ください。同居を問わずお答えください。

--	--

人

Ⅱ. これまでの進路選択や学生生活について、お聞きます。

- (1) 出身小学校・中学の設置者について、それぞれあてはまるもの **1つ** に○をつけてください。
転校している場合は、小学校6年次、中学3年次の学校について、お答えください。

小学校は → 1. 国立 2. 公立 3. 私立 4. 海外
中学校は → 1. 国立 2. 公立 3. 私立 4. 海外

- (2) あなたは小学校・中学・高校に入学するために受験をしましたか。それぞれあてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

小学校は → 1. 受験をした 2. 受験をしていない 3. 覚えていない
中学校は → 1. 受験をした 2. 受験をしていない 3. 覚えていない
高 校は → 1. 受験をした 2. 受験をしていない 3. 覚えていない

- (3) 出身高等学校は共学校でしたか、それとも女子校でしたか。
あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. 共学校 2. 女子校

- (4) あなたが高校時代にコース（文系・理系）を決めた時期について、あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. 高校入学以前 4. 高校3年4～8月
2. 高校1年 5. 高校3年9～12月
3. 高校2年 6. 高校卒業以降

- (5) あなたは、高校時代、理系科目の学修において、十分に実験や実習に参加しましたか。
あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. 十分に参加した
2. やや参加した
3. どちらでもない
4. あまり参加していない
5. 参加していない

(11) あなたが進路を選ぶに当たって高等学校で受けた進学指導はどのようなものでしたか。

あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

1. 個人面談 2. 三者面談 3. 資料室等の情報提供 4. 進路相談

(12) (11) で回答した進学指導に対して、考えた事があれば教えてください。

(13) あなたがお茶の水女子大学を選んだ理由に、自分の学力や入試の難易度以外に重視したものはありますか。あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1. 志望する分野があったから | 9. 有名だから |
| 2. 地理的条件が合っていたから（家から近い等） | 10. 入試内容が有利だから |
| 3. 少人数制だから | 11. 資格取得・就職に有利だから |
| 4. 大学の雰囲気・環境がいいから | 12. 指導してもらいたい教員がいたから |
| 5. 女子大だから | 13. 志望する分野で最先端をいっているから |
| 6. 国立大学法人だから | 14. その他（ ） |
| 7. 経済的な負担が軽いから | 15. 特にない |
| 8. 総合大学だから | |

(14) 本学の受験を決めた時期について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。高等学校卒業程度認定試験合格者は、今回の受験前の1年間を高校3年としてお考えください。

- | | | |
|-----------|---------------|-------------|
| 1. 高校入学以前 | 4. 高校3年4～8月 | 7. 高校3年1・2月 |
| 2. 高校1年 | 5. 高校3年9・10月 | 8. 高校卒業以降 |
| 3. 高校2年 | 6. 高校3年11・12月 | |

(15) 受験時には、本学を第一志望としていましたか。

1. はい 2. いいえ

* (16) 高校卒業から現在までの間に経験したこと**すべて**に○をつけてください。

1. 高卒後、他の高等教育機関（高専、専門学校、短大、他の大学など）に入学した
2. 高卒後、フルタイムで働いた
3. 高卒後、浪人した
4. 高卒後、海外留学をした
5. この中にはない

Ⅲ. 大学入学後の学生生活について、お聞きします。

(1) 大学入学後に居住予定の都道府県 **1つ** に○をつけてください。

- | | |
|--------|--------------|
| 1. 東京都 | 4. 神奈川県 |
| 2. 埼玉県 | 5. その他の県 () |
| 3. 千葉県 | |

* (2) 大学入学後に予定している住居**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 実家 | 4. 大学の寮 (お茶大 SCC) |
| 2. 実家以外の賃貸アパートやマンション | 5. 大学以外の寮 |
| 3. 大学の寮 (国際学生宿舎) | 6. その他 () |

(3) 【(2) で「賃貸アパートやマンション」に○をつけた方にお伺いします】

1 か月の家賃 (管理費込み) の予算をご記入ください。千円未満は四捨五入してください。

<table border="1"><tr><td> </td><td> </td></tr></table>			万	<table border="1"><tr><td> </td></tr></table>		千円

(4) 【(2) で「2～6 (実家以外)」に○をつけた方にお伺いします】

1 か月あたりの仕送り予定額 (授業料を含まない) についてご記入ください。万円未満は四捨五入してください。

<table border="1"><tr><td> </td><td> </td></tr></table>			万円	0 仕送りはない

【全員の方に】

(5) 大学に入学後、頑張ろうと思う活動として、あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|---------------|-------------|-------------|
| 1. 大学の授業 | 4. 授業以外での勉強 | 7. ボランティア活動 |
| 2. クラブ・サークル活動 | 5. 友達との交流 | 8. 留学 |
| 3. アルバイト活動 | 6. 趣味 | 9. その他 () |
| | | 10. 特にない |

(6) 【(5) で「アルバイト活動」に○をつけた方にお伺いします】

アルバイト活動をどの程度する予定ですか。あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 長期休暇期間 (夏、冬、春休み) のみ | 5. 学期中に不定期的に、長期休暇期間にも |
| 2. 学期中、不定期 | 6. その他 () |
| 3. 学期中、定期的に | 7. 未定 |
| 4. 学期中に定期的に、長期休暇期間にも | |

【全員の方に】

(7) 授業料の負担予定について、あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. ほぼ全額を保護者が負担予定
2. 一部をあなたが負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）
3. ほぼ全額をあなたが負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）

* (8) これまでに受けたことのある奨学金・学費免除などの制度がございましたら、その**すべて**について、該当の番号に○をして、具体的な名称および給付型・貸与型についてご記入ください。

	具体的な名称	給付・貸与
1. 日本学生支援機構の奨学金		1. 給付 2. 貸与
2. 地方公共団体の奨学金		1. 給付 2. 貸与
3. 学校独自の奨学金		1. 給付 2. 貸与
4. 民間奨学団体の奨学金		1. 給付 2. 貸与
5. 新聞社の奨学金		1. 給付 2. 貸与
6. その他の奨学金		1. 給付 2. 貸与
7. 学費免除		1. 給付 2. 貸与
8. 特待生		1. 給付 2. 貸与

(9) 以下の奨学金などの制度について、知っているもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 知っているものはない |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | |

(10) 本学の学生寮について、知っているもの**すべて**に○をつけてください。

1. 国際学生宿舎 2. お茶大 SCC 3. 小石川寮（大学院生向け） 4. 知らない

(11) 以下の本学の学生寮について、入寮を希望するもの**すべて**に○をつけてください。

1. 国際学生宿舎 2. お茶大 SCC 3. 小石川寮（大学院生向け） 4. 特にない

(12) 大学生活が始まって心配なこと**すべて**に○をつけてください。

1. 授業や単位
2. 就職や将来
3. 人間関係
4. 生活・経済面
5. 健康面
6. 日常生活全般
7. その他 ()
8. 特にない

(13) 今の気持ち（不安・心配事）について、以下の項目はどの程度あてはまると思いますか。
あてはまる番号にそれぞれ**1つ**○をつけてください。

	あてはまる	ある程度あてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
・ 友達ができるか	1	2	3	4
・ 大学になじめるか	1	2	3	4
・ 金銭面で負担がかからないか	1	2	3	4
・ 授業についていけるか	1	2	3	4
・ 進級や卒業ができるか	1	2	3	4
・ 将来の目標が見つかるか	1	2	3	4
・ 卒業後ちゃんと就職できるか	1	2	3	4

(14) 本学の学生支援活動で、期待するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|----------|---------|-----------|
| 1. 経済的支援 | 4. 心理相談 | 7. 就職支援 |
| 2. 生活相談 | 5. 学習支援 | 8. 課外活動支援 |
| 3. 健康相談 | 6. 進路相談 | 9. その他（ |
| | | 10. 特にない |

IV. 将来の進路について、お聞きします。

* (1) 大学卒業後の進路について、どのような希望をもっていますか。あてはまるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1. 民間企業に就職する | 5. 大学院などに進学する（海外含む） |
| 2. 公務員になる | 6. その他（ |
| 3. 教師などの専門職につく | 7. 決めていない |
| 4. 自営など、1 から 3 以外の形で就職する | |

(2) 大学卒業後のキャリアについて、どのように考えていますか。あてはまる番号にそれぞれ**1つ**○をつけてください。

	そう 思う	思 う あ る 程 度	な い そ う 思 わ
・すぐに就職して最初から正社員・正規の職員になる	1	2	3
・すぐに就職するが正社員・正規の職員にこだわらない	1	2	3
・すぐに大学院などに進学する	1	2	3
・就職してから大学院への進学を考える	1	2	3
・資格試験・公務員試験などに合格するまで就職しない	1	2	3
・卒業後すぐには就職しなくてもよい	1	2	3
・最初の就職先にできるだけ長く勤める	1	2	3
・何年かして転職や独立をする	1	2	3
・結婚・出産後も仕事を続ける	1	2	3

(3) あなたのご両親は、あなたの就職や将来のことに関して、どれくらい関与しますか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

- 父親は → **1.** まったく関与しない **4.** まあまあ関与する
2. あまり関与しない **5.** 非常に関与する
3. どちらとも言えない **6.** 父親はいない
- 母親は → **1.** まったく関与しない **4.** まあまあ関与する
2. あまり関与しない **5.** 非常に関与する
3. どちらとも言えない **6.** 母親はいない

・研究調査のために、個人が特定されないデータとして、本調査の回答を用いる許可をいただけますか。

- 1.** はい **2.** いいえ

・皆さん個人に対する適切な学生支援を行うために、*のついた質問に対する回答を個人の情報として登録・管理する許可をいただけますか。

- 1.** はい **2.** いいえ

・お茶の水女子大学に合格した際の受験番号をご記入ください。()

ご協力、ありがとうございました。同封の返信用封筒に封入の上、他の入学関係書類に同封して、ご返送をお願いいたします。

新入生生活調査

＜入学予定者の保護者用＞

(一般入試合格者および私費外国人留学生)

ご子女が、お茶の水女子大学に入学を予定されているみなさまへ

この度は、ご子女のお茶の水女子大学合格おめでとうございます。お茶の水女子大学は、ご子女のご入学を歓迎し、今後の学生生活が実りあるものになるよう祈念しております。

さて、本学では、入学予定者およびその保護者の方にアンケートを実施いたします。これは、入学を予定している方の実情をふまえ、有益な学生支援の検討および実施を行うための資料とすることを目的としています。具体的には、

1. 新入生個々の大学教育や将来への多様なニーズを把握し、適切な学生支援事業を入学時から行うために、新入生個々の情報を得る。
2. 新入生の標準的な学生生活の状況を把握する。
3. 新入生の家庭状況からその経済的基盤を推定することにより、お茶の水女子大学における学生支援事業を改善するための基礎資料とする。
4. 国立大学入学者の学生生活・家庭状況・進路状況などに関する調査研究を行うための基礎資料とする。

上記4点を中心にするものです。

ご回答いただきました内容は、統計的に処理をします。個人としてのご回答が公表されることはありません。また、調査結果は上記の目的以外に使用することはありません。

調査票中、質問項目の左に＊がついている項目は、本学入学後も、新入生個人の情報として、学生支援を行うために利用しますが、回答に含まれる個人情報、お茶の水女子大学個人情報の管理に関する規則及び関係諸規定に基づき、厳格に管理いたします。

なお、アンケートにご協力いただけなかった場合でも、本学教育課程その他に不利益を被ることはありません。また、入学を辞退された方の個人情報は、入学辞退届を受理次第、破棄いたします。

どうかアンケートの趣旨をご理解賜り、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

本調査の企画・実施に関する情報は以下の通りです。

【実施主体】 国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

【問い合わせ先】 新入生生活調査担当 (03-5978-2646)

【個人情報について】

お茶の水女子大学では、個人情報の管理に関する規程および個人情報の公開に関する取扱要項等の規定を定めて、本学が保有する個人情報の適正な管理に努めています。

<http://www.ocha.ac.jp/about/individual.html>

以下のご回答にあたってのご注意をお読みのうえ、ご回答願います。

ご回答にあたってのお願い

- ・お答えは、黒鉛筆または黒ボールペンで、あてはまる回答についている数字を○でかこんでいただく場合と、マスの中に数字を記入する場合があります。「その他」にあてはまる時は、数字を○でかこみ、() 内に具体的な内容を記入してください。() 内に書ききれない場合は、欄外にご記入ください。
- ・質問番号順にお答え下さい。質問の中には、一部の方にだけおたずねするものがありますが、その場合は指示に従って下さい。
- ・「⑨⑩=01」とか⑪などの記号は、コンピュータで処理するためのものですので、質問やお答えとは関係ありません。
- ・表紙依頼文にも一部記載いたしましたが、アンケートの最後に、ご回答内容の研究調査へのデータ使用および皆様個人への学生支援のためのご回答の管理・登録への許可をお伺いしております。許可いただけない場合は、使用することはありません。
- ・入学辞退をされた方は、入学辞退届を受理次第、調査票そのものを破棄いたします。
- ・入学予定者の保護者不在の場合は保護者用調査票への回答は不要です。
- ・アンケートは、大学で付けた I D 番号で管理をしております。**アンケート用紙には、ご子女や保護者の方のお名前、住所などは記載せず**ご回答、ご返送ください。
- ・アンケートの回答及び返送をもって、個人情報の取り扱いに同意いただいたものといたします。回答後に同意を撤回されたい場合は、2020 年 4 月 10 日までに、お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター新入生生活調査担当（03-5978-2646）へ、お知らせください。
- ・ご回答いただきました調査票は、同封いたしました調査票返送用封筒に入れていただき、**他の入学手続関係書類に同封し、締め切り期日までに返送をお願いいたします。**

それでは、よろしくお願いいたします。

* (1) あなたの世帯で、家計を主に支えている方は入学予定者から見てどなたですか。

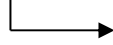
1. 父親 2. 母親 3. 入学予定者本人 4. その他 ()

* (2) 家計を主に支えている方のご職業について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 勤労者 3. 法人経営者、自由業者 5. その他 ()
2. 個人営業 4. 農林水産業者 6. 働いていない

(3) ご子女の父親の方の現在の就労状況について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. フルタイム勤務 2. パートタイム勤務 3. 自営 4. 無職 5. いない

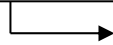

$$\overline{((5) \curvearrowright)}$$

(4) どのような職種に就いていますか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）
2. 技術職（エンジニア・情報処理技術者など）
3. 管理職（会社・団体の役員・部課長・工場長・支店長など）
4. 事務職（庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など）
5. 営業職（セールスマン・生命保険外交員など）
6. 販売職（デパート・スーパーの店員など）
7. サービス職（美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など）
8. 保安職（警察官・消防士・警備員など）
9. 農林漁業職（農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船船員など）
10. 運輸通信職（鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など）
11. 生産労務職（機械組立修理工・食料品製造工・土木作業者など）
12. その他（

(5) ご子女の母親の方の現在の就労状況について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. フルタイム勤務 2. パートタイム勤務 3. 自営 4. 無職 5. いない


$$\overline{((7) \searrow)}$$

(6) どのような職種に就いていますか。あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 専門職（医師・弁護士・研究者・教師など）
2. 技術職（エンジニア・情報処理技術者など）
3. 管理職（会社・団体の役員・部課長・工場長・支店長など）
4. 事務職（庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など）
5. 営業職（セールスマン・生命保険外交員など）
6. 販売職（デパート・スーパーの店員など）
7. サービス職（美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など）
8. 保安職（警察官・消防士・警備員など）
9. 農林漁業職（農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船船員など）
10. 運輸通信職（鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など）
11. 生産労務職（機械組立修理工・食料品製造工・土木作業者など）
12. その他（

【全員の方に】

(7) ご子女が大学に入学した後のご家庭の暮らし向きについて、あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. ゆとりがない 2. あまりゆとりがない 3. 多少ゆとりがある 4. ゆとりがある
-

* (8) ご家庭の世帯年収（学校に在学する者を除く同一世帯全員の年収。税込）について、あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. 400 万円未満 4. 800 万円以上 1000 万円未満 7. 1400 万円以上 1600 万円未満
2. 400 万円以上 600 万円未満 5. 1000 万円以上 1200 万円未満 8. 1600 万円以上 1800 万円未満
3. 600 万円以上 800 万円未満 6. 1200 万円以上 1400 万円未満 9. 1800 万円以上
-

* (9) 家計を主に支えている方の年収（税込）について、あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. 400 万円未満 4. 800 万円以上 1000 万円未満 7. 1400 万円以上 1600 万円未満
2. 400 万円以上 600 万円未満 5. 1000 万円以上 1200 万円未満 8. 1600 万円以上 1800 万円未満
3. 600 万円以上 800 万円未満 6. 1200 万円以上 1400 万円未満 9. 1800 万円以上
-

(10) 本学に入学予定のご子女への、1 か月あたりの仕送り予定額についてご記入ください。万円未満は四捨五入してください。

--

万円

0 仕送りはしない

(11) 授業料の負担予定について、あてはまるもの **1つ** に○をつけてください。

1. ほぼ全額を保護者が負担予定
2. 一部をご子女本人が負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）
3. ほぼ全額をご子女本人が負担予定（奨学金、アルバイトなども含む）

(12) 以下の奨学金などの制度について、ご存知のもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|----------------|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 知っているものはない |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | |

(13) 以下の奨学金などの制度について、希望されるもの**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1. 日本学生支援機構（第一種奨学金） | 8. 育児支援奨学金 |
| 2. 日本学生支援機構（第二種奨学金） | 9. 入学料免除制度 |
| 3. 日本学生支援機構（緊急・応急採用奨学金） | 10. 入学料徴収猶予制度 |
| 4. 地方公共団体の奨学金 | 11. 授業料免除制度 |
| 5. 民間奨学団体の奨学金 | 12. 授業料徴収猶予制度 |
| 6. みがかずば奨学金 | 13. 希望するものはない |
| 7. 桜蔭会奨学金（3年生向け） | |

(14) 以下の本学の学生寮について、ご存知のもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|------------|-----------------|---------|
| 1. 国際学生宿舎 | 2. お茶大 SCC | 3. 小石川寮（大学院生向け） | 4. 知らない |
|-----------|------------|-----------------|---------|

(15) 以下の本学の学生寮について、入寮を希望するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|------------|-----------------|---------|
| 1. 国際学生宿舎 | 2. お茶大 SCC | 3. 小石川寮（大学院生向け） | 4. 特にない |
|-----------|------------|-----------------|---------|

(16) 受験から入学までに困ったこと・悩んだこと**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|---|
| 1. 子ども(入学予定のご子女)の体調や精神面のこと | |
| 2. 受験・入学のための費用準備 | |
| 3. 受験・入学手続きのスケジュールの管理 | |
| 4. 入学後の住まい探し | |
| 5. その他（ | ） |

(17) ご子女の大学生活が始まって心配なこと**すべて**に○をつけてください。

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 授業や単位 | 5. 健康面 |
| 2. 就職や将来 | 6. 日常生活全般 |
| 3. 人間関係 | 7. その他（ |
| 4. 生活・経済面 | 8. 特にない |

(18) 本学の学生支援活動で、期待するもの**すべて**に○をつけてください。

- | | | |
|----------|---------|------------|
| 1. 経済的支援 | 4. 心理相談 | 7. 就職支援 |
| 2. 生活相談 | 5. 学習支援 | 8. 課外活動支援 |
| 3. 健康相談 | 6. 進路相談 | 9. その他 () |
| | | 10. 特になし |

(19) 入学予定のご子女のご両親の最終学歴について、それぞれあてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

父親は

1. 中学・高校 2. 高専 3. 専門学校・短大 4. 大学 5. 大学院

母親は

1. 中学・高校 2. 高専 3. 専門学校・短大 4. 大学 5. 大学院

・研究調査のために、個人が特定されないデータとして、本調査の回答を用いる許可をいただけますか。

1. はい 2. いいえ

・皆さんのご子女に対する適切な学生支援を行うために、*のついた質問に対する回答を個人の情報として登録・管理する許可をいただけますか。

1. はい 2. いいえ

・ご子女がお茶の水女子大学に合格した際の受験番号をご記入ください。

()

・ご回答者のご子女との関係について、あてはまるもの**1つ**に○をつけてください。

1. 父親 2. 母親 3. その他（続き柄は：)

**ご協力、ありがとうございました。同封の返信用封筒に封入の上、
他の入学関係書類に同封して、ご返送をお願いいたします。**

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)1/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
I.(1)			401	179	108	114	0
		学部		44.6%	26.9%	28.4%	0.0%
I.(2)	出身高校設置者	総数	401	179	108	114	0
		公立	63.3%	67.6%	57.4%	62.3%	0.0%
		私立	30.2%	26.8%	38.0%	28.1%	0.0%
		国立	6.0%	4.5%	4.6%	9.6%	0.0%
		海外	0.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
		高等学校卒業程度認定試験	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
I.(2)	出身高校・種類	該当者	399	177	108	114	0
		3年制	61.4%	64.4%	53.7%	64.0%	0.0%
		中高一貫	36.3%	34.5%	41.7%	34.2%	0.0%
		無回答	2.3%	1.1%	4.6%	1.8%	0.0%
I.(2)	出身高校・学科	該当者	399	177	108	114	0
		普通科(理数科も含む)	93.7%	92.7%	92.6%	96.5%	0.0%
		総合学科	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		専門学科(商業・工業、家庭、農業科など)	1.3%	1.1%	1.9%	0.9%	0.0%
		その他	3.0%	4.5%	1.9%	1.8%	0.0%
		無回答	1.8%	1.1%	3.7%	0.9%	0.0%
I.(3)	出身都道府県	総数	401	179	108	114	0
		国内	98.5%	98.9%	98.1%	98.2%	0.0%
		海外	0.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	1.0%	0.0%	1.9%	1.8%	0.0%
I.(4)	家族構成	総数	401	179	108	114	0
		父親	95.0%	96.6%	95.4%	92.1%	0.0%
		母親	99.3%	98.9%	99.1%	100.0%	0.0%
		兄	18.7%	14.5%	18.5%	25.4%	0.0%
		姉	21.4%	16.8%	25.9%	24.6%	0.0%
		弟	27.9%	33.5%	20.4%	26.3%	0.0%
		妹	27.2%	33.0%	22.2%	22.8%	0.0%
		祖父	34.4%	30.7%	37.0%	37.7%	0.0%
		祖母	47.4%	44.7%	44.4%	54.4%	0.0%
		夫	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		息子	0.2%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
		娘	0.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
		その他	1.7%	0.6%	2.8%	2.6%	0.0%
		無回答	0.2%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
I.(5)	兄弟姉妹人数	該当者	328	151	82	95	1
		2人	68.3%	71.0%	59.0%	68.4%	0.0%
		3人	26.8%	29.1%	17.0%	28.4%	0.0%
		4人以上	4.5%	4.0%	7.3%	3.1%	0.0%
		無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.2%
II.(1)-a	小学校の設置者	総数	401	179	108	114	0
		国立	3.7%	3.9%	2.8%	4.4%	0.0%
		公立	91.3%	91.6%	91.7%	90.4%	0.0%
		私立	4.2%	3.4%	5.6%	4.4%	0.0%
		海外	0.7%	1.1%	0.0%	0.9%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(1)-b	中学校の設置者	総数	401	179	108	114	0
		国立	8.2%	7.3%	6.5%	11.4%	0.0%
		公立	67.3%	71.5%	62.0%	65.8%	0.0%
		私立	23.9%	20.7%	31.5%	21.9%	0.0%
		海外	0.5%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(2)-a	小学校受験の有無	総数	401	179	108	114	0
		受験をした	9.0%	9.5%	7.4%	9.6%	0.0%
		受験をしていない	90.3%	89.4%	91.7%	90.4%	0.0%
		覚えていない	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
		無回答	0.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(2)-b	中学校受験の有無	総数	401	179	108	114	0
		受験をした	39.9%	41.3%	41.7%	36.0%	0.0%
		受験をしていない	60.1%	58.7%	58.3%	64.0%	0.0%
		覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
II.(2)-c	高校受験の有無	総数	401	179	108	114	0
		受験をした	68.1%	69.3%	64.8%	69.3%	0.0%
		受験をしていない	31.9%	30.7%	35.2%	30.7%	0.0%
		覚えていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表 (入学予定者)2/6

			学部				
			総数	文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅱ.(3)	受験決定時期	総数	401	179	108	114	0
		高校入学以前	5.2%	8.4%	1.9%	3.5%	0.0%
		高校1年	12.0%	12.3%	5.6%	17.5%	0.0%
		高校2年	26.7%	34.1%	15.7%	25.4%	0.0%
		高校3年4～8月	24.4%	20.7%	25.0%	29.8%	0.0%
		高校3年9・10月	5.5%	5.0%	6.5%	5.3%	0.0%
		高校3年11・12月	6.7%	4.5%	13.0%	4.4%	0.0%
		高校3年1・2月	11.5%	10.1%	18.5%	7.0%	0.0%
		高校卒業以降	7.0%	4.5%	12.0%	6.1%	0.0%
		無回答	1.0%	0.6%	1.9%	0.9%	0.0%
Ⅱ.(4)	第一志望	総数	401	179	108	114	0
		はい	87.3%	88.3%	76.9%	95.6%	0.0%
		いいえ	12.0%	10.6%	22.2%	4.4%	0.0%
		無回答	0.7%	1.1%	0.9%	0.0%	0.0%
Ⅱ.(5)	高校卒業から大学入学までの間に経験したこと	総数	401	179	108	114	0
		高卒後、他の高等教育機関に入学した	4.2%	2.2%	1.9%	9.6%	0.0%
		高卒後、フルタイムで働いた	0.5%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%
		高卒後、浪人した	13.5%	8.4%	19.4%	15.8%	0.0%
		高卒後、海外留学をした	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		この中にはない	73.3%	77.7%	67.6%	71.9%	0.0%
		無回答	10.5%	12.3%	11.1%	7.0%	0.0%
Ⅲ.(1)	居住予定の都道府県	総数	401	179	108	114	0
		東京都	62.6%	63.7%	58.3%	64.9%	0.0%
		埼玉県	13.2%	12.8%	18.5%	8.8%	0.0%
		千葉県	7.2%	7.8%	4.6%	8.8%	0.0%
		神奈川県	11.0%	8.4%	13.0%	13.2%	0.0%
		その他の県	5.2%	6.1%	5.6%	3.5%	0.0%
		無回答	0.7%	1.1%	0.0%	0.9%	0.0%
Ⅲ.(2)	居住予定の住居	総数	401	179	108	114	0
		実家	57.4%	53.6%	65.7%	55.3%	0.0%
		実家以外の賃貸アパートやマンション	30.4%	32.4%	28.7%	28.9%	0.0%
		大学の寮(国際学生宿舎)	14.5%	16.8%	8.3%	16.7%	0.0%
		大学の寮(お茶大SCC)	9.7%	11.7%	9.3%	7.0%	0.0%
		大学以外の寮	6.7%	9.5%	4.6%	4.4%	0.0%
		その他	2.7%	3.9%	0.9%	2.6%	0.0%
		無回答	0.5%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%
Ⅲ.(3)	家賃	該当者	122	58	31	33	0
		5万円未満	3.3%	5.2%	0.0%	3.0%	0.0%
		5～7万円台	50.8%	58.6%	48.4%	39.4%	0.0%
		8～9万円台	27.0%	25.9%	19.4%	36.4%	0.0%
		10～12万円台	9.0%	5.2%	16.1%	9.1%	0.0%
		13～14万円台	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		15万円以上	0.8%	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%
		無回答	9.0%	5.2%	12.9%	12.1%	0.0%
Ⅲ.(4)	仕送り額	該当者	180	87	41	52	0
		仕送りはない	5.0%	3.4%	0.0%	11.5%	0.0%
		5万円未満	12.8%	10.3%	19.5%	11.5%	0.0%
		5～7万円台	27.8%	29.9%	24.4%	26.9%	0.0%
		8～9万円台	7.2%	8.0%	4.9%	7.7%	0.0%
		10～12万円台	22.2%	24.1%	17.1%	23.1%	0.0%
		13～14万円台	3.9%	4.6%	4.9%	1.9%	0.0%
		15万円以上	8.3%	9.2%	12.2%	3.8%	0.0%
		無回答	12.8%	10.3%	17.1%	13.5%	0.0%
Ⅲ.(5)	入学後の活動	総数	401	179	108	114	0
		大学の授業	99.8%	99.4%	100.0%	100.0%	0.0%
		クラブ・サークル活動	73.3%	70.9%	73.1%	77.2%	0.0%
		アルバイト活動	71.6%	73.2%	66.7%	73.7%	0.0%
		授業以外での勉強	58.6%	62.6%	59.3%	51.8%	0.0%
		友達との交流	70.6%	70.4%	75.0%	66.7%	0.0%
		趣味	44.4%	44.1%	41.7%	47.4%	0.0%
		ボランティア活動	30.9%	36.9%	22.2%	29.8%	0.0%
		留学	38.4%	45.3%	34.3%	31.6%	0.0%
		その他	1.7%	2.8%	0.9%	0.9%	0.0%
		特にない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）3/6

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅲ.(6)	アルバイト活動予定	該当者	287	131	72	84	0
		長期休暇期間(夏、冬、春休み)のみ	2.8%	3.8%	2.8%	1.2%	0.0%
		学期中、不定期	2.1%	1.5%	2.8%	2.4%	0.0%
		学期中、定期的に	12.9%	9.9%	15.3%	15.5%	0.0%
		学期中に定期的に、長期休暇期間にも	53.7%	53.4%	45.8%	60.7%	0.0%
		学期中に不定期的に、長期休暇期間にも	7.7%	7.6%	9.7%	6.0%	0.0%
		その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		未定	20.6%	23.7%	22.2%	14.3%	0.0%
	無回答	0.3%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(7)	授業料の負担予定	総数	401	179	108	114	0
		ほぼ全額を保護者が負担予定	85.8%	88.8%	84.3%	82.5%	0.0%
		一部をあなたが負担予定	11.7%	9.5%	12.0%	14.9%	0.0%
		ほぼ全額をあなたが負担予定	1.5%	1.1%	2.8%	0.9%	0.0%
		無回答	1.0%	0.6%	0.9%	1.8%	0.0%
Ⅲ.(8)	受けたことのある奨学金	総数	401	179	108	114	0
		日本学生支援機構の奨学金	2.2%	1.7%	3.7%	1.8%	0.0%
		地方公共団体の奨学金	1.7%	1.7%	0.0%	3.5%	0.0%
		学校独自の奨学金	1.5%	1.1%	2.8%	0.9%	0.0%
		民間奨学団体の奨学金	1.7%	1.1%	1.9%	2.6%	0.0%
		新聞社の奨学金	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		その他の奨学金	0.7%	0.6%	0.9%	0.9%	0.0%
		学費免除	3.2%	4.5%	0.9%	3.5%	0.0%
		特待生	3.5%	2.2%	4.6%	4.4%	0.0%
		無回答	87.5%	88.8%	87.0%	86.0%	0.0%
Ⅲ.(8)	奨学金の具体的な名称-1 日本学生支援機構の奨学金	該当者	9	3	4	2	0
		記入あり	77.8%	100.0%	50.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	22.2%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(8)	奨学金の具体的な名称-2 地方公共団体の奨学金	該当者	7	3	0	4	0
		記入あり	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(8)	奨学金の具体的な名称-3 学校独自の奨学金	該当者	6	2	3	1	0
		記入あり	50.0%	50.0%	33.3%	100.0%	0.0%
		記入なし	50.0%	50.0%	66.7%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(8)	奨学金の具体的な名称-4 民間奨学団体の奨学金	該当者	7	2	2	3	0
		記入あり	85.7%	100.0%	100.0%	66.7%	0.0%
		記入なし	14.3%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
Ⅲ.(8)	奨学金の具体的な名称-5 新聞社の奨学金	該当者	0	0	0	0	0
		記入あり	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		記入なし	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(8)	奨学金の具体的な名称-6 その他の奨学金	該当者	3	1	1	1	0
		記入あり	66.7%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	33.3%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(8)	奨学金の具体的な名称-7 学費免除	該当者	13	8	1	4	0
		記入あり	84.6%	87.5%	0.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	15.4%	12.5%	100.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(8)	奨学金の具体的な名称-8 特待生	該当者	14	4	5	5	0
		記入あり	64.3%	50.0%	40.0%	100.0%	0.0%
		記入なし	35.7%	50.0%	60.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(8)	奨学金／給与・貸与-1 日本学生支援機構の奨学金	該当者	9	3	4	2	0
		給与	33.3%	33.3%	50.0%	0.0%	0.0%
		貸与	66.7%	66.7%	50.0%	100.0%	0.0%
		両方	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(8)	奨学金／給与・貸与-2 地方公共団体の奨学金	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		該当者	7	3	0	4	0
		給与	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅲ.(8)	奨学金／給与・貸与-3 学校独自の奨学金	両方	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		該当者	6	2	3	1	0
		給与	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
Ⅲ.(8)	奨学金／給与・貸与-4 民間奨学団体の奨学金	貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		両方	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		該当者	7	2	2	3	0
Ⅲ.(8)	奨学金／給与・貸与-5 新聞社の奨学金	給与	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		該当者	0	0	0	0	0
Ⅲ.(8)	奨学金／給与・貸与-6 その他の奨学金	給与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		該当者	3	1	1	1	0

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）4/6

				学部				
			総数	文教育学部	理学部	生活科学部	無回答	
Ⅲ.(8)	奨学金／給与・貸与-7 学費免除	該当者	13	8	1	4	0	
		給与	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(8)	奨学金／給与・貸与-8 特待生	該当者	14	4	5	5	0	
		給与	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	
		貸与	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(9)	奨学金の認知	総数	401	179	108	114	0	
		日本学生支援機構(第一種奨学金)	37.7%	42.5%	28.7%	38.6%	0.0%	
		日本学生支援機構(第二種奨学金)	35.7%	40.8%	26.9%	36.0%	0.0%	
		日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)	9.7%	9.5%	11.1%	8.8%	0.0%	
		地方公共団体の奨学金	10.7%	12.8%	7.4%	10.5%	0.0%	
		民間奨学団体の奨学金	12.7%	15.6%	9.3%	11.4%	0.0%	
		みがかずば奨学金	46.6%	56.4%	27.8%	49.1%	0.0%	
		桜蔭会奨学金(3年生向け)	7.5%	9.5%	6.5%	5.3%	0.0%	
		育児支援奨学金	2.5%	3.9%	0.9%	1.8%	0.0%	
		入学料免除制度	21.4%	23.5%	20.4%	19.3%	0.0%	
		入学料徴収猶予制度	13.0%	15.6%	10.2%	11.4%	0.0%	
		授業料免除制度	22.7%	23.5%	24.1%	20.2%	0.0%	
		授業料徴収猶予制度	13.5%	17.9%	10.2%	9.6%	0.0%	
		知っているものはない	27.9%	20.7%	38.0%	29.8%	0.0%	
		無回答	5.0%	3.9%	7.4%	4.4%	0.0%	
Ⅲ.(10)	知っている学生寮	総数	401	179	108	114	0	
		国際学生宿舎	50.1%	55.3%	36.1%	55.3%	0.0%	
		お茶大SCC	58.6%	61.5%	47.2%	64.9%	0.0%	
		小石川寮(大学院生向け)	31.2%	36.3%	19.4%	34.2%	0.0%	
		知らない	37.2%	34.6%	47.2%	31.6%	0.0%	
		無回答	1.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(11)	希望する学生寮	総数	401	179	108	114	0	
		国際学生宿舎	15.7%	17.9%	9.3%	18.4%	0.0%	
		お茶大SCC	11.0%	14.5%	9.3%	7.0%	0.0%	
		小石川寮(大学院生向け)	1.5%	1.1%	1.9%	1.8%	0.0%	
		知らない	76.6%	75.4%	81.5%	73.7%	0.0%	
		無回答	3.0%	0.6%	4.6%	5.3%	0.0%	
Ⅲ.(12)	心配なこと	総数	401	179	108	114	0	
		授業や単位	69.1%	70.4%	69.4%	66.7%	0.0%	
		就職や将来	50.1%	48.0%	52.8%	50.9%	0.0%	
		人間関係	56.1%	57.0%	49.1%	61.4%	0.0%	
		生活・経済面	35.7%	39.7%	29.6%	35.1%	0.0%	
		健康面	17.0%	17.9%	14.8%	17.5%	0.0%	
		日常生活全般	25.2%	26.3%	17.6%	30.7%	0.0%	
		その他	1.0%	1.1%	1.9%	0.0%	0.0%	
		特にない	9.2%	7.8%	11.1%	9.6%	0.0%	
		無回答	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-1 友達ができるか	総数	401	179	108	114	0	
		あてはまる	31.2%	30.2%	27.8%	36.0%	0.0%	
		ある程度あてはまる	38.4%	38.5%	38.9%	37.7%	0.0%	
		あまりあてはまらない	18.5%	17.3%	21.3%	17.5%	0.0%	
		あてはまらない	12.0%	14.0%	12.0%	8.8%	0.0%	
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		あてはまる(計)	69.6%	68.7%	66.7%	73.7%	0.0%	
		あてはまらない(計)	30.4%	31.3%	33.3%	26.3%	0.0%	
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-2 大学になじめるか	総数	401	179	108	114	0	
		あてはまる	27.2%	27.9%	21.3%	31.6%	0.0%	
		ある程度あてはまる	39.9%	36.3%	44.4%	41.2%	0.0%	
		あまりあてはまらない	21.9%	24.6%	21.3%	18.4%	0.0%	
		あてはまらない	11.0%	11.2%	13.0%	8.8%	0.0%	
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		あてはまる(計)	67.1%	64.2%	65.7%	72.8%	0.0%	
		あてはまらない(計)	32.9%	35.8%	34.3%	27.2%	0.0%	
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-3 金銭面で負担が かからないか	総数	401	179	108	114	0	
		あてはまる	25.7%	29.6%	18.5%	26.3%	0.0%	
		ある程度あてはまる	29.9%	33.0%	27.8%	27.2%	0.0%	
		あまりあてはまらない	28.4%	24.6%	23.1%	39.5%	0.0%	
		あてはまらない	16.0%	12.8%	30.6%	7.0%	0.0%	
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
		あてはまる(計)	55.6%	62.6%	46.3%	53.5%	0.0%	
	あてはまらない(計)	44.4%	37.4%	53.7%	46.5%	0.0%		

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）5/6

			学部				
			総数	文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-4 授業についていけるか	総数	401	179	108	114	0
		あてはまる	32.9%	35.2%	31.5%	30.7%	0.0%
		ある程度あてはまる	45.9%	44.1%	43.5%	50.9%	0.0%
		あまりあてはまらない	17.2%	15.6%	21.3%	15.8%	0.0%
		あてはまらない	4.0%	5.0%	3.7%	2.6%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	78.8%	79.3%	75.0%	81.6%	0.0%
		あてはまらない(計)	21.2%	20.7%	25.0%	18.4%	0.0%
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-5 進級や卒業ができるか	総数	401	179	108	114	0
		あてはまる	18.2%	17.9%	20.4%	16.7%	0.0%
		ある程度あてはまる	32.4%	31.8%	34.3%	31.6%	0.0%
		あまりあてはまらない	37.2%	37.4%	30.6%	43.0%	0.0%
		あてはまらない	12.2%	12.8%	14.8%	8.8%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	50.6%	49.7%	54.6%	48.2%	0.0%
		あてはまらない(計)	49.4%	50.3%	45.4%	51.8%	0.0%
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-6 将来の目標が見つかるか	総数	401	179	108	114	0
		あてはまる	19.5%	17.9%	24.1%	17.5%	0.0%
		ある程度あてはまる	30.2%	29.6%	26.9%	34.2%	0.0%
		あまりあてはまらない	33.4%	34.1%	35.2%	30.7%	0.0%
		あてはまらない	17.0%	18.4%	13.9%	17.5%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	49.6%	47.5%	50.9%	51.8%	0.0%
		あてはまらない(計)	50.4%	52.5%	49.1%	48.2%	0.0%
Ⅲ.(13)	不安心配ごと-7 卒業後ちゃんと就職できるか	総数	401	179	108	114	0
		あてはまる	24.2%	22.9%	24.1%	26.3%	0.0%
		ある程度あてはまる	42.1%	43.0%	43.5%	39.5%	0.0%
		あまりあてはまらない	24.4%	24.6%	22.2%	26.3%	0.0%
		あてはまらない	9.2%	9.5%	10.2%	7.9%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
		あてはまる(計)	66.3%	65.9%	67.6%	65.8%	0.0%
		あてはまらない(計)	33.7%	34.1%	32.4%	34.2%	0.0%
Ⅲ.(14)	期待する学生支援活動	総数	401	179	108	114	0
		経済的支援	23.2%	26.8%	17.6%	22.8%	0.0%
		生活相談	17.5%	19.0%	11.1%	21.1%	0.0%
		健康相談	9.7%	9.5%	6.5%	13.2%	0.0%
		心理相談	15.7%	17.9%	10.2%	17.5%	0.0%
		学習支援	62.6%	59.2%	63.9%	66.7%	0.0%
		進路相談	63.8%	65.9%	66.7%	57.9%	0.0%
		就職支援	77.6%	78.2%	72.2%	81.6%	0.0%
		課外活動支援	35.9%	40.2%	27.8%	36.8%	0.0%
		その他	1.2%	1.7%	0.0%	1.8%	0.0%
		特にない	3.7%	3.4%	5.6%	2.6%	0.0%
		無回答	0.2%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅳ.(1)	大学卒業後の進路	総数	401	179	108	114	0
		民間企業に就職する	55.9%	58.1%	41.7%	65.8%	0.0%
		公務員になる	28.9%	34.6%	17.6%	30.7%	0.0%
		教師などの専門職につく	21.2%	29.6%	13.0%	15.8%	0.0%
		自営など、1から3以外の形で就職する	1.7%	3.4%	0.0%	0.9%	0.0%
		大学院などに進学する(海外含む)	48.4%	30.7%	73.1%	52.6%	0.0%
		その他	1.5%	2.2%	1.9%	0.0%	0.0%
		決めていない	14.0%	17.3%	14.8%	7.9%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-1 すぐに就職して最初から正社員・ 正規の職員になる	総数	401	179	108	114	0
		そう思う	43.1%	54.2%	25.9%	42.1%	0.0%
		ある程度思う	36.9%	36.3%	33.3%	41.2%	0.0%
		そう思わない	19.7%	9.5%	39.8%	16.7%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-2 すぐに就職するが、正社員・正規 の職員にこだわらない	総数	401	179	108	114	0
		そう思う	2.2%	3.9%	1.9%	0.0%	0.0%
		ある程度思う	18.7%	24.0%	9.3%	19.3%	0.0%
		そう思わない	78.8%	72.1%	88.0%	80.7%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
Ⅳ.(2)	大学卒業後のキャリア-3 すぐに大学院などに進学する	総数	401	179	108	114	0
		そう思う	28.9%	15.6%	57.4%	22.8%	0.0%
		ある程度思う	36.9%	34.6%	35.2%	42.1%	0.0%
		そう思わない	33.9%	49.7%	6.5%	35.1%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（入学予定者）6/6

			学部				
			総数	文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-4 就職してから大学院への進学を考 える	総数	401	179	108	114	0
		そう思う	2.0%	1.7%	3.7%	0.9%	0.0%
		ある程度思う	13.7%	12.8%	16.7%	12.3%	0.0%
		そう思わない	83.8%	84.9%	78.7%	86.8%	0.0%
		無回答	0.5%	0.6%	0.9%	0.0%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-5 資格試験・公務員試験などに合格 するまで就職しない	総数	401	179	108	114	0
		そう思う	3.2%	2.2%	2.8%	5.3%	0.0%
		ある程度思う	20.2%	20.7%	21.3%	18.4%	0.0%
		そう思わない	75.8%	76.5%	74.1%	76.3%	0.0%
		無回答	0.7%	0.6%	1.9%	0.0%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-6 卒業後すぐには就職 しなくてもよい	総数	401	179	108	114	0
		そう思う	8.2%	4.5%	19.4%	3.5%	0.0%
		ある程度思う	20.0%	15.1%	25.9%	21.9%	0.0%
		そう思わない	71.6%	80.4%	53.7%	74.6%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-7 最初の就職先にできるだけ 長く勤める	総数	401	179	108	114	0
		そう思う	34.2%	35.8%	38.9%	27.2%	0.0%
		ある程度思う	47.9%	44.7%	48.1%	52.6%	0.0%
		そう思わない	17.7%	19.6%	12.0%	20.2%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-8 何年かして転職や独立をする	総数	401	179	108	114	0
		そう思う	4.5%	5.0%	4.6%	3.5%	0.0%
		ある程度思う	38.2%	36.9%	37.0%	41.2%	0.0%
		そう思わない	57.1%	58.1%	57.4%	55.3%	0.0%
		無回答	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
IV.(2)	大学卒業後のキャリア-9 結婚・出産後も仕事を続ける	総数	401	179	108	114	0
		そう思う	61.1%	63.1%	60.2%	58.8%	0.0%
		ある程度思う	36.2%	33.5%	37.0%	39.5%	0.0%
		そう思わない	2.2%	2.8%	1.9%	1.8%	0.0%
		無回答	0.5%	0.6%	0.9%	0.0%	0.0%
IV.(3)	就職や将来への親の関与-a 父親	総数	401	179	108	114	0
		まったく関与しない	8.0%	7.8%	7.4%	8.8%	0.0%
		あまり関与しない	26.4%	26.3%	18.5%	34.2%	0.0%
		どちらとも言えない	12.2%	10.6%	18.5%	8.8%	0.0%
		まあまあ関与する	37.4%	40.2%	38.9%	31.6%	0.0%
		非常に関与する	11.5%	12.8%	12.0%	8.8%	0.0%
		父親はいない	4.2%	2.2%	4.6%	7.0%	0.0%
IV.(3)	就職や将来への親の関与-b 母親	総数	401	179	108	114	0
		まったく関与しない	4.2%	3.9%	4.6%	4.4%	0.0%
		あまり関与しない	18.2%	18.4%	15.7%	20.2%	0.0%
		どちらとも言えない	11.2%	10.1%	12.0%	12.3%	0.0%
		まあまあ関与する	48.9%	50.3%	47.2%	48.2%	0.0%
		非常に関与する	17.0%	17.3%	19.4%	14.0%	0.0%
		母親はいない	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
[データ活用の許可]		総数	401	179	108	114	0
		はい	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
		いいえ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
[個人情報登録の許可]		総数	401	179	108	114	0
		はい	97.5%	98.3%	97.2%	96.5%	0.0%
		いいえ	2.2%	1.7%	1.9%	3.5%	0.0%
[受験番号]		総数	401	179	108	114	0
		記入あり	99.8%	100.0%	99.1%	100.0%	0.0%
		記入なし	0.2%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%
[お茶大入試方法]		総数	401	179	108	114	0
		一般	72.6%	65.9%	78.7%	77.2%	0.0%
		推薦(帰国含む)・文教育学部	11.0%	24.6%	0.0%	0.0%	0.0%
		推薦(帰国含む)・理学部	3.0%	0.0%	11.1%	0.0%	0.0%
		推薦(帰国含む)・生活科学部	2.5%	0.0%	0.0%	8.8%	0.0%
		AO	5.2%	5.6%	5.6%	4.4%	0.0%
		高校編入	2.0%	2.2%	0.9%	2.6%	0.0%
		不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表 (保護者)1/3

		総数	学部			
			文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
(1) 家計を支えている人	総数	394	177	105	111	0
	父親	93.1%	94.4%	91.4%	92.8%	0.0%
	母親	7.9%	5.6%	10.5%	9.0%	0.0%
	入学予定者本人	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
(2) 家計を支えている人の職業	総数	394	177	105	111	0
	勤労者	88.3%	89.8%	86.7%	87.4%	0.0%
	個人営業	4.3%	3.4%	5.7%	4.5%	0.0%
	法人経営者、自由業者	5.6%	5.1%	7.6%	4.5%	0.0%
	農林水産業者	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
	働いていない	1.0%	1.1%	0.0%	1.8%	0.0%
	無回答	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
(3) 父親の職業	総数	394	177	105	111	0
	フルタイム勤務	86.8%	87.6%	84.8%	87.4%	0.0%
	パートタイム勤務	0.8%	1.1%	0.0%	0.9%	0.0%
	自営	7.1%	7.9%	9.5%	3.6%	0.0%
	無職	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
	いない	4.8%	3.4%	5.7%	6.3%	0.0%
	無回答	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%
(4) 父親の職種	該当者	342	155	89	97	0
	専門職(医師・弁護士・研究者・教師など)	15.5%	18.1%	11.2%	15.5%	0.0%
	技術職(エンジニア・情報処理技術者など)	16.4%	12.3%	20.2%	19.6%	0.0%
	管理職(会社・団体の役員・部課長・工場長・支店長など)	41.8%	40.0%	46.1%	40.2%	0.0%
	事務職(庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など)	12.9%	14.2%	12.4%	11.3%	0.0%
	営業職(セールスマン・生命保険外交員など)	5.6%	7.1%	3.4%	5.2%	0.0%
	販売職(デパート・スーパーの店員など)	1.5%	1.3%	1.1%	2.1%	0.0%
	サービス職(美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など)	1.2%	1.3%	1.1%	1.0%	0.0%
	保安職(警察官・消防士・警備員など)	0.9%	0.6%	0.0%	2.1%	0.0%
	農林漁業職(農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船舶員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	運輸通信職(鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など)	0.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	生産労務職(機械組立修理工・食料品製造工・土木作業者など)	2.0%	0.6%	4.5%	2.1%	0.0%
	その他	0.9%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	1.2%	1.9%	0.0%	1.0%	0.0%
(5) 母親の職業	総数	394	177	105	111	0
	フルタイム勤務	27.9%	27.1%	27.6%	28.8%	0.0%
	パートタイム勤務	42.6%	42.9%	35.2%	49.5%	0.0%
	自営	5.6%	4.5%	9.5%	3.6%	0.0%
	無職	23.1%	24.9%	25.7%	18.0%	0.0%
	いない	0.3%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%
	無回答	0.5%	0.6%	1.0%	0.0%	0.0%
(6) 母親の職種	該当者	110	48	29	32	0
	専門職(医師・弁護士・研究者・教師など)	34.5%	43.8%	24.1%	31.3%	0.0%
	技術職(エンジニア・情報処理技術者など)	1.8%	2.1%	0.0%	3.1%	0.0%
	管理職(会社・団体の役員・部課長・工場長・支店長など)	6.4%	8.3%	6.9%	3.1%	0.0%
	事務職(庶務・人事・経理・調査・企画・秘書・受付など)	46.4%	39.6%	55.2%	46.9%	0.0%
	営業職(セールスマン・生命保険外交員など)	1.8%	0.0%	0.0%	6.3%	0.0%
	販売職(デパート・スーパーの店員など)	1.8%	0.0%	3.4%	3.1%	0.0%
	サービス職(美容師・調理師・客室乗務員・旅行添乗員など)	2.7%	2.1%	3.4%	3.1%	0.0%
	保安職(警察官・消防士・警備員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	農林漁業職(農業従事者・家畜飼育者・植木職・漁船舶員など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	運輸通信職(鉄道機関士・運転手・船舶や航空機の操縦士など)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	生産労務職(機械組立修理工・食料品製造工・土木作業者など)	0.9%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%
	その他	3.6%	4.2%	3.4%	3.1%	0.0%
		無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(7) 入学後の暮らし向き	総数	394	177	105	111	0
	ゆとりがない	13.5%	16.4%	11.4%	10.8%	0.0%
	あまりゆとりがない	38.1%	39.0%	32.4%	42.3%	0.0%
	多少ゆとりがある	39.1%	39.0%	38.1%	39.6%	0.0%
	ゆとりがある	6.1%	2.8%	12.4%	5.4%	0.0%
	無回答	3.3%	2.8%	5.7%	1.8%	0.0%
(8) 世帯年収	総数	394	177	105	111	0
	400万円未満	5.6%	5.6%	4.8%	6.3%	0.0%
	400万円以上600万円未満	7.1%	7.9%	8.6%	4.5%	0.0%
	600万円以上800万円未満	15.2%	15.3%	15.2%	15.3%	0.0%
	800万円以上1000万円未満	23.1%	24.9%	21.0%	22.5%	0.0%
	1000万円以上1200万円未満	21.6%	20.9%	22.9%	20.7%	0.0%
	1200万円以上1400万円未満	10.9%	9.0%	15.2%	9.9%	0.0%
	1400万円以上1600万円未満	5.8%	7.3%	1.9%	7.2%	0.0%
	1600万円以上1800万円未満	3.6%	3.4%	1.9%	5.4%	0.0%
	1800万円以上	5.6%	2.3%	8.6%	8.1%	0.0%
	無回答	1.5%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（保護者）2/3

			総数	学部			
				文教育学部	理学部	生活科学部	無回答
(9)	家計を支えている人の年収	総数	394	177	105	111	0
		400万円未満	6.9%	7.9%	5.7%	6.3%	0.0%
		400万円以上600万円未満	11.7%	12.4%	10.5%	11.7%	0.0%
		600万円以上800万円未満	23.6%	23.2%	24.8%	23.4%	0.0%
		800万円以上1000万円未満	22.3%	22.0%	24.8%	19.8%	0.0%
		1000万円以上1200万円未満	16.5%	15.3%	15.2%	19.8%	0.0%
		1200万円以上1400万円未満	7.6%	7.3%	7.6%	8.1%	0.0%
		1400万円以上1600万円未満	4.1%	3.4%	4.8%	4.5%	0.0%
		1600万円以上1800万円未満	2.3%	2.8%	1.9%	1.8%	0.0%
		1800万円以上	3.3%	2.3%	3.8%	4.5%	0.0%
	無回答	1.8%	3.4%	1.0%	0.0%	0.0%	
(10)	仕送り額(万円)	総数	394	177	105	111	0
		仕送りはしない	52.8%	47.5%	61.0%	53.2%	0.0%
		5万円未満	5.1%	4.5%	5.7%	5.4%	0.0%
		5～7万円台	13.2%	16.4%	6.7%	14.4%	0.0%
		8～9万円台	3.3%	4.0%	1.9%	3.6%	0.0%
		10～12万円台	12.2%	14.1%	8.6%	12.6%	0.0%
		13～14万円台	2.0%	2.3%	2.9%	0.9%	0.0%
		15万円台以上	5.8%	5.6%	8.6%	3.6%	0.0%
	無回答	5.6%	5.6%	4.8%	6.3%	0.0%	
(11)	授業料の負担予定	総数	394	177	105	111	0
		ほぼ全額を保護者が負担予定	85.3%	84.2%	83.8%	88.3%	0.0%
		一部をこ子女本人が負担予定(奨学金、アルバイトなども含む)	11.4%	11.3%	12.4%	10.8%	0.0%
		ほぼ全額をこ子女本人が負担予定(奨学金、アルバイトなども含む)	2.3%	2.3%	3.8%	0.9%	0.0%
		無回答	1.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%
(12)	奨学金の認知	総数	394	177	105	111	0
		日本学生支援機構(第一種奨学金)	68.5%	71.8%	64.8%	67.6%	0.0%
		日本学生支援機構(第二種奨学金)	61.2%	65.0%	59.0%	57.7%	0.0%
		日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)	12.7%	14.7%	12.4%	9.9%	0.0%
		地方公共団体の奨学金	20.6%	23.2%	16.2%	20.7%	0.0%
		民間奨学団体の奨学金	20.8%	22.0%	19.0%	20.7%	0.0%
		みがかずば奨学金	34.8%	37.3%	26.7%	38.7%	0.0%
		桜蔭会奨学金(3年生向け)	11.7%	10.7%	15.2%	9.9%	0.0%
		育児支援奨学金	5.1%	6.2%	2.9%	5.4%	0.0%
		入学料免除制度	31.5%	33.3%	24.8%	34.2%	0.0%
		入学料徴収猶予制度	20.3%	19.8%	18.1%	22.5%	0.0%
		授業料免除制度	32.0%	29.4%	28.6%	38.7%	0.0%
		授業料徴収猶予制度	18.3%	17.5%	19.0%	18.9%	0.0%
		知っているものはない	17.3%	15.3%	25.7%	12.6%	0.0%
			無回答	2.0%	2.8%	0.0%	2.7%
(13)	奨学金の希望	総数	394	177	105	111	0
		日本学生支援機構(第一種奨学金)	20.3%	20.9%	17.1%	22.5%	0.0%
		日本学生支援機構(第二種奨学金)	18.0%	19.2%	20.0%	14.4%	0.0%
		日本学生支援機構(緊急・応急採用奨学金)	2.0%	1.7%	3.8%	0.9%	0.0%
		地方公共団体の奨学金	6.1%	6.2%	7.6%	4.5%	0.0%
		民間奨学団体の奨学金	9.1%	9.6%	11.4%	6.3%	0.0%
		みがかずば奨学金	11.9%	13.6%	11.4%	9.9%	0.0%
		桜蔭会奨学金(3年生向け)	13.5%	11.3%	19.0%	11.7%	0.0%
		育児支援奨学金	1.0%	0.6%	2.9%	0.0%	0.0%
		入学料免除制度	5.8%	5.1%	8.6%	4.5%	0.0%
		入学料徴収猶予制度	2.0%	1.1%	1.9%	3.6%	0.0%
		授業料免除制度	10.2%	8.5%	12.4%	10.8%	0.0%
		授業料徴収猶予制度	2.3%	1.7%	2.9%	2.7%	0.0%
		希望するものはない	47.5%	45.8%	49.5%	47.7%	0.0%
			無回答	11.2%	11.9%	5.7%	15.3%
(14)	知っている学生寮	総数	394	177	105	111	0
		国際学生宿舎	47.0%	45.2%	43.8%	52.3%	0.0%
		お茶大SCC	54.1%	52.5%	47.6%	62.2%	0.0%
		小石川寮(大学院生向け)	29.9%	31.1%	24.8%	33.3%	0.0%
		知らない	42.1%	44.6%	45.7%	35.1%	0.0%
		無回答	1.0%	1.7%	0.0%	0.9%	0.0%
(15)	入寮を希望する学生寮	総数	394	177	105	111	0
		国際学生宿舎	18.0%	20.3%	12.4%	19.8%	0.0%
		お茶大SCC	14.0%	17.5%	14.3%	8.1%	0.0%
		小石川寮(大学院生向け)	3.0%	3.4%	2.9%	2.7%	0.0%
		特にない	73.1%	68.9%	81.0%	73.0%	0.0%
		無回答	3.8%	5.1%	1.0%	3.6%	0.0%

新入生調査 基礎集計表（保護者）3/3

			学部				
		総数	文教育学部	理学部	生活科学部	無回答	
	総数	394	177	105	111	0	
(16) 受験から入学までに困ったこと	子どもの体調や精神面のこと	59.6%	58.2%	61.0%	60.4%	0.0%	
	受験・入学のための費用準備	32.7%	38.4%	32.4%	24.3%	0.0%	
	受験・入学手続きのスケジュールの管理	44.2%	47.5%	41.0%	42.3%	0.0%	
	入学後の住まい探し	31.2%	36.7%	23.8%	29.7%	0.0%	
	その他	5.1%	4.0%	8.6%	3.6%	0.0%	
	無回答	7.9%	7.3%	5.7%	10.8%	0.0%	
(17) 心配なこと	総数	394	177	105	111	0	
	授業や単位	31.7%	32.8%	36.2%	26.1%	0.0%	
	就職や将来	45.7%	41.8%	53.3%	45.0%	0.0%	
	人間関係	46.2%	42.9%	45.7%	51.4%	0.0%	
	生活・経済面	33.0%	36.7%	29.5%	29.7%	0.0%	
	健康面	51.8%	50.3%	52.4%	54.1%	0.0%	
	日常生活全般	36.5%	36.7%	35.2%	37.8%	0.0%	
	その他	3.8%	5.6%	1.0%	3.6%	0.0%	
(18) 期待する学生支援活動	特になし	11.7%	13.6%	9.5%	10.8%	0.0%	
	無回答	1.3%	2.3%	0.0%	0.9%	0.0%	
	総数	394	177	105	111	0	
	経済的支援	23.6%	29.4%	16.2%	21.6%	0.0%	
	生活相談	28.4%	29.9%	25.7%	28.8%	0.0%	
	健康相談	29.4%	28.2%	32.4%	28.8%	0.0%	
	心理相談	29.9%	28.2%	28.6%	34.2%	0.0%	
	学習支援	58.6%	62.1%	63.8%	47.7%	0.0%	
(19) 両親の最終学歴・父親	進路相談	74.9%	74.6%	78.1%	72.1%	0.0%	
	就職支援	85.0%	89.3%	80.0%	82.9%	0.0%	
	課外活動支援	30.7%	29.9%	30.5%	32.4%	0.0%	
	その他	0.8%	1.1%	0.0%	0.9%	0.0%	
	特になし	0.3%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	
	無回答	0.5%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%	
	総数	394	177	105	111	0	
	中学・高校	7.6%	6.8%	8.6%	8.1%	0.0%	
(19) 両親の最終学歴・母親	高専	2.8%	2.3%	4.8%	1.8%	0.0%	
	専門学校・短大	5.6%	4.5%	7.6%	5.4%	0.0%	
	大学	61.7%	67.2%	55.2%	59.5%	0.0%	
	大学院	19.8%	17.5%	21.0%	21.6%	0.0%	
	無回答	2.5%	1.7%	2.9%	3.6%	0.0%	
	総数	394	177	105	111	0	
	中学・高校	10.2%	5.6%	14.3%	13.5%	0.0%	
	高専	1.3%	1.7%	0.0%	1.8%	0.0%	
[データ活用の許可]	専門学校・短大	36.3%	38.4%	38.1%	31.5%	0.0%	
	大学	48.0%	49.7%	42.9%	49.5%	0.0%	
	大学院	4.1%	4.5%	4.8%	2.7%	0.0%	
	無回答	0.3%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	
	総数	394	177	105	111	0	
	はい	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	
	いいえ	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
[個人情報登録の許可]	総数	394	177	105	111	0	
	はい	91.9%	90.4%	94.3%	91.9%	0.0%	
	いいえ	7.4%	9.0%	3.8%	8.1%	0.0%	
	無回答	0.8%	0.6%	1.9%	0.0%	0.0%	
	総数	394	177	105	111	0	
	[受験番号]	記入あり	99.7%	100.0%	99.0%	100.0%	0.0%
	記入なし	0.3%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	
	[お茶大入試方法]	総数	394	177	105	111	0
一般		72.6%	66.1%	78.1%	77.5%	0.0%	
推薦(帰国含む)・文教育学部		10.9%	24.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
推薦(帰国含む)・理学部		3.0%	0.0%	11.4%	0.0%	0.0%	
推薦(帰国含む)・生活科学部		2.5%	0.0%	0.0%	9.0%	0.0%	
AO		5.3%	5.6%	5.7%	4.5%	0.0%	
高校		2.0%	2.3%	1.0%	2.7%	0.0%	
編入		3.6%	1.7%	3.8%	6.3%	0.0%	
[回答者の続柄]	不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	総数	394	177	105	111	0	
	父親	21.1%	24.3%	18.1%	18.9%	0.0%	
	母親	78.4%	74.6%	81.9%	81.1%	0.0%	
	その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	無回答	0.5%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
人文科学科	環境問題や都市について興味があったため、人文科学科の地理学コースに進みたいと考えたから。
	興味がある分野であるため。
	興味のある分野に一番近かったから。
	興味のある歴史分野について詳しく学ぶことができるから。
	興味のわく科目が多かったからです。具体的にはオセアニア社会文化論、平和構築論、国際協力学、自然と人間、日本古代中世政治史です。
	グローバル文化学環に入りたいので文教育学部を志望し、その中で一番興味のある学部を受けました。
	グローバル文化学環を志望することができ、受験の条件が合っていたから。
	研究したいと考えている地理学を専門とするプログラムがあり、また、自分で第2、第3のプログラムを選ぶことができるから。
	後期日程で出願できる大学・学部・学科の中で、私が興味を持っている世界史の巨視的な見方を学べるのは、お茶の水女子大学文教育学部人文科学科しかなかったから。
	自分にとって受験に有利な試験内容であったため。また、受験を通して興味を持った地理学を学べるため。
	進学後に専攻するコースを選択できるから。
	人文科学科地理環境学プログラムの人文地理学分野に興味があり、ここで「地域」について多角度から学びたいと考えたからです。
	先生におすすめされたため。
	哲学か倫理学を学びたいから。
	哲学や宗教について高校の「倫理」の授業をきっかけに興味を持つようになり、大学でより深く学んでみたいと思ったため。
	美学、美術史を学び学芸員の資格を取得したかったから。
	美術史学を学びたかったから。
	美術史と哲学に興味があったため。
	美術史を学びたかったからです。
	文化や歴史等を深く学びたいと思っているから。
	学びたい分野があったから。
	学んでみたい分野の専攻があり、研究されている内容に興味があったから。
	留学など学習環境が整っているから。
	歴史学に興味があるから。
	歴史学を選考したかったから。
	歴史に興味があったため。
	歴史の勉強がしたいから。
	歴史や哲学について深く学びたいと思ったため。
	歴史を学ぶため。
	・学びたいものが学べる学部。 ・学科だったから。
	幅広く文系の学問ができると思ったから。
言語文化学科	外国語を学びたかったから。
	英語が好きだから。語学に関わりたいから。
	英語が好きなので、英語を学びたかったから。
	外国の文化や言語に興味を持ったから。

追加質問票自由記述「専門（学科）を選んだ理由」2/9

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
言語文化 学科	外国の文化を学びたいと思ったから。
	興味のある語学が学べるから。
	興味のある分野だったから。
	近現代文学まで幅広く学びたいから。
	グローバル文化学環に入りたかったので、学科の定員が多いこの学科を選びました。
	言語・文化についてもっと深く知りたいと思ったし、興味もあったから。
	言語学を学びたいと思ったから。
	言語に興味があるから。
	言語について興味があり、深く学びたいと考えたから。
	言語について専門的に学びたいと思ったから。
	言語についての研究が高いレベルで行えるから。
	言語の勉強をすることに興味・関心があったから。
	言語やそれに関する文化を学びたいと思ったから。
	ことばに興味があったから。
	様々な国の言語・文化に興味があったから。
	社会学系に興味がありましたが、自分の入学試験に対する実力、センター試験の結果を鑑み、また、お茶の水女子大にこだわりたいという意志、英語を勉強することへの興味などから、最終的には言語文化学科を選択しました。
	日本語教師に関心を持っており、日本語について深く学びたいと考えたから。
	日本文学に興味があり、深く学びたいと思ったから。また、もともと語学にも興味があり、言語文化学科はどのコースも楽しく学べそうだったと思ったから。
	日本文学について、多くの事を学びたいと考えたため、言語文化学科を志望致しました。文学の持つ価値について、より深く探求していきたいです。
	日本文学を専門的に学びたかったから。
	日本文学を学びたかったから。
	幅広い時代の日本文学を学びたいと思い、言語文化学科の日本語・日本文学プログラムを受けたいと思ったため。
	もともと文学が好きで文学が学べる学科を目指していたが、自分が日本語そのものにも興味があることに気付いた。さらに、素晴らしい作品に出会った時にその感動を言葉にしたいとも思うようになった。これらのことが言語文化学科のアドミッションポリシーに書いてあったから。
	英語を学ぶことが好きで、多くの言語や文化に興味があるから。
	国語が好きで日本文学に興味があるため、その分野をより深く学びたいと思ったからです。
	私は将来大学教授になってジェンダーの歴史を研究したいと思っています。そのためには、昔からの書物を研究することが必要で、高校の時から古典が好きだったこともありお茶の水女子大学の文教育学部言語文化学科を志望しました。
	世界の言語や文化に興味があり、視野を広げることが出来ると考えたため。
	日本文学の勉強がしたかったから。
	外国語、国際交流、多文化共生など大学入学後に学びたいと考えていることができる環境が充分にあるから。
	外国の言語文化に興味を持っていたから。語学や文学に加え、ファッションや社会についても幅広く学ぶことができるから。

追加質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 3/9

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
言語文化 学科	言語学に興味があったから。
	言語について興味があったから。
	言語について学ぶことは将来において役立つと思ったから。
	国文学を学びたかったから。国語科の教員免許が取れるから。
	コミュニケーション能力を高めるため。
	これから、AI などが発達していく中で、人間にしかできない強みは何かを考えて、それは、様々な人の考えを本や文章から学び、教育についても考えることだと思い、文教育学部が最適だと思った。さらに、将来、文章を作る仕事に興味があり、言語について深く学びたいと思ったから。
	中学生の時からお茶の水女子大学にあこがれていて、大学の学科を比較したときに 1 番興味を持った学科だったから。
	日本語や日本文学、特に中古の文学について深く学び、中学・高校の国語教師となるための学習をするため。
	日本文学を学びたかったため。
	日本文学を学びたかったから。
	自らが学びたいことを学べると感じたため。
人間社会 学科	高校の授業で、絵本が子供に与える影響について研究したことがきっかけです。様々な視点から“教育”についてアプローチし、学びを深めていきたいと思い、人間社会科学科を選考しました。
	・小学校の教員を目指せるから。 ・教育学を深められるから。 ・その学科の授業を受けたかったから。
	教育について深く学びたいと思ったから。
	ジェンダーや教育、福祉などの分野に興味があるので、それらに広く触れられる社会学を学びたかったから。
	社会学に興味があり、学びたいと思ったから。
	将来メディア関係の仕事に就きたいと考えており、必要な知識やスキルを身につけたいと思ったからです。
	学びたい学問である社会学が学ぶことができるから。
	教育学を学ぶ中でも、教員免許を取るのを最終目標にするのではなく、学問そのものを深く学びたかったから。
	社会学と心理学のどちらにも興味があった為。
	将来出版社で絵本関係の仕事がしたいという夢があるので、それに役立つように教育学が学べる人間社会科学科を選びました。
	特に社会学で学びたいから。
	貧困やジェンダーの問題に興味があったため。
	教育について深く学び、小学校教員になる資格をとりたかったため。
	高校での課題研究活動を通して、教育が社会に及ぼす影響や開発学に興味をもったため、教育科学コースのある人間社会科学科を選びました。
	社会学と幼児教育が学べるから。
	社会学に興味があったから。
	社会学に興味があるから。
	人間科学という学問に興味をもち、国立大学でそれを学ぶことができる学科だったから。
	人間や教育に興味があった。
	幅広い視点で人間について学びたいと思ったから。

追加質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 4/9

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
芸術・表現行動学科	自分のやりたい分野を扱っているから。
	音楽と勉強どちらも学びたかったから。
	バレエを習っているから。
	学びたい分野を追究できる環境がそろっているから。
	舞踊についての専門的な知識を身に付けたいと思ったから。
	舞踊を実践と座学を通じて学ぶことができることが魅力的だったから。
	4歳からバレエを習っており、将来は舞踊に携わる仕事に就きたいと考えているから。
	踊ることが好きで、舞踊を理論と実践の両方から学びたいと思ったから。
	音楽を専門的に学びたかったから。
	小さい頃からクラシックバレエを習っており、踊るときに骨や筋肉の使い方を知ることの重要性を感じるようになった。また、バレエ以外の踊りを学びたいと思い国立で唯一舞踊の専門コースがあるお茶の水女子大で実技と理論の両方で舞踊を学びたいと思った。
	内容に魅力があったから。
	ピアノも勉強したかったから。
	舞踊について学びを深めることができる、舞踊学の専攻コースがあるため。
	幼少からピアノを習い、中学・高校で吹奏楽部に所属したことから、音楽に対してより深い学びをしたいと考えたから。
数学科	数学が好きだから。
	将来性が高いから。 学ぶ分野が幅広いから。 理系教科は好きだから。
	お茶大の数学科は少人数のため先生に対する生徒の比率が低くよりしっかりした指導が受けられそうだったからです。あとは数学が好きだからです。
	興味があったから。
	さらに深く数学を学びたいと思ったから
	数学がおもしろかったから。
	数学が好きでもっと学びたいと思っているから。
	数学が得意科目であり、数学についてより深く学べると思ったからです。
	数学教師になりたかったから。
	数学という科目は難しく、最初は馴染みにくかったので心配をしていました。けれど勉強を進めていくにつれ、問題が解けた時、綺麗に答案を書けた時に嬉しくなって数学が楽しいと思い始めました。そう思い始めてから受験日までそう長くはなかったのもっと数学をじっくり時間がある状態で考えたい、もっと未知の世界を知りたいと思い数学科を選びました。今はどんなことをするのか、どんな問題を考えるのか、教えて頂くのかという楽しみな気持ちでいっぱいです。
	数学を深く学んでみたいと思ったから。
物理学科	自分の得意な分野を深く学べると思ったから。
	高校時代に勉強しているうち、物理学に興味を持ったから
	高校の先生にすすめられたことと、自分が将来やりたいと思うことにつながると思ったから。
	子供の頃から理科に興味があり、高校で学んだ物理学が面白かったから。
	センター試験の得点。
	物理が好きだったため。
	物理が好きで、大学でも深く学びたいと思ったから。
	宇宙について研究している研究室があったから。
	将来就きたい仕事のことを考えた。物理に興味がある。

追加質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 5/9

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
化学科	化粧品などの開発に興味があり、将来必要なスキルを身につけることができる学科であると思ったから。
	化学が1番好きな科目だったので、勉強を続けるため。
	化学が一番好きでさらに学びたいと思ったから。
	化学が一番得意だったから。
	化学が好きだから。
	化学技術を扱う仕事がしたいから。
	化学に興味があり、お茶の水女子大学の少人数の環境で深く学びたいからです。
	化学に興味を持ったため。
	化学分野に興味があり、深く学びたいと思ったため。
	化学を専門としたいと思ったから。
	化粧品系の会社に就職したかったから。
	高校での学習を通して材料工学に興味をもったから。また、学風が気に入ったから。
	高校の授業で化学に興味を持ち、学びを深めたいと思ったから。
	将来、化粧品関係の仕事に就きたいと思ったから。
	とにかく化学の実験が好きで、また化学は身の周りの現象の原理と深く結びついており、それを知ることがとても楽しいから。
	勉強していく中で、化学が一番おもしろいと感じたので、化学科を選んだ。また、物理もっとやってみようと思っていたところ物理・化学の学際プログラムがあることを知り、自分の興味と一致していたので理学部の化学科にすると決意した。
	元から化学に興味があったが、受験勉強をしていくにあたり、徐々にその気持ちが大きくなったから。
	国立大学の化学系学科の中で難易度が自分に合っており、学校の雰囲気も良かったから。
生物学科	就職先が自分のつきたいような会社が多かったから。
	少人数制であり、授業や実習の内容が充実していると思ったから。
	生物学に興味があり専門的に学んでみたいと思ったため。
	理系の進路に進みたいと考えていたが、その中で生物の分野に一番興味があったため。
	生物が一番好きだったことと、以前希望していた農学部に近い内容が学べると思ったから。
	浪人期間中、医学部を志望している中で生物学に興味を持ち、万が一の他学部として考えていた。
	興味があったから。
	研究内容が面白そうだったから。
	高校で生物の授業を受け、植物に関することを勉強したいと思ったため。
	高校の授業で生物がおもしろいと思い、大学でさらに深く学びたいと思ったから。
	生物学を学びたかったため。
	生物が好きだから。
	生物にとっても興味があり、将来も必要とされる学問であると思うから。
	人間や動物の行動を、脳科学を通じて研究してみたいと思ったから。
	幅広く生物を学ぶことが出来、実習等も充実していたため。

追加質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 6/9

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
情報科学 科	数学や情報分野に興味があったため。
	・分野の興味。 ・試験科目、配点。
	一番関心があったから。
	オープンキャンパスで見た CG の講義に感銘を受け、情報科を目指そうと思いました。
	興味があったから。技術を身につけたいと思ったから。
	後期入試で比較的枠が多かったのも、もともと多少は興味がある分野だったから。
	個性を尊重してくれる大学であり、学びたい分野だったから。
	コンピュータグラフィックに興味があるから。現代の情報社会で使われている技術に興味があるから。
	自分が学びたいこと（プログラミングや人工知能など）について学べると思ったから。
	情報系に興味があったから。
	情報に興味があり、少人数での授業及びカリキュラムに魅力を感じたため。
	将来、情報系に進みたいと考えていたから。
	将来性を感じたから。
	将来就きたい職業と関連したスキルを身につけられると思ったから。
	将来役に立ちそうだったから。
	プログラミングをできるようになればいいなと思ったから。
	就職のよさ。少人数であること。
	情報科学に興味があったから。
	情報科学に興味があったから。
	情報分野に興味があったから。
	一番興味のある学科だったから。
	お茶の水女子大学にどうしても入学したかったので興味というよりもセンター試験の自己採点をふまえて選びました。
	これからの時代は情報科学が必要だと思ったから。
	情報科学に興味があり、これからの社会で必要とされる分野であると思ったから。
	情報系に興味があったため。
	将来、情報系の仕事に就きたいから。
	数学が好きなのと、情報分野に興味があったからです。
食物栄養 学科	調理科学が学べるから。
	・栄養士の資格がとれるから。 ・職に興味があったから。
	・食に関する研究がしたいと思ったから。 ・管理栄養士の資格を取りたいから。
	医療と生物に元々興味があり、その2つができる学科だったから。
	栄養学が学べる。
	管理栄養士の国家試験受験資格を取得することができるから。
	管理栄養士を目指しているから。
	高校の栄養学の授業に興味をもち、管理栄養士を目指しているから。
	国立で栄養系の勉強ができるから。
	将来、管理栄養士になりたいと考えているから。
	将来就きたい職業に必要な資格を取得することができるため。
	食品について興味があり、将来は食品関係の仕事につきたいと考えている。食物栄養学科は様々な角度から食品について学べるとパンフレットで読んだので、志望した。

追加質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 7/9

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
食物栄養 学科	食品ロスの問題を栄養学の観点からアプローチして解決し、「食」を通じて人々を幸せにしたいから。
	食物の勉強をしたいから。
	食べる事、そして化学が好きだったため、科学的な観点から職について学びたかったため。
	食べる事が好きで、将来食を通じて笑顔になることができる社会づくりに貢献したいと思ったから。
	中学1年生のとき栄養失調となってしまった経験から。食物にどのような栄養があり、その栄養が身体にどのように影響を及ぼすのかについて興味を持ち始め、食物の栄養について分子レベル、遺伝子レベルまで深く研究したいと思うようになったから。
	中学3年生のときに食物栄養学科の存在を知り、強く興味を持ったからです。調べていくうちに、私の大好きな”食”を通して人の役に立つことができる管理栄養士の仕事に魅かれていきました。
	人間の生活を豊かにすることに興味があり、その中で職は基本だと思ったから。
	両親共働きであったため、自分でご飯を用意する機会が多く、高校生になってからはお弁当を自分で作っていたこともあり、食への関心が強く、食品に関する研究をしたいと思ったから。
	料理や食物を科学的に分析することが、小さい頃から好きで、食物について学び、自ら研究したいと考えた。そこで少人数できめ細かな指導が受けられ、魅力的な授業が受けられるお茶の水女子大学を選んだ。
	管理栄養士になりたいから。
	食物栄養に興味があったため。
	専門分野の学びを深められると思うから。
	食べることが大好きで、大好きな食物について学びたいと思い、食物について深く学べるところに魅力を感じました。
	昔から食べることが大好きで、食関係の仕事に就きたいと思うようになり、食に特化した専門的なことが学べることに加えて、私は調理も好きなので調理実習があることにも魅力を感じ、この学科に決めました。
	元々食に興味があり、高校では海外に何度か行く機会があり海外の食文化に触れ、大学では食に関する勉強をしたかったから。
	やりたいことができそうだったから。
人間・環 境学科	環境工学・自然人類学に興味があったため。
	建築の分野を学びたかったことと、オープンキャンパスの学科説明の際に「身近な問題の解決に取り組む」という言葉を聞いて、興味を持ったため。
	進路が決まっていなかったから。
	色々なことを学べるから。
	オープンキャンパスに行った時に魅力を感じたから。
	オープンキャンパスに参加した際に、興味のある研究をしていらっしゃる方がいたため。学科の雰囲気が良さそうであったため。
	科学的な視点から生活を豊かにする方法を模索するという学部の説明に魅力を感じた。学習したことを生活に活かしたいという思いがずっとあった。特に、住環境において興味が強かった。
	環境科学に興味があったから。
	建築を学びたいと考えていたが心理や福祉の問題についても取組みたいと思っていたため、生活科学部人間環境科学科が自分に合っていると思ったから。
	自分がやりたいことに合っていると思ったから。
	自分の興味のあることを勉強する学科だったから。
	少人数制度が自分に合っていると思ったから。
	たまたまパンフレットを見て面白そうだったから。

追加質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 8/9

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
人間・環境学科	人が実際に利用する物について、色々学べるから。
	人の暮らしが良くなるためにどうすべきかを追究できる学科だと思ったから。
	学べる内容と自分の興味が一致したから。
	もともと食物栄養学科を志望していたが、センター試験で点数が足りなかったため。
	理科が好きなので、もっと深く学びたいと思ったことと、社会をより良くしたり、実際に人の生活に関わることを勉強したいと思ったから。
人間生活学科	いろいろなことを学べると聞いたから。
	やりたいと思っていた保育学が含まれていたから。調べていくうちにその学科の内容に非常に興味をもったから。
	家政学部的なところに行きたかった。特に服飾に興味があるから。
	学びたい科目が全てあり、履修できると知ったから。
	貴大学の大学案内を読み、「一つの方向からではなく多角的に問題に取り組む」というこの学科の特徴に魅力を感じたから。
	興味があることを幅広く学習できるから。
	私が学びたいと思っている分野が国立大の中では貴校にしかなかったから。
	自分が学びたい事とあっていたから。
	自分の学びたいことが学べ、また、将来が狭くならないと思ったから。
	社会学を学ぶことができるから。
	社会学を幅広く学ぶことができるから。
	1つの問題に様々な学問からアプローチすることに興味があったから。
	あまり将来につきたい職業などが決まっておらず、幅広い分野を学べる学科が良いと思ったから。
	以前からファッションが好きで服飾史を学ぶことに興味があった。服飾史を重点的に研究している大学は全国的にも少なかつたためお茶の水女子大学でこの学科を選ぶことになった。
	興味があったから。
	国立大学で服飾を学べるところは非常に限られており、その中でも一番自分に合っていて行きたいと思えたから。
	国公立大で文系だけど、デザインやインテリアについて学べる学科だったから。
	ジェンダーを学びたかったため。
	自分が興味あることについて学べるから。
	自分の身の周りの諸問題を考えたり、学んだりしたかったので、社会学系の学科を希望していた。人間生活学科では、様々な分野の勉強ができることが魅力的だった。
	社会福祉や社会保障について、学際的に学ぶことができ、将来なりたい自分に近付くことができると考えたから。
	生活に関わる社会科学を学びたかったから。
	生活にかかわる問題を多角的に学べるから。家族社会学、家族関係論が学べるから。
	その分野に興味があったから。
	多角的な視点から社会を学び、問題解決をしていきたいと思ったから。
	身のまわりの問題について広い視野で考えてみたいと思ったから。様々なことに興味があるので、幅広く学べることに魅力を感じた。

追加質問票自由記述 「専門（学科）を選んだ理由」 9/9

入学学科	お茶の水女子大学で入学する学科を選んだ理由をお書きください。
人間生活 学科	興味があり、将来の役にも立ちそうだから。
	広く身近な生活における社会科学を学びたいと思ったから。
	将来になりたい職業が決まらず。学びながら将来についても考えることができるとの卒業生の声を参考にし、選びました。
	生活に関わる幅広い内容が学べると思ったから。
	他に興味がなかったから。
心理学科	心理学を学ぶことが将来の夢の実現につながると考えたから。
	興味があったから。
	興味があるから
	これからの社会に必要な知識だと考えたから。人の心理に興味があったから。
	自分や相手のことをもっと理解するための心の研究に興味を持ったから。
	商品開発に興味があり、消費者心理などの面から学びたいと考えていたから。
	将来子どもの支援に関わりたいと考えており、そのために心理学を学びたいと考えたから。
	将来のつきたい仕事の役に立つから。
	心理学に興味があったから。
	心理学に興味があり、家から通える国立大学で心理学を学べるのがお茶大だったから。
	心理学に興味を持ったから。
	心理学を勉強したかったから。
	心理学を学びたいと思っていたから。
	漠然と理解している自他の心のプロセスを裏付けるものが欲しかったから。
	幼い頃から心理に対する興味があり、高校での興味のある分野を学習する授業で少し深く知れたことでより学びたくなったから。

令和2年度 新入生の生活に関する調査報告書

発行日：令和3年3月

発 行：国立大学法人 お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター
東京都文京区大塚2-1-1

TEL 03-5978-2646

FAX 03-5978-5894

E-mail gakusei@cc.ocha.ac.jp
